



2017年下期の業種別部会長シンポジウム

**SIMPÓSIO DOS PRESIDENTES DOS
DEPARTAMENTOS SETORIAIS**

CÂMARA DE COMÉRCIO E INDÚSTRIA JAPONESA DO BRASIL

HomePage: www.camaradojapao.org.br / E-mail: secretaria@camaradojapao.org.br

前半司会

小池 淳介 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral**

Junsuke Koike

挨拶

松永 愛一郎 会頭

Palavras do Presidente da Câmara:

Aiichiro Matsunaga

金融 部会

栗原 裕二 部会長

Departamento Financeiro

Presidente: Yuji Kurihara

2017 年上期の回顧と下期の展望
～回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は～

2017年8月24日(木)

2017 年上期の回顧と下期の展望

- | | |
|-------------|----|
| 1. ブラジル経済動向 | 2 |
| 2. 銀行業界動向 | 16 |
| 3. 保険業界動向 | 20 |

1. ブラジル経済動向

検察省がテメル大統領を起訴

- ・ 食肉加工大手のJBS社の幹部が検察との司法取引を行い、テメル大統領が汚職に関与していると証言。証拠として、大統領が同氏に対し、収監中のクーニャ元下院議長への口止め料の支払いを促したとされる会話を録音したテープを最高裁に提出。
- ・ 検察省のジャーノ判事は大統領を“収賄容疑”で起訴。その後、下院本会議にて起訴内容に関する議決が行われたが、結果は、起訴反対263票・賛成227票で否決。
- ・ 但し、ジャーノ判事は追加での起訴も視野に入れていることから、年金改革法案可決に向けた今後のスケジュールに遅れが生じる可能性が高い。

労働法改正案可決

- ・ 7月11日、上院にて労働法改正案が賛成50票・反対26票で可決。テメル大統領は、本法案可決により、労使関係はより柔軟になり、生産性は向上するとし、ブラジル経済回復の一翼を担うことになる」と強調。

年金制度改革

- ・ 5月3日、下院特別委員会にて改正案が承認。上下両院で其々2回の承認を必要とするため、労働法案よりも時間を要す見込み。
- ・ 政府は年内までの法案可決を目指しているものの、政権支持基盤は弱体化しており容易ではない。

インフレ見通しの大幅な低下を受け、政策金利引下げ

- ・ 中銀Focusレポート(2017年8月11日付)によると、17年末のインフレ率(IPCA)予測は3.50%まで低下。(参考: 2016年2月15日付予測: 6.00%)
- ・ インフレ見通しの大幅な低下を受け、7月26日の金融政策委員会(COPOM)にて、政金利(Selic)は9.25%に引下げ決定。1桁台にまで低下した政策金利であるが、市場は、年末までに7.50%程度まで低下すると予想している模様。

ソブリン格付見直し引き下げ

- ・ 大手格付機関Moody'sは、5月のJBSショックを機に、格付見直しを「ネガティブ」に引下げ。
- ・ 一方で、8月15日、S&Pは格下げの可能性を示す「クレジット・ウォッチ」を解除。格付見直しを正式に「BB」に据え置くことを決定。

	2016年末		2017年3月		2017年5月	
S&P	BB	ネガティブ	BB	ネガティブ	BB	ネガティブ
Moody's	Ba2	ネガティブ	Ba2	安定的	Ba2	ネガティブ
Fitch	BB	ネガティブ	BB	ネガティブ	BB	ネガティブ

主要マクロ経済指標の推移と予測

金融部会

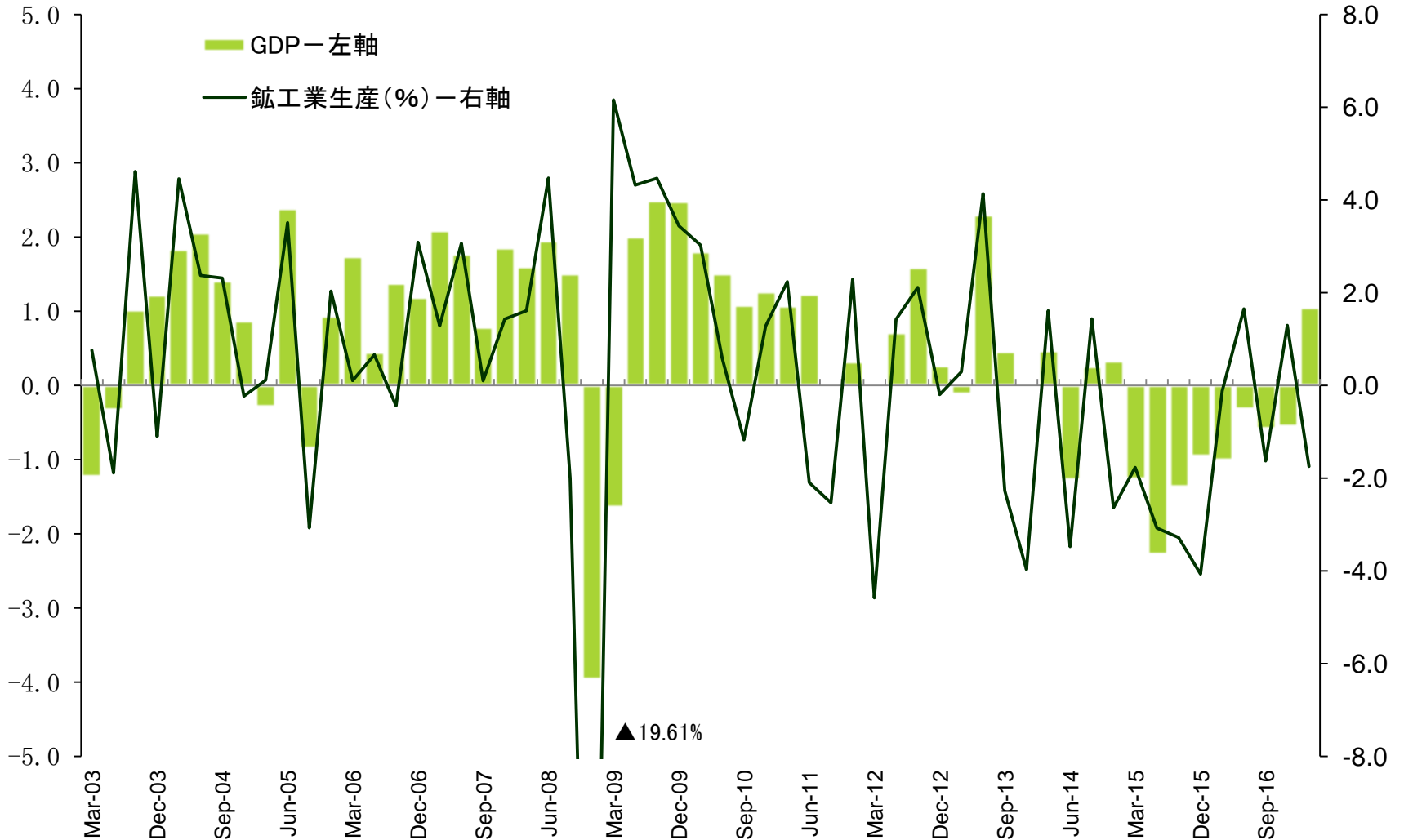
		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 予測
GDP成長率(%)		1.9	3.0	0.1	▲3.8	▲3.6	0.3
名目GDP	(BRL/10億)	4,806	5,316	5,521	5,904	6,266	N.A.
	(USD/10億)	2,459	2,464	2,345	1,769	1,799	N.A.
貿易収支(USD/10億)		19.4	2.3	▲4.1	19.7	47.7	61.0
小売売上動向指数(%)		8.4	4.3	2.2	▲4.3	▲6.2	N.A.
基礎的財政収支(BRL/10億)		105	91	▲33	▲116	▲154	▲155
株価【BOVESPA】(ポイント)		60,952	51,507	50,007	43,350	60,227	N.A.
政策金利【Selicレート】(%)		7.25	10.00	11.75	14.25	13.75	7.50
インフレ率【IPCA】(%)		5.84	5.91	6.41	10.67	6.29	3.50
為替レート(リアルドル)		2.0516	2.3621	2.6576	3.9608	3.2552	3.25

出所：ブラジル中央銀行、Focus(2017年8月11日実施)、IBGE、Bloomberg

GDP成長率・鉱工業生産推移(四半期ベース)

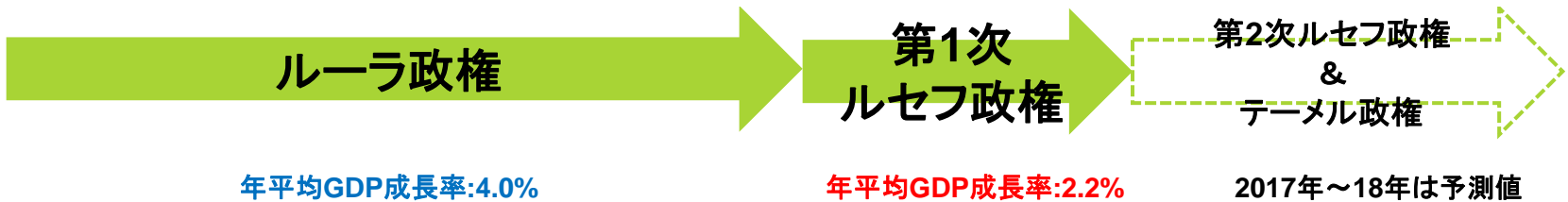
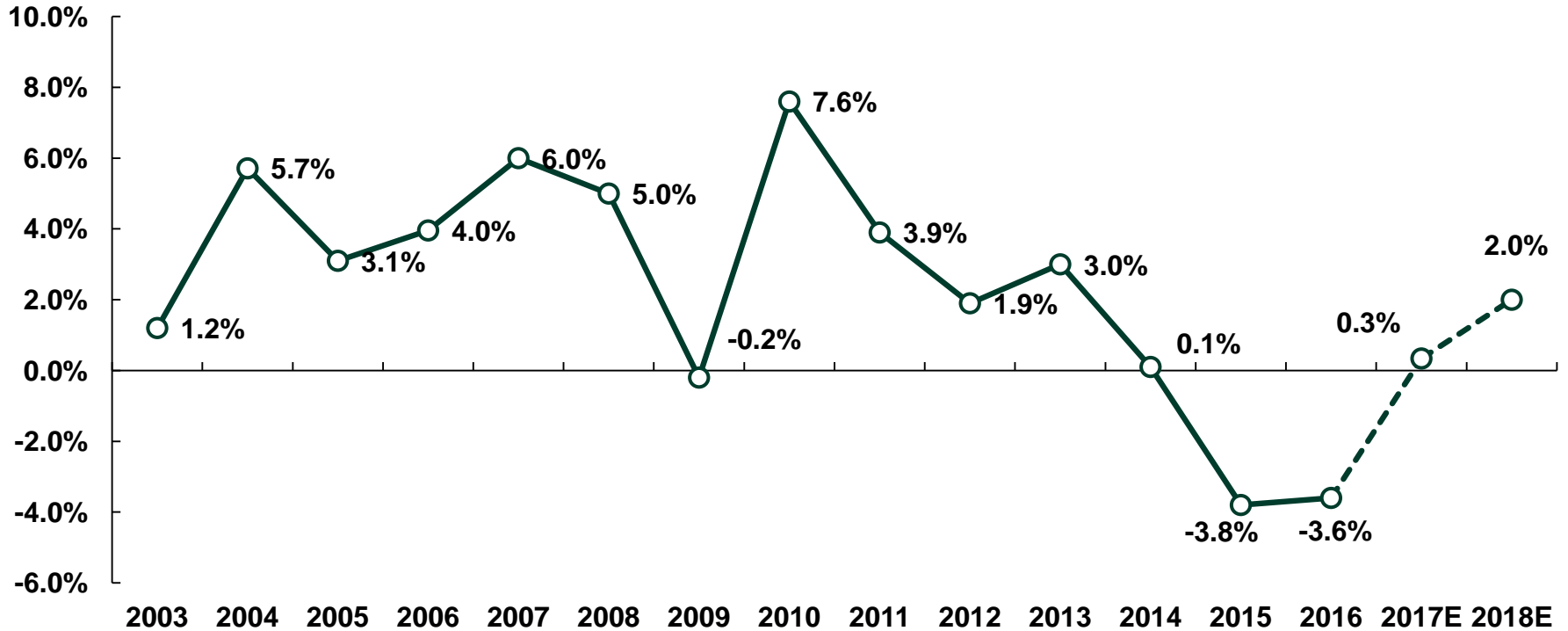
前期比(%)

前期比(%)



出所: Bloomberg

GDP成長率推移



年平均GDP成長率:4.0%

年平均GDP成長率:2.2%

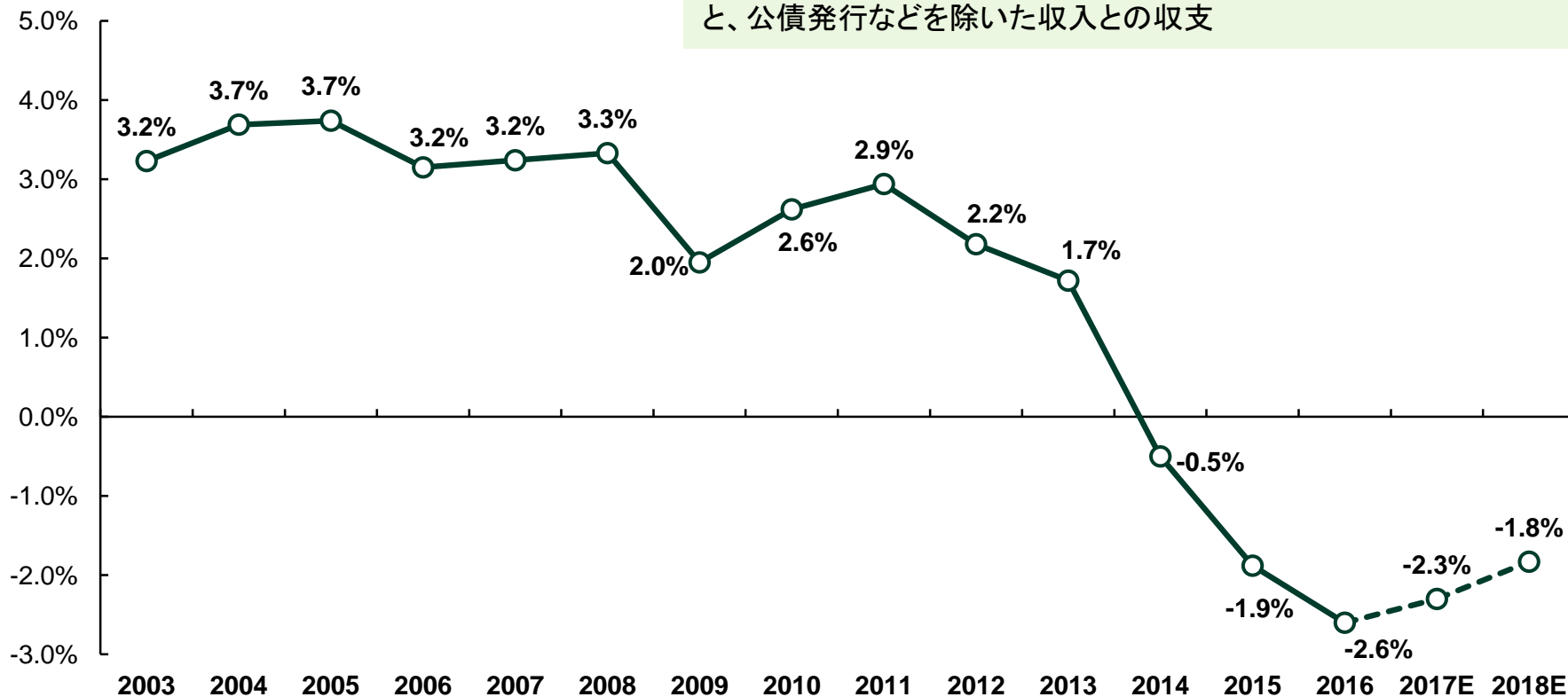
2017年～18年は予測値

出所:各種資料に基づき、ブラジル三井住友銀行作成

基礎的財政収支(対GDP比)

基礎的財政収支

政府会計において、過去の債務に関わる元利払い以外の支出と、公債発行などを除いた収入との収支



ルーラ政権

第1次
ルセフ政権

第2次ルセフ政権
&
テメル政権

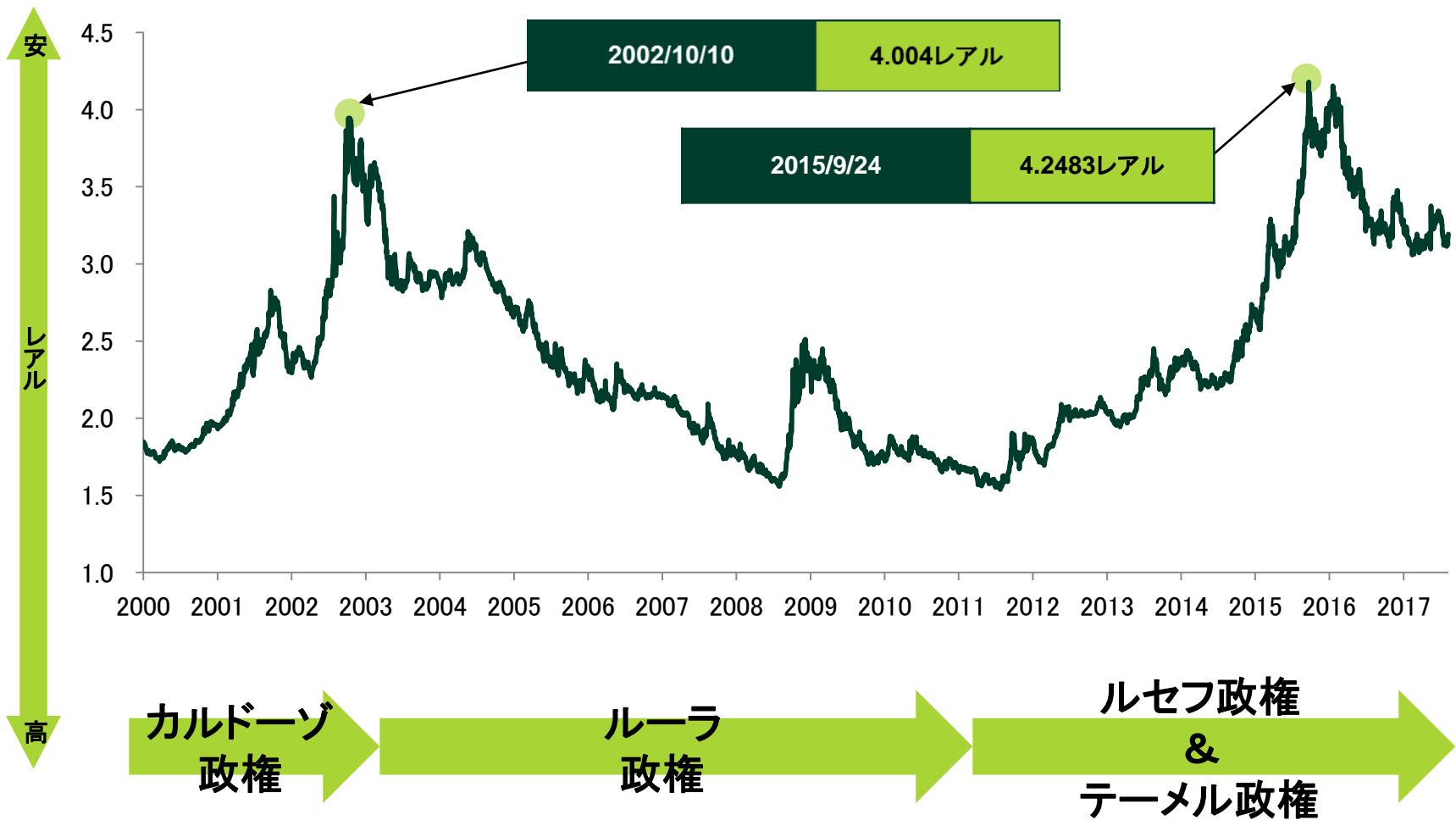
2017年~18年は予測値

出所:各種資料に基づき、ブラジル三井住友銀行作成

為替推移(ドル/リアル)

2000年1月から2017年8月11日迄

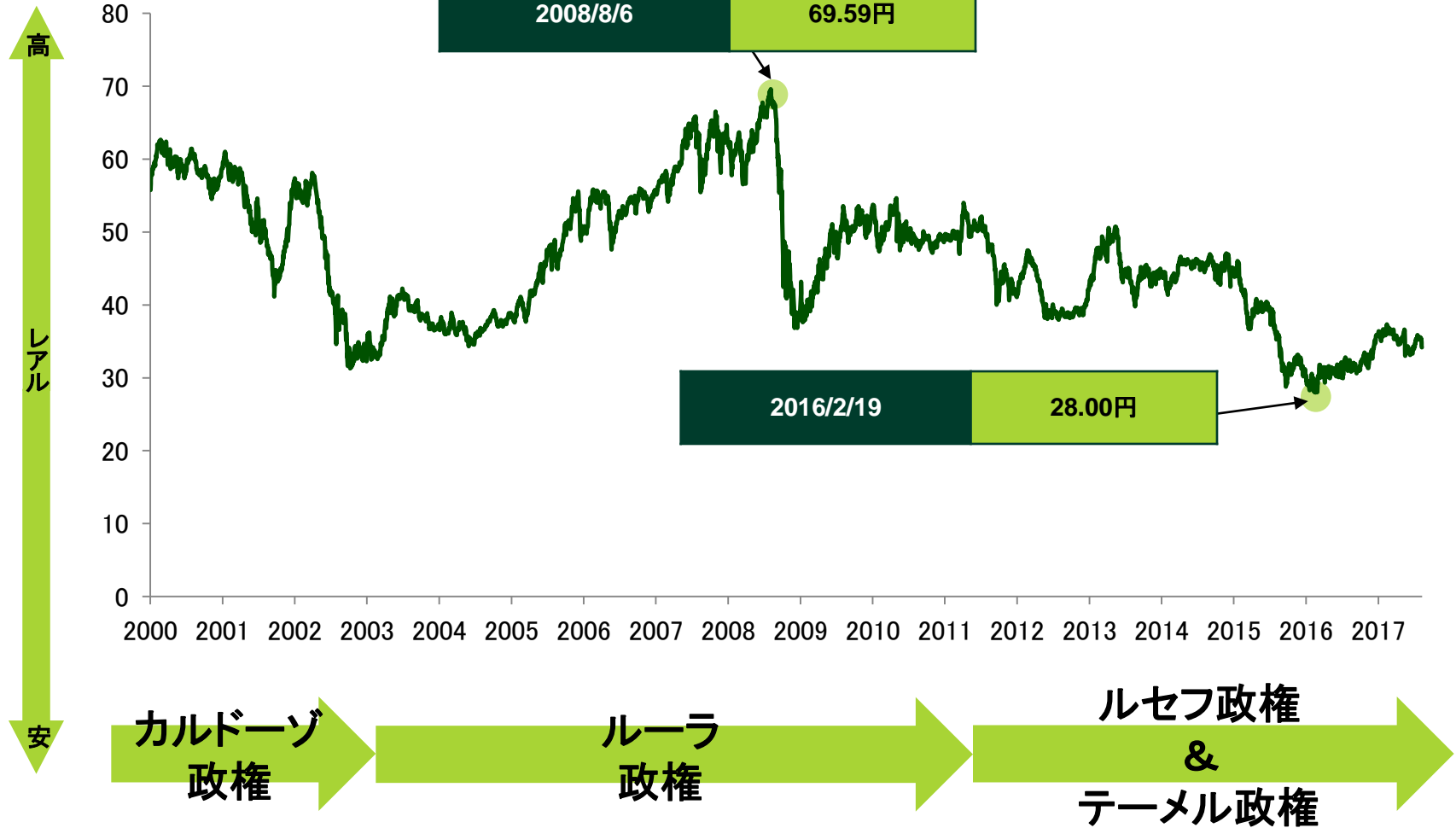
(リアル/ドル)



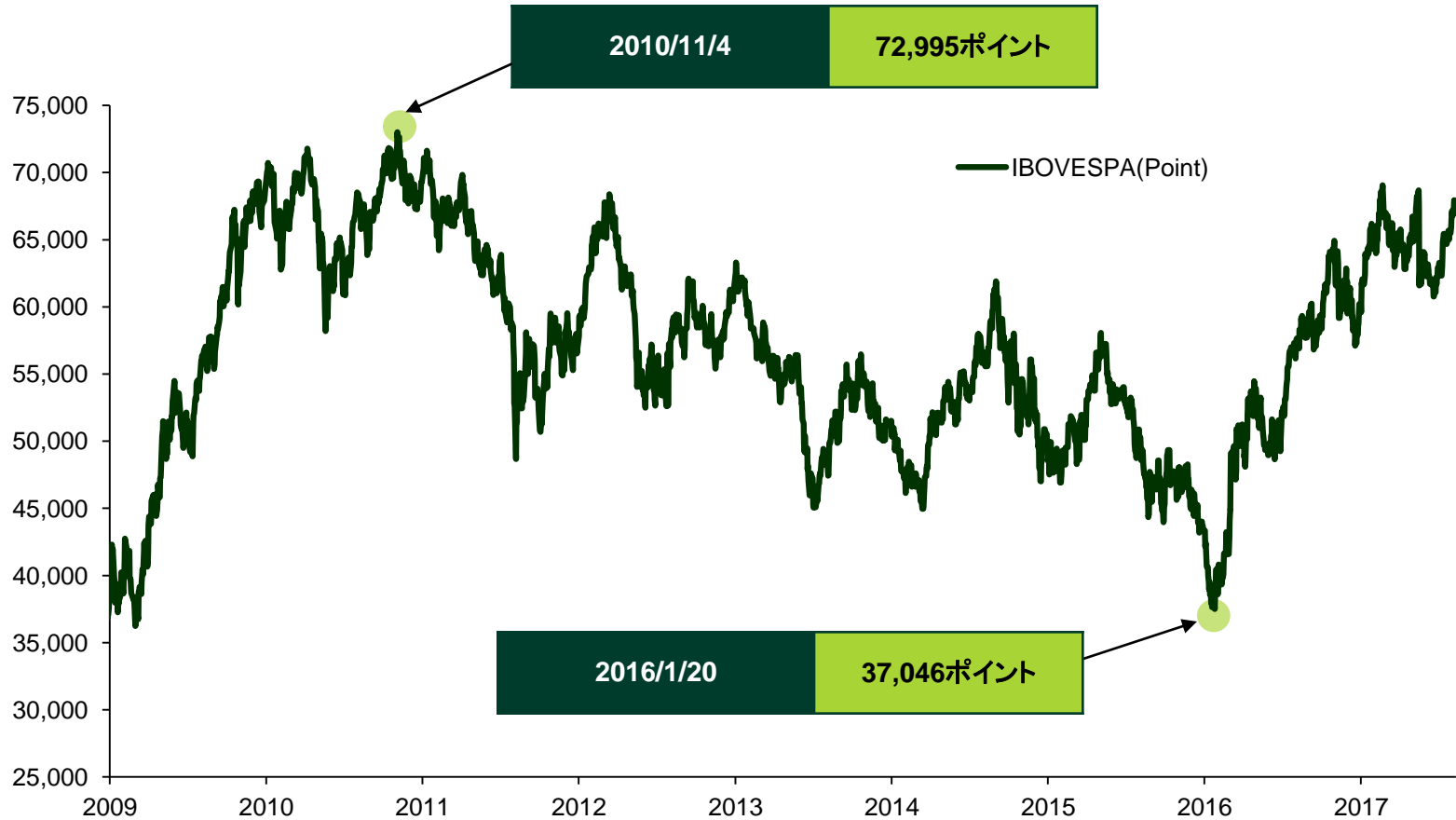
為替推移(リアル/円)

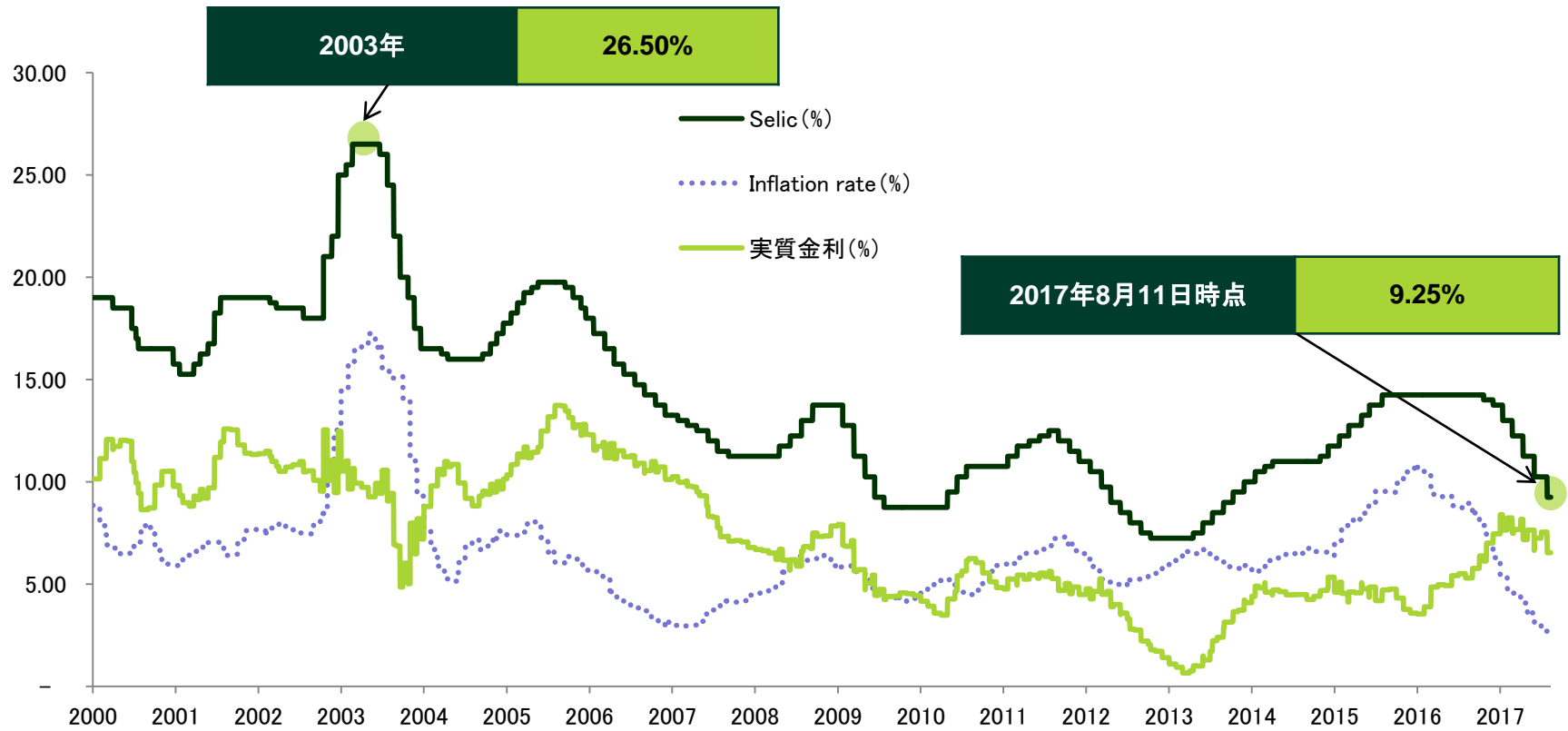
2000年1月から2017年8月11日迄

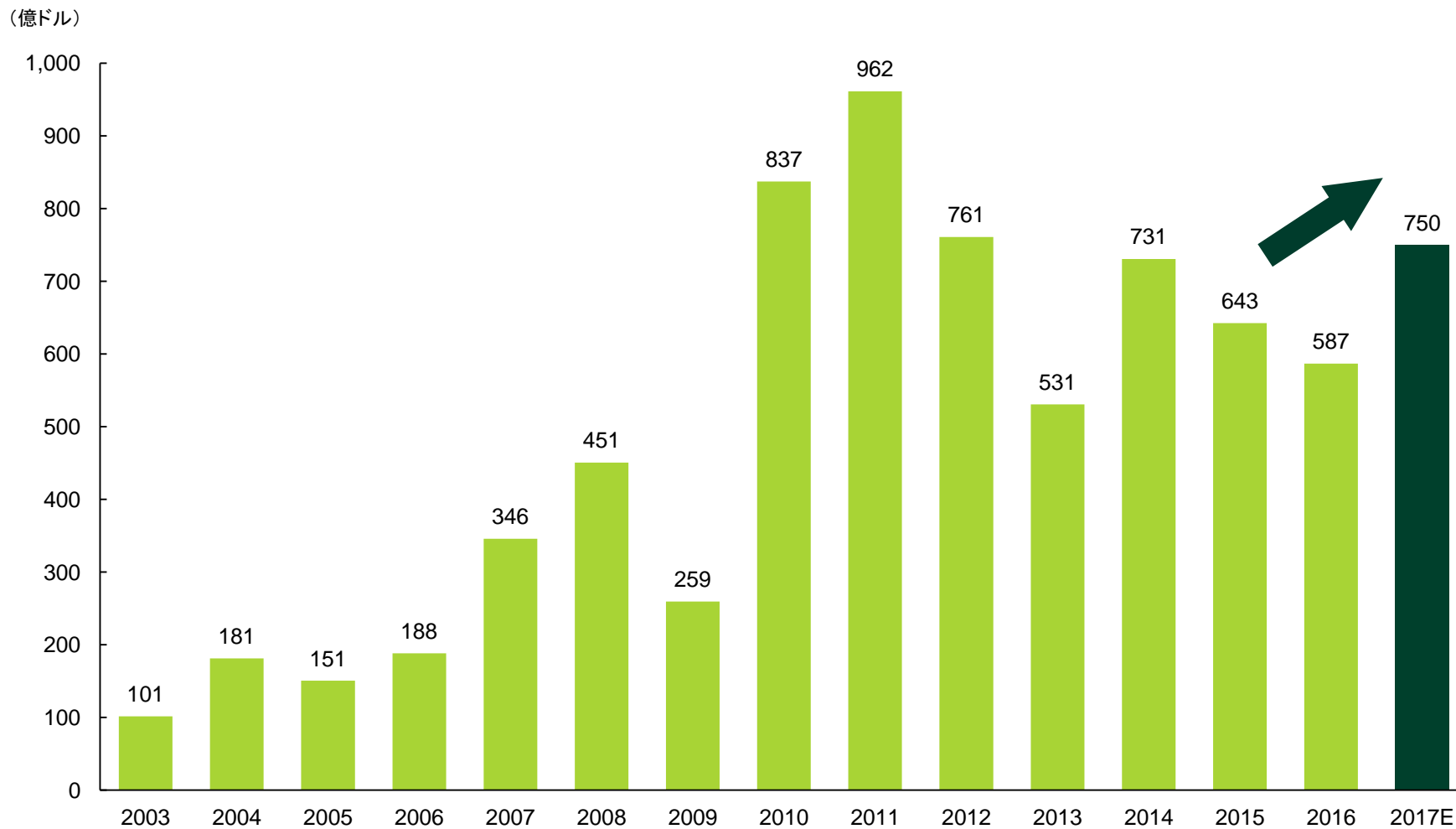
(リアル/円)

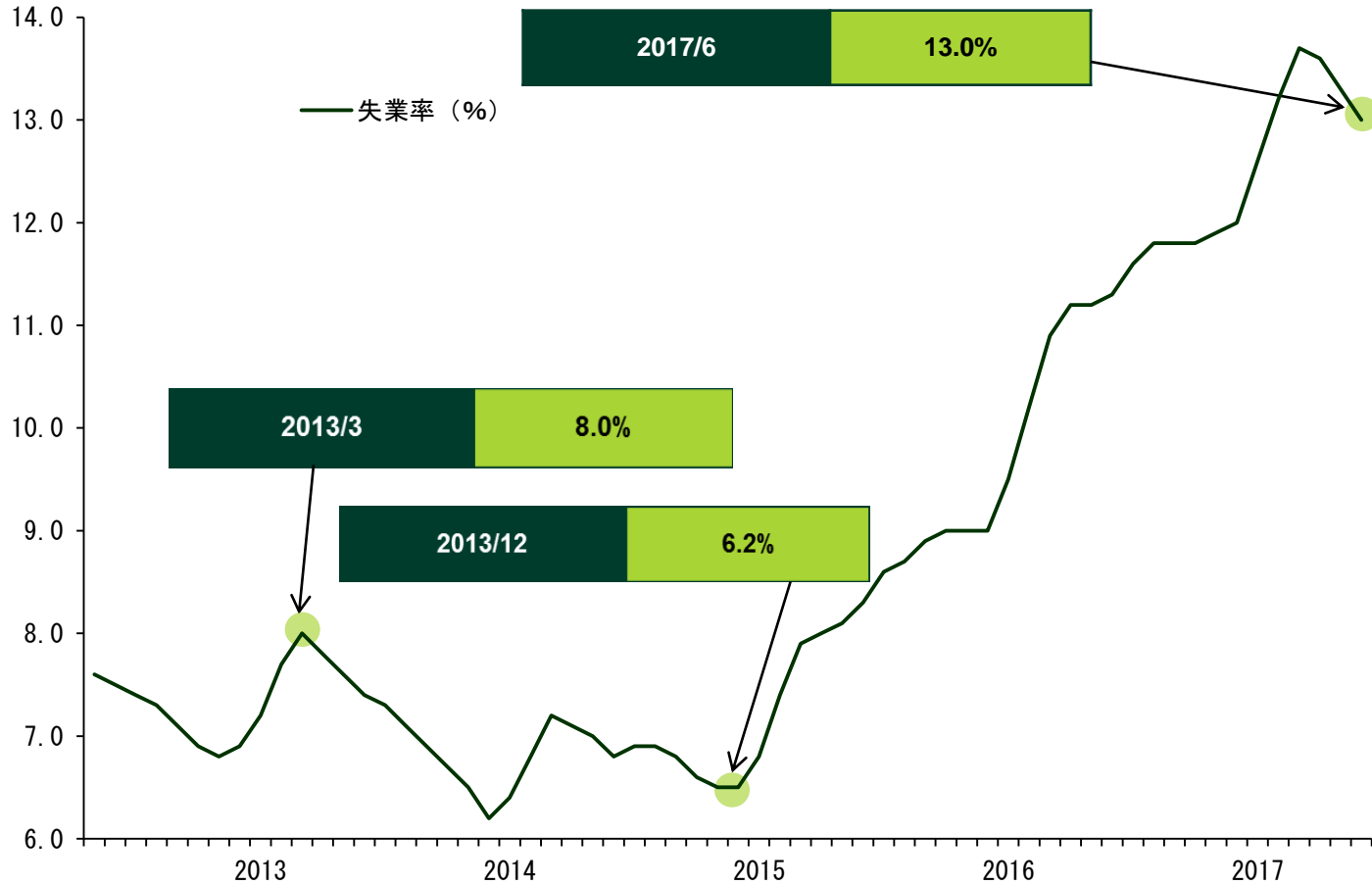


2009年1月から2017年8月11日迄









2017年/2018年ブラジル経済の展望(予測値)

金融部会

指標	2017年				2018年	
	Focus 予測値 2017/2/17	金融部会 2017年2月 シンポジウム 予測値	Focus 予測値 2017/8/11	金融部会 予測値 レンジ	Focus 予測値 2017/8/11	金融部会 予測値 レンジ
GDP成長率 (前年比%)	0.48	0.50 ～ 1.00	0.34	0.00 ～ 0.40	2.00	0.60 ～ 2.50
インフレ率 (IPCA%)	4.43	4.50 ～ 4.80	3.50	3.00 ～ 3.90	4.20	4.02 ～ 4.50
年末為替レート (リアル/ドル)	3.30	3.10 ～ 3.40	3.25	3.20 ～ 3.40	3.40	3.20 ～ 3.50
年末政策 目標金利 (%)	9.50	9.50 ～ 9.75	7.50	7.50 ～ 8.00	7.50	7.50 ～ 8.00

ブラジル経済回復への明るい兆しは？

- 着実な財政改革への取り組みがインフレ低下を促し金融緩和が進んでいる。
- 経常収支赤字の改善等による為替安定、金融緩和、失業率低下等、企業投資や個人消費を活性化させる条件が揃いつつある。

ブラジルに対する投資家の信認が回復するのはいつか？

- 投資家が注目しているのは、テメル大統領の議会掌握力。中長期的な財政規律に欠かせない年金改革の成立が鍵。
- 上記に加え、経済回復トレンドの底堅さ、政治的混乱の收拾、大統領選に関する不透明感払拭等が視野に入る2018年の年央頃か？
- ブラジル格下げ以降も、外国直接投資は一定水準を維持し、M&AやIPOに対する海外投資家からの需要は根強い。足元のCDSも200bpsを割り込む等、ブラジルに対する信用リスクは落ち着きを見せている。

ブラジル経済が最悪期を脱したとみられる中、日系企業が打つべき戦略は？

- 景気回復を前提とした投資戦略の見直し
- 競合他社に後塵を拝しない積極的な財務戦略の実施
- 撤退・縮小フェーズにおける買収や優良人材確保
- 長期的視野に立ったビジネスの拡大
- 本社への継続的かつ粘り強い説明・説得

2. 銀行業界動向

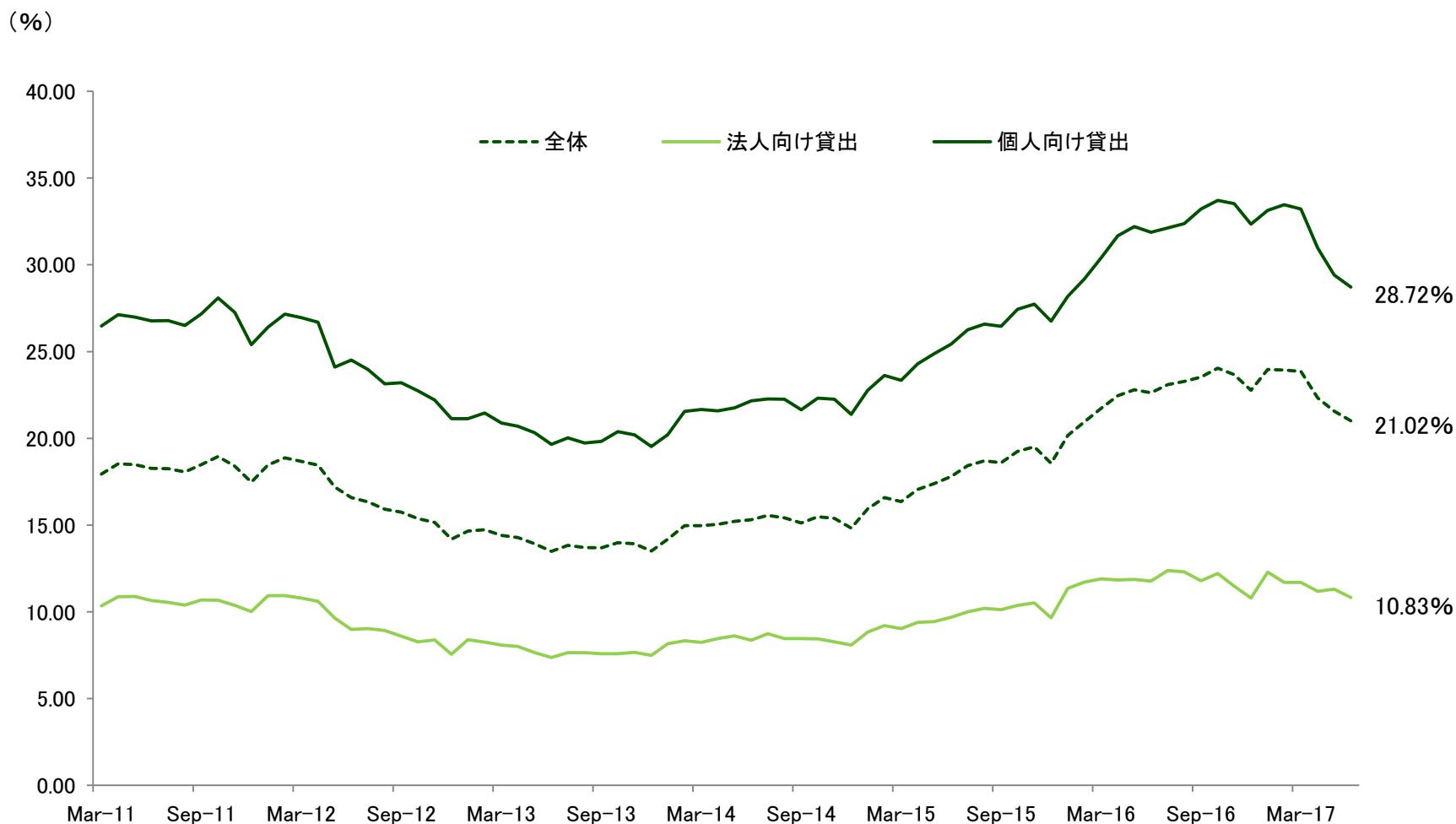
貸出残高推移

金融部会

(10億リアル)	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2016年 6月	2017年 6月
個人向け貸出	1,075	1,247	1,413	1,512	1,561	1,529	1,595
(同増加率)	16.6%	16.0%	13.3%	7.1%	3.2%	N.A.	4.3%
法人向け貸出	1,293	1,465	1,605	1,707	1,545	1,600	1,483
(同増加率)	16.3%	13.3%	9.6%	6.4%	-9.5%	N.A.	-7.3%
農業	20	22	24	25	24	24	23
(同増加率)	N.A.	8.1%	8.8%	7.3%	-4.1%	N.A.	-4.2%
鉱工業	619	705	782	833	748	786	712
(同増加率)	N.A.	14.0%	10.8%	6.5%	-10.2%	N.A.	-9.3%
サービス業等	655	739	800	849	773	791	748
(同増加率)	N.A.	12.8%	8.3%	6.2%	-9.0%	N.A.	-5.4%
合計	2,368	2,711	3,017	3,219	3,106	3,129	3,078
(同増加率)	16.4%	14.5%	11.3%	6.7%	-3.5%	N.A.	-1.6%

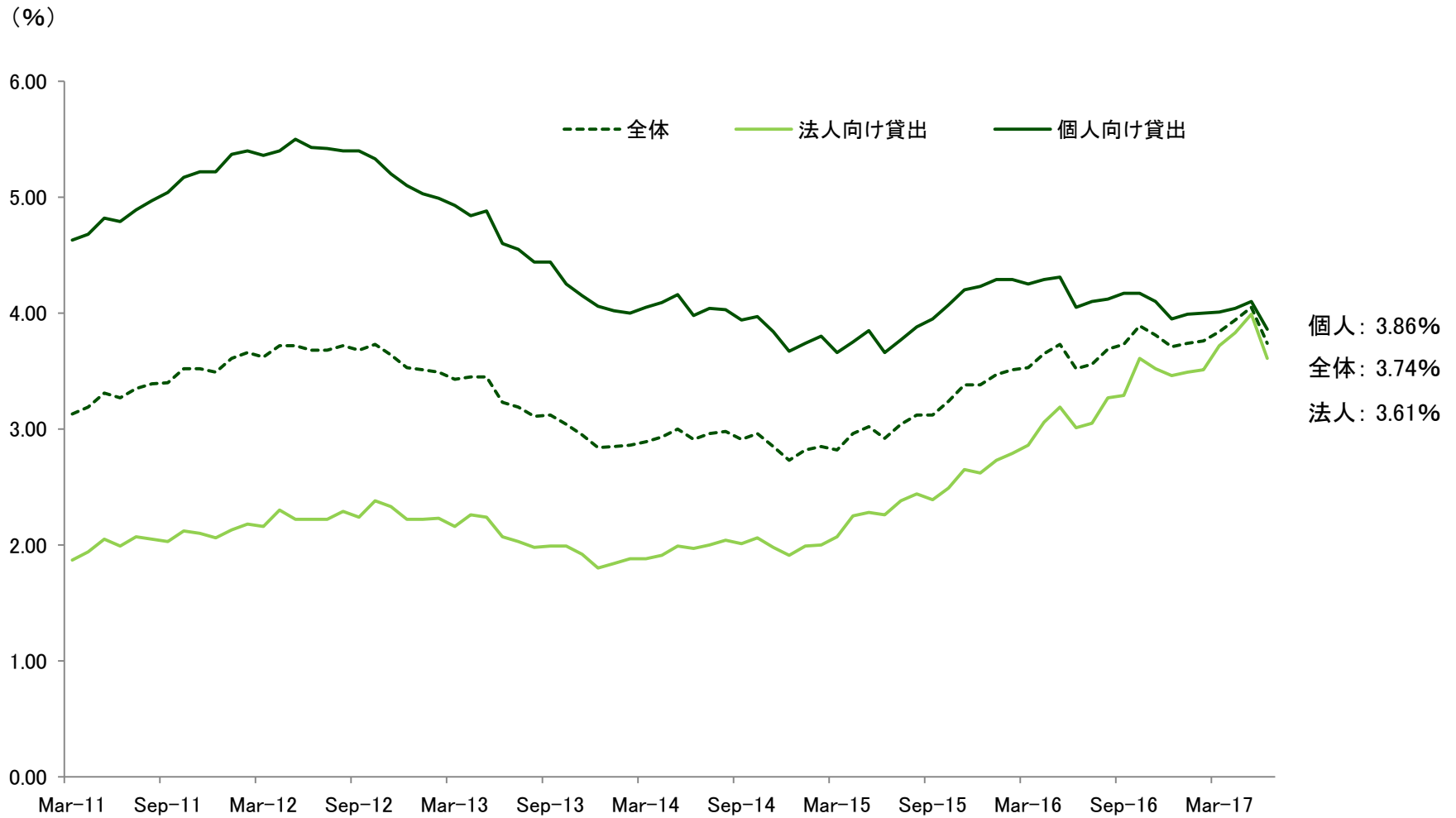
新規与信に対する平均貸出利鞘推移

金融部会



不良債権比率推移

金融部会

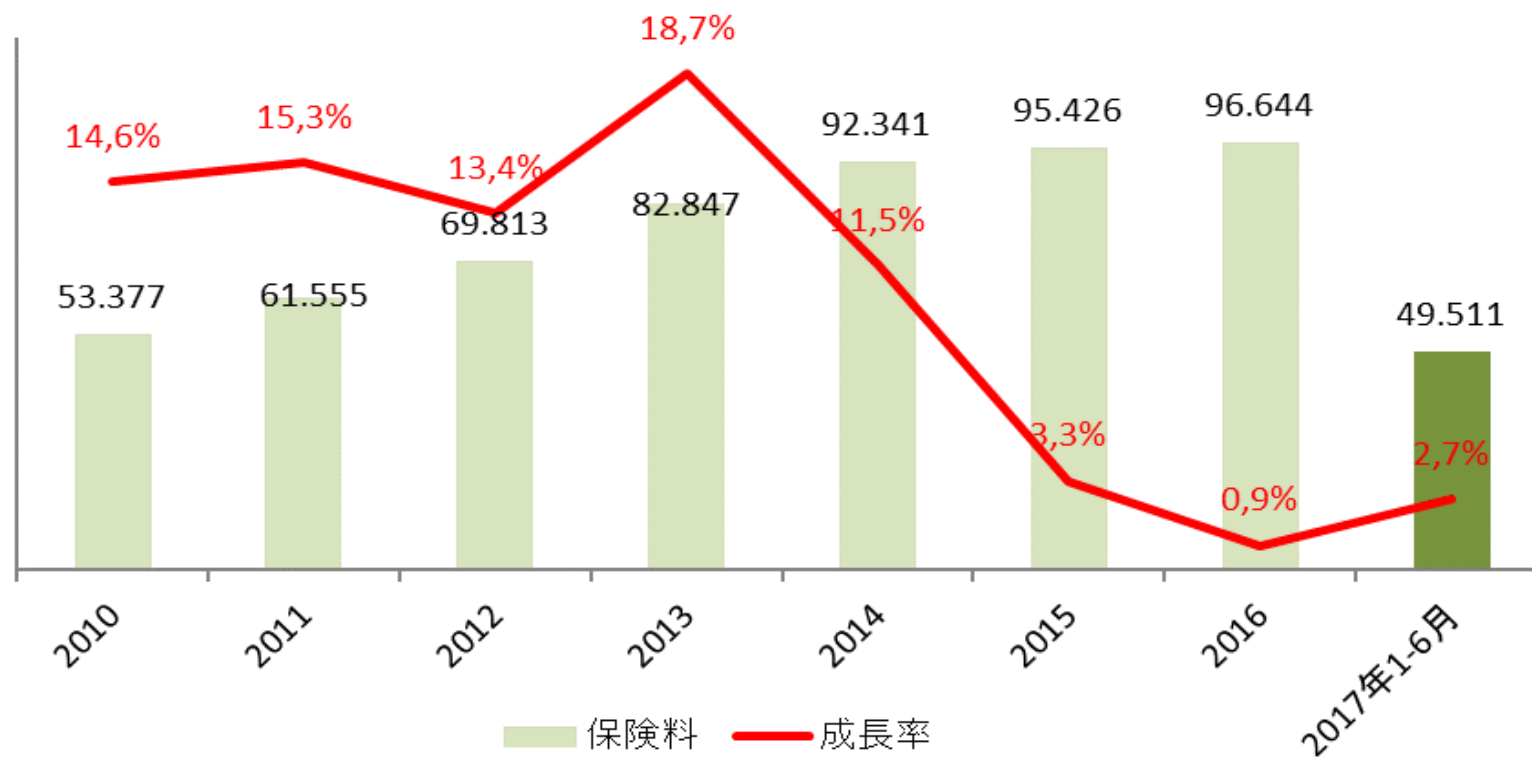


3. 保険業界動向

■ 保険料収入推移(除く年金、医療)

金融部会

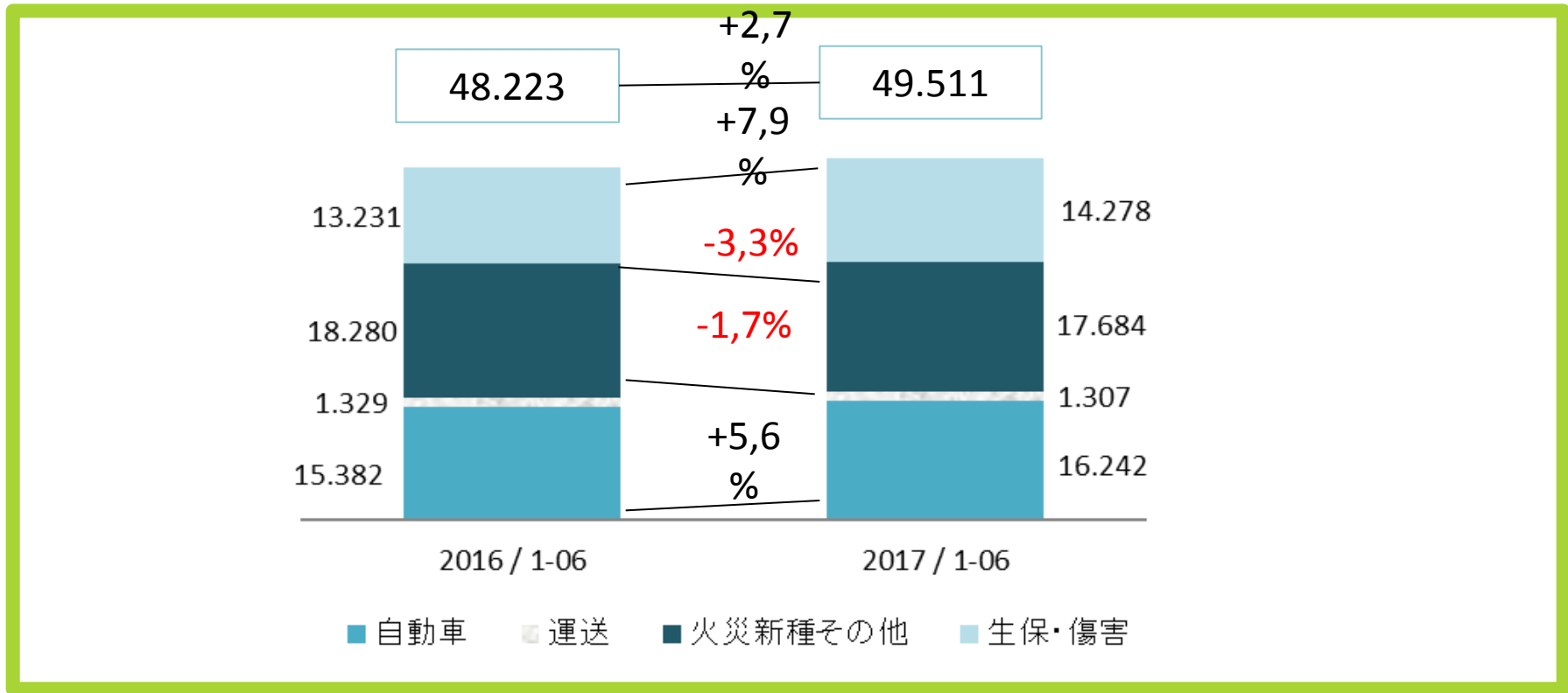
単位：百万リアル



2015年以降、保険マーケットの成長はインフレ率を下回る低水準で推移。

■ 保険種目別 保険料収入

単位：百万リアル



特に、運送保険・火災新種保険は減産・在庫圧縮・物流低迷等の影響からマイナス成長。

保険種目	2016(1-06YTD)	2017(1-06YTD)	前年比
自動車	64,3%	65,2%	0,8 p.p.
火災新種	46,3%	36,5%	-9,8 p.p.
運送	63,3%	59,9%	-3,4 p.p.
生命・傷害	30,2%	29,6%	-0,6 p.p.
合計	48,7%	45,8%	-2,9 p.p.

※グロス損害率

2017年1－6月は自然災害の影響が少なく、損害率は前年同期比改善。

2017年成長率見込み	2017 / 1-12
損害保険(自動車・火災新種・運送)	3.5%
生命・傷害	7.8%
合計	4.9%

2017年の成長見通しは、損害保険、生命・傷害保険合計で実質ゼロ成長を見込む。

※CNseg (保険会社連盟) 2017年5月公表データ

貿易 部会

今井 重利 部会長

Departamento de Comércio Exterior

Presidente: Shigetoshi Imai

2017年上期の回顧と 下期の展望

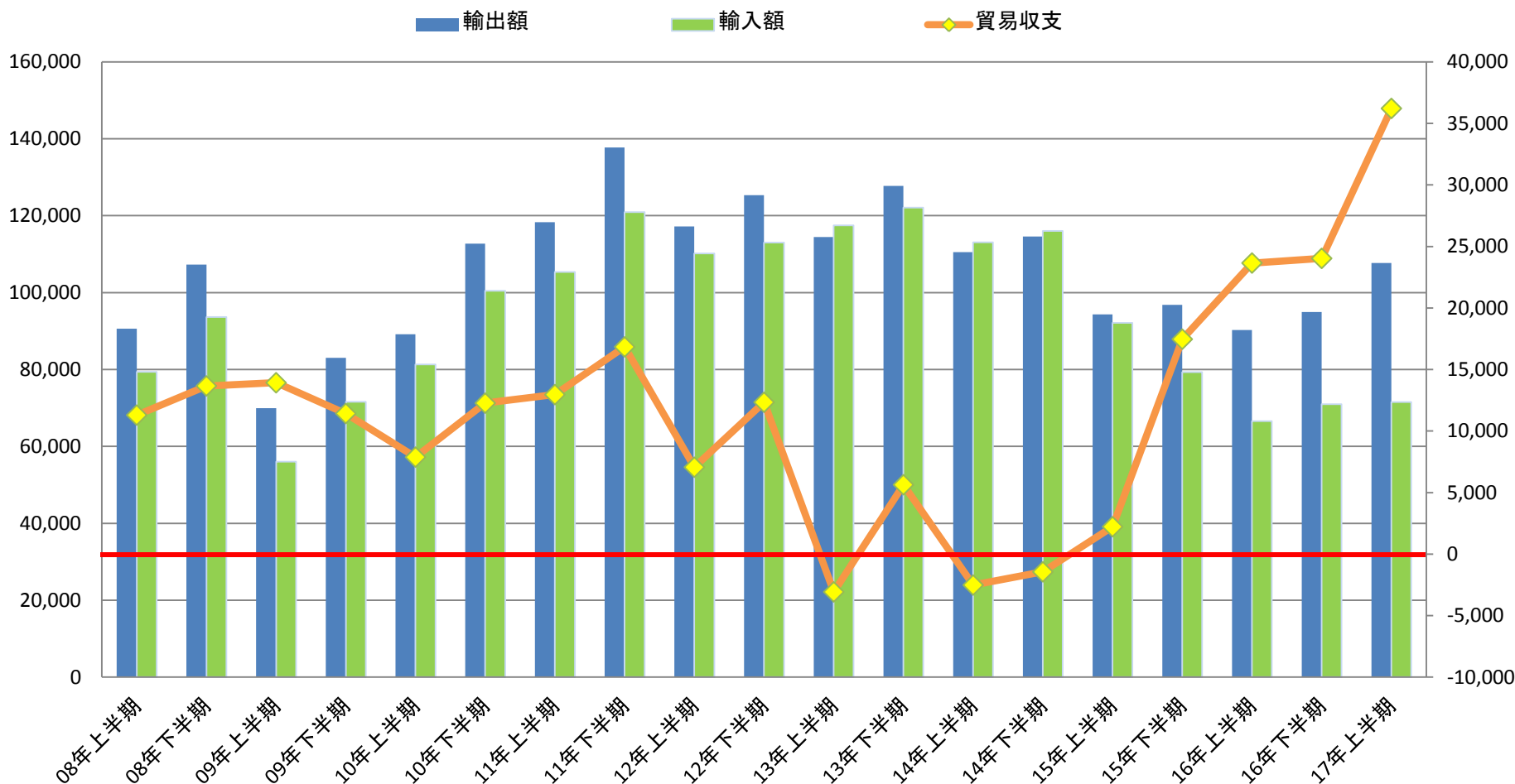
2017年8月24日
ブラジル日本商工会議所
貿易部会

1. 総括

半期ごとの輸出入額の推移

<輸出入額>

<貿易収支>



(単位:百万ドル)

為替レート 2016年 R\$3.49/US\$

(期中平均) 2017年上半期 R\$3.16/US\$

2. 輸出 ～主要商品別～

金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン(*乗用車のみ単位は千台)

	2016年上半期			2017年上半期			増減率		参考» 2016年通期	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率	金額	数量
一次産品	41,231	45.7%	272,083	52,457	48.7%	282,082	27.2%	3.7%	79,159	535,392
大豆	13,892	15.4%	38,568	16,668	15.5%	43,989	20.0%	14.1%	19,331	51,582
鉄鉱石	5,503	6.1%	177,313	10,056	9.3%	183,992	82.7%	3.8%	13,289	373,963
原油	4,035	4.5%	19,740	9,208	8.5%	28,684	128.2%	45.3%	10,074	41,624
鶏肉	2,955	3.3%	2,060	3,171	2.9%	1,924	7.3%	-6.6%	5,946	3,959
半製品	12,806	14.2%	25,139	15,052	14.0%	26,127	17.5%	3.9%	27,963	53,794
粗糖	3,149	2.8%	10,264	4,294	3.5%	10,211	36.4%	-0.5%	8,282	23,661
化学木材パルプ ^o	2,745	2.7%	6,642	3,012	3.0%	7,100	9.7%	6.9%	2,745	13,520
鉄鋼半製品	1,157	1.6%	4,205	1,974	1.3%	4,787	70.6%	13.8%	5,569	8,446
合金	1,043	1.3%	260	1,150	1.2%	239	10.3%	-8.3%	2,103	495
工業製品	34,211	37.9%	24,764	37,664	37.9%	25,574	10.1%	3.3%	73,921	50,497
乗用車	2,134	1.7%	* 190	3,260	2.4%	* 301	52.8%	58.4%	4,671	* 412
航空機	1,856	1.7%	1	1,706	2.1%	1	-8.1%	-5.4%	4,291	4
貨物車	894	1.4%	104	1,423	1.3%	160	59.2%	53.2%	2,337	9,516
その他	2,002	2.2%	3,015	2,537	-0.6%	2,919	26.7%	-3.2%	4,193	5,635
輸出総額	90,251	100%	325,001	107,710	100%	336,702	19.3%	3.6%	185,235	645,318

<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)、ANFAVEA

2. 輸出 ～主要国別～

輸出相手先 上位10カ国

(単位:百万ドル)

国名	2016年 上期	2017年上期		増減率	《参考》 2016年 通期
		金額	構成比		
中国	19,770	26,953	21.7%	36.3%	35,134
米国	10,671	12,918	11.3%	21.1%	23,156
アルゼンチン	6,529	8,301	6.9%	27.1%	13,418
オランダ	4,731	4,689	5.2%	-0.9%	10,323
チリ	1,877	2,482	2.6%	32.2%	4,081
インド	1,415	2,398	2.5%	69.4%	3,161
ドイツ	2,339	2,362	2.0%	1.0%	4,861
日本	2,373	2,300	2.0%	-3.1%	4,604
メキシコ	1,844	2,192	1.8%	18.9%	3,813
スペイン	1,342	1,855	1.6%	38.3%	2,604
その他	37,359	41,261	42.4%	10.4%	80,080
輸出総額	90,251	107,710	100.0%	19.3%	185,235

<出所>

開発商工省貿易局(SECEX)

3. 輸入 ～主要商品別～

金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン

	2016年上期			2017年上期			増減率		《参考》 2016年通期	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率	金額	数量
一次産品	6,906	11.3%	30,392	8,064	10.4%	29,271	16.8%	-3.7%	14,276	61,315
原油	1,660	1.9%	5,414	1,328	2.5%	3,397	-20.0%	-37.3%	2,899	8,867
魚(生・冷蔵・冷凍)	459	0.8%	170	586	0.7%	183	27.5%	8.2%	737	178
小麦	536	0.8%	2,758	568	0.8%	3,086	5.9%	11.9%	1,335	6,866
天然ガス	703	0.8%	4,145	541	1.1%	2,994	-23.1%	-27.8%	1,278	8,113
半製品	3,457	4.2%	4,209	3,035	5.2%	4,843	-12.2%	15.1%	5,640	10,754
銅板	631	0.7%	103	508	0.9%	84	-19.6%	-18.2%	810	168
合成ゴム	307	0.4%	134	274	0.5%	141	-10.6%	4.7%	444	250
工業製品	56,954	84.5%	32,122	60,395	85.5%	38,413	6.0%	19.6%	117,636	66,345
送受信機	2,522	4.7%	47	3,383	3.8%	66	34.1%	39.9%	1,408	71
医薬品	2,938	4.3%	18	3,052	4.4%	16	3.9%	-8.6%	5,794	36
自動車部品	2,250	3.5%	286	2,515	3.4%	299	11.8%	4.4%	4,852	612
燃料油	1,158	3.3%	2,920	2,351	1.7%	4,833	103.0%	65.5%	2,912	6,812
輸入総額	66,600	100%	67,357	71,494	100%	73,108	7.3%	8.5%	137,552	138,414

<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)、ANFAVEA

3. 輸入 ～主要国別～

輸入相手先 上位10カ国

(単位:百万ドル)

国名	2016年 上期	2017年上期		増減率	《参考》 2016年 通期
		金額	構成比		
米国	11,186	12,501	17.5%	11.7%	23,803
中国	11,213	12,262	17.2%	9.4%	23,364
アルゼンチン	4,225	4,598	6.4%	8.8%	9,084
ドイツ	4,660	4,358	6.1%	-6.5%	9,131
韓国	2,998	2,629	3.7%	-12.3%	5,449
メキシコ	1,575	1,885	2.6%	19.7%	3,528
イタリア	1,819	1,830	2.6%	0.6%	3,703
日本	1,693	1,734	2.4%	2.4%	3,566
チリ	1,478	1,727	2.4%	16.9%	2,882
フランス	1,821	1,716	2.4%	-5.8%	3,679
その他	23,933	26,256	36.7%	9.7%	49,364
輸入総額	66,600	71,494	100%	7.3%	137,552

<出所>
開発商工省貿易局(SECEX)

4. 対日貿易

輸出

(単位:百万ドル)

商品名	2016年 上期	2017年上期		伸び率	《参考》 2016年 通期
		金額	構成比		
鉄鉱石	491	740	32.1%	50.7%	1,073
鶏肉	382	420	18.3%	10.0%	720
コーヒー豆	190	172	7.5%	-9.4%	413
アルミニウム	114	134	5.8%	17.5%	246
合金	122	133	5.8%	9.0%	240
大豆	78	96	4.2%	23.4%	172
化学木材パルプ	55	63	2.8%	15.4%	113
航空機	124	63	2.7%	-49.0%	219
冷凍オレンジ	60	40	1.8%	-33.2%	96
木材チップ	36	36	1.6%	-0.4%	-
その他	721	403	17.5%	-44.2%	1,312
合計	2,373	2,300	100%	-3.1%	4,604

輸入

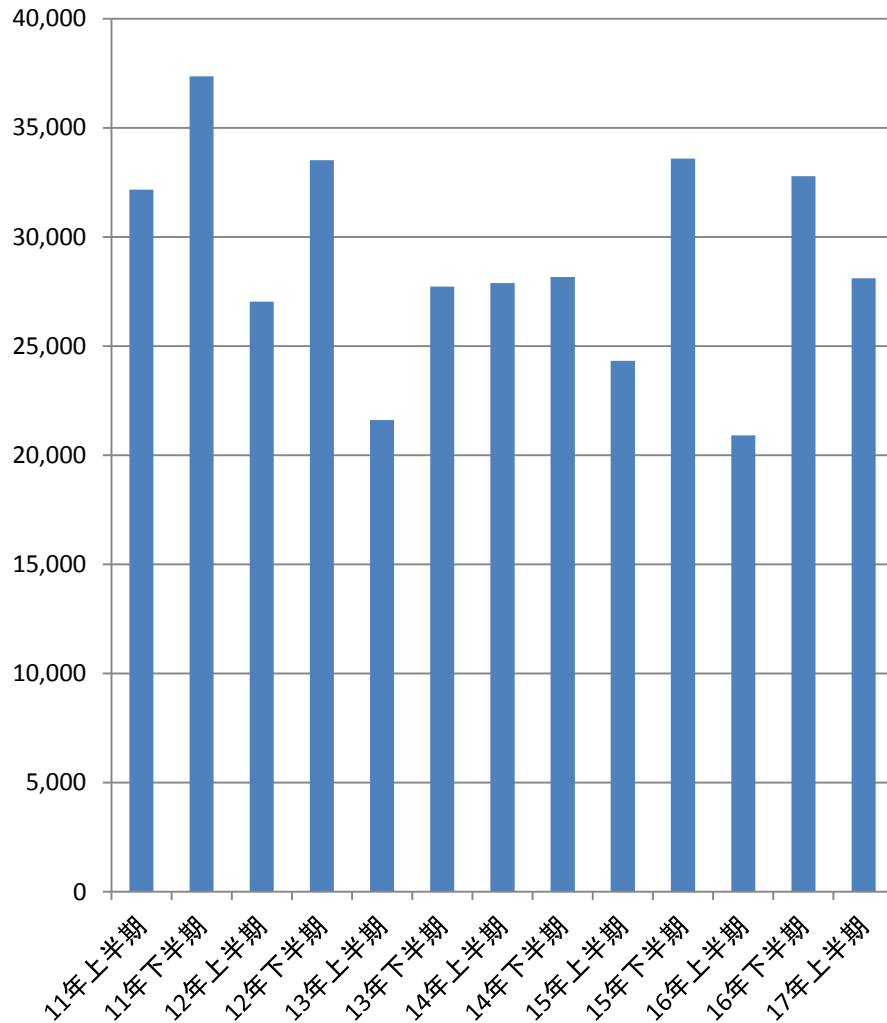
(単位:百万ドル)

商品名	2016年 上期	2017年上期		伸び率	《参考》 2016年 通期
		金額	構成比		
その他工業製品	289	287	16.5%	-0.7%	208
自動車・トラクター部品	200	229	13.2%	14.8%	454
乗用車	70	83	4.8%	18.3%	130
ベアリング・歯車及び それら部品	67	77	4.4%	15.2%	142
測定機器等	79	74	4.3%	-6.6%	157
自動車エンジン部品	78	68	3.9%	-12.5%	128
半導体	32	53	3.1%	65.9%	-
複素環式化合物	38	42	2.4%	10.8%	104
窒素化合物	40	36	2.1%	-8.6%	90
スイッチ、電源用部品	37	35	2.0%	-5.4%	-
その他	764	750	43.3%	-1.8%	2,153
合計	1,693	1,734	100%	2.4%	3,566

5. 対内直接投資 ～推移・国別～

(単位:百万ドル)

対内直接投資推移



国別対内直接投資

国	2016年上期	2017年上期		伸び率	参考>> 2016年通期
	金額	金額	構成比		金額
米国	2,908	7,952	28.3%	173.5%	6,544
オランダ	3,690	4,698	16.7%	27.3%	10,524
英領ヴァージン諸島	791	4,286	15.3%	441.8%	1,637
ルクセンブルク	1,941	1,888	6.7%	-2.8%	7,395
フランス	1,101	1,449	5.2%	31.7%	2,778
スペイン	1,580	1,196	4.3%	-24.3%	3,489
イタリア	898	1,100	3.9%	22.5%	2,835
チリ	454	795	2.8%	75.1%	846
ドイツ	1,228	679	2.4%	-44.7%	1,826
スイス	264	653	2.3%	147.0%	965
英国	791	587	2.1%	-25.8%	3,596
日本	921	339	1.2%	-63.2%	1,412
その他	5,251	2,818	10.0%	-46.3%	11,237
合計	20,898	28,100	100%	34.5%	53,673

5. 対内直接投資 ～主要業種別～

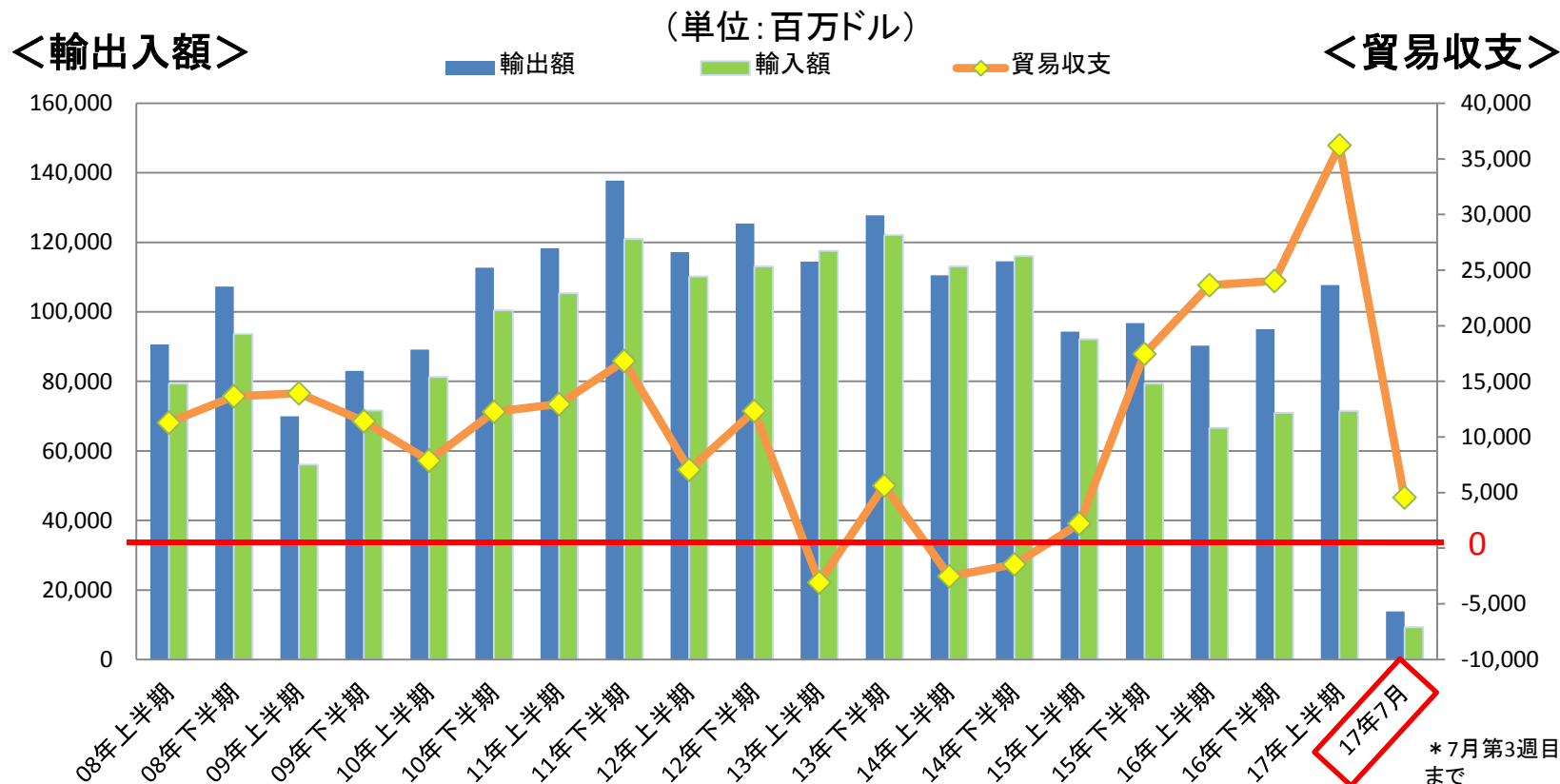
(単位:百万ドル)

	2016年上期		2017年上期		伸び率	《参考》 2016年通期
	金額	構成比	金額	構成比		
一次産品(農業・畜産・鉱業・その他)	3,140	15.0%	1,458	5.2%	-53.6%	8,696
石油・天然ガス採掘	1,973	9.4%	684	2.4%	-65.3%	4,257
金属鉱物採掘業	485	2.3%	340	1.2%	-30.0%	2,463
工業(その他も含む)	7,992	38.2%	7,480	26.6%	-6.4%	20,138
自動車・トレーラー・車体	2,260	10.8%	1,642	5.8%	-27.3%	6,571
化学製品	749	3.6%	1,467	5.2%	95.9%	2,165
基礎冶金業(注)	631	3.0%	905	3.2%	43.4%	1,437
食品	384	1.8%	683	2.4%	77.9%	1,275
機械装置	574	2.7%	424	1.5%	-26.2%	1,558
サービス業(その他も含む)	9,658	46.2%	19,079	67.9%	97.5%	24,647
電気・ガス	545	2.6%	6,042	21.5%	1008.3%	2,962
運送業	106	0.5%	3,922	14.0%	3606.9%	768
商業(自動車除く)	2,265	10.8%	3,191	11.4%	40.9%	5,696
水道	184	0.9%	927	3.3%	402.6%	184
不動産業	921	4.4%	591	2.1%	-35.9%	1,939
金融・同補助サービス	770	3.7%	542	1.9%	-29.6%	2,043
合計	20,898	100.0%	28,100	100.0%	34.5%	53,673

(注)製鉄業を含む

<出所>ブラジル中央銀行

6. 直近の貿易収支傾向



＜出所＞ 開発商工省貿易局 (SECEX)

- ・2017年度上期の貿易収支は、362億ドルと昨年同期比+126億ドルと大幅に貿易黒字増加。輸入額も増加しているが特に輸出額の増加が大きい。
- ・対内投資についても、米国を中心として281億ドルと昨年同期比+72億ドル。
- ・対日は輸入はわずかに増加したが、輸出・投資は引き続き減少。
(輸出▲3%、輸入+2%、対内投資▲63%)

7. まとめ 『回復途上のブラジル経済ーいま打つべき戦略は』

- ・縮小均衡とならぬよう足元固めを含めた体制をきちんと維持すること。
- ・日本は、悪くなると早期に撤退を決定する傾向にあり、底で買いに来る中国・欧米と戦略が逆となる。中長期視点より投資・参入を検討する。
- ・成長分野や景気の変動を受けにくいビジネス分野に対して積極的に投資をする。
- ・このような状況だからこそ伯開発銀行や日本の制度金融など長期融資制度・調達を再検討ーブラジル側の雇用創出・産業育成の切り口も肝要。
- ・総論でなく、具体的かつブラジルならではの個別案件を提案する。
- ・汎用品の競争ではなく、ブラジル国内での高機能や付加価値製品の市場開拓。
- ・ブラジル現地制度の経験蓄積と信頼できる現地パートナーの開拓と関係構築。
- ・日本・伯双方への広報、宣伝活動を活性化、ブラジルの高い将来性をアピール。
(JAPAN HOUSE、日伯経済合同委員会、ブラジルアピール特集記事掲載など)
- ・他国商工会議所や他部会とも連携の上、貿易・投資促進上の課題を当局へ提言。

機械金属 部会

池辺 和博 部会長

Departamento de Metalmeccânica

Presidente: Kazuhiro Ikebe

「2017年上期の回顧と下期の展望」

～回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は～

2017年8月24日
機械金属部会
池辺

1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

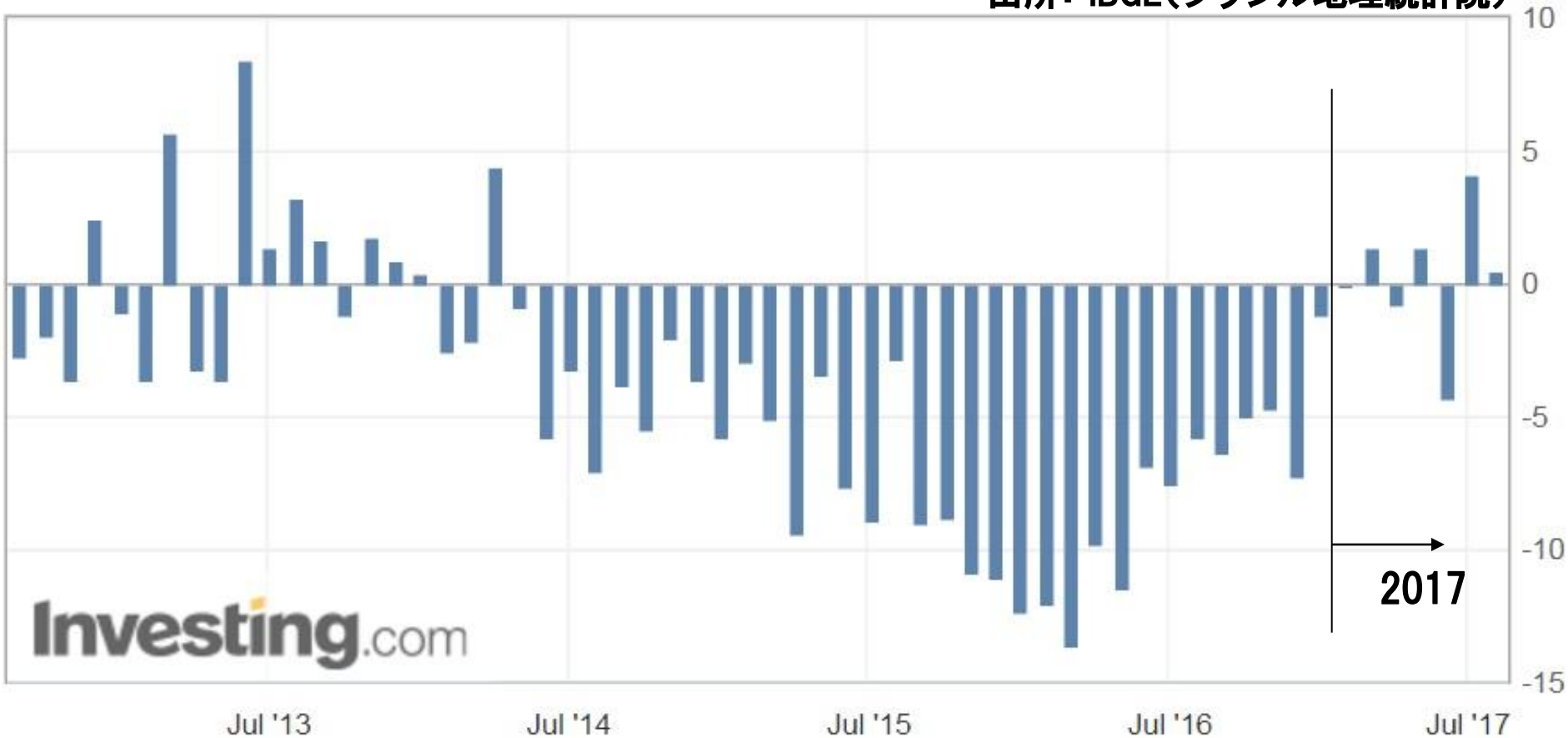
業種・分野別分類

- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング
- (5) トラクター・非汎用圧縮機

3. 副題-回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は—

ブラジル鉱工業生産 対前年の推移

出所: IBGE(ブラジル地理統計院)



Investing.com

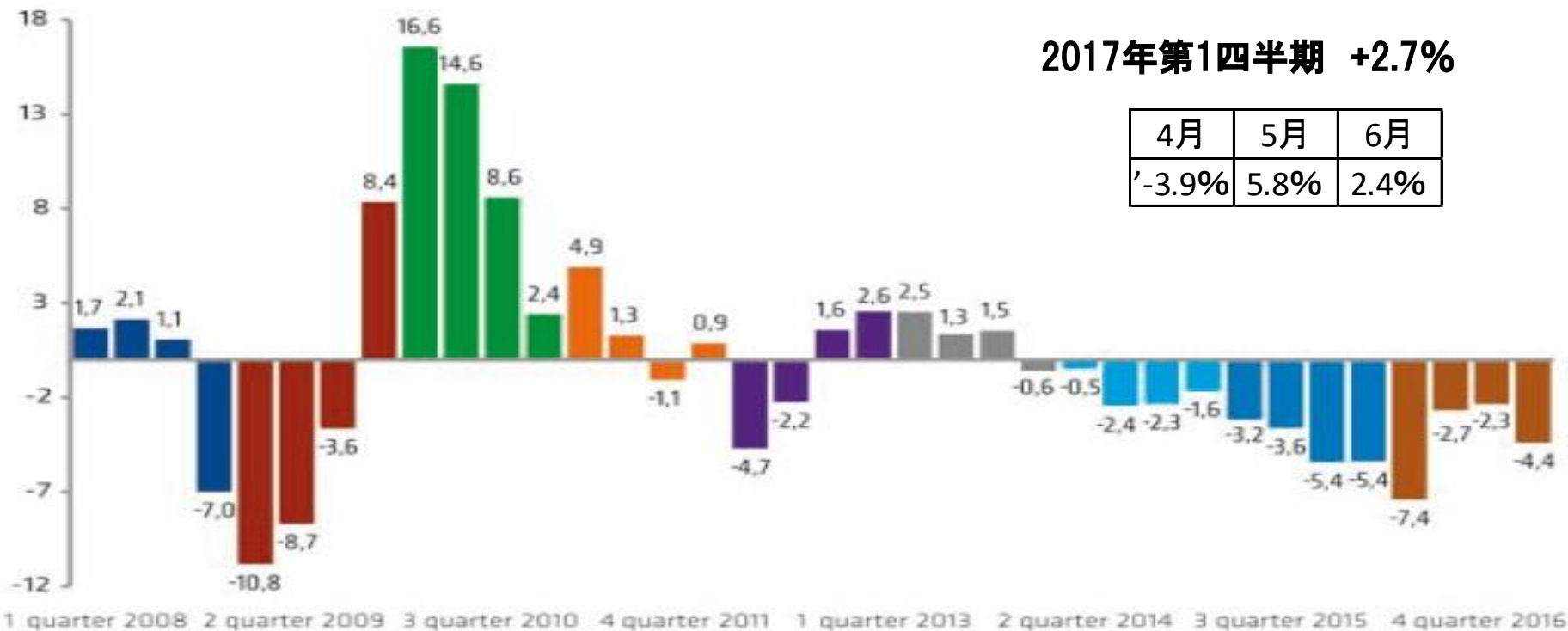
2017

1980

2000

ダンボール生産 対前年同期比の推移

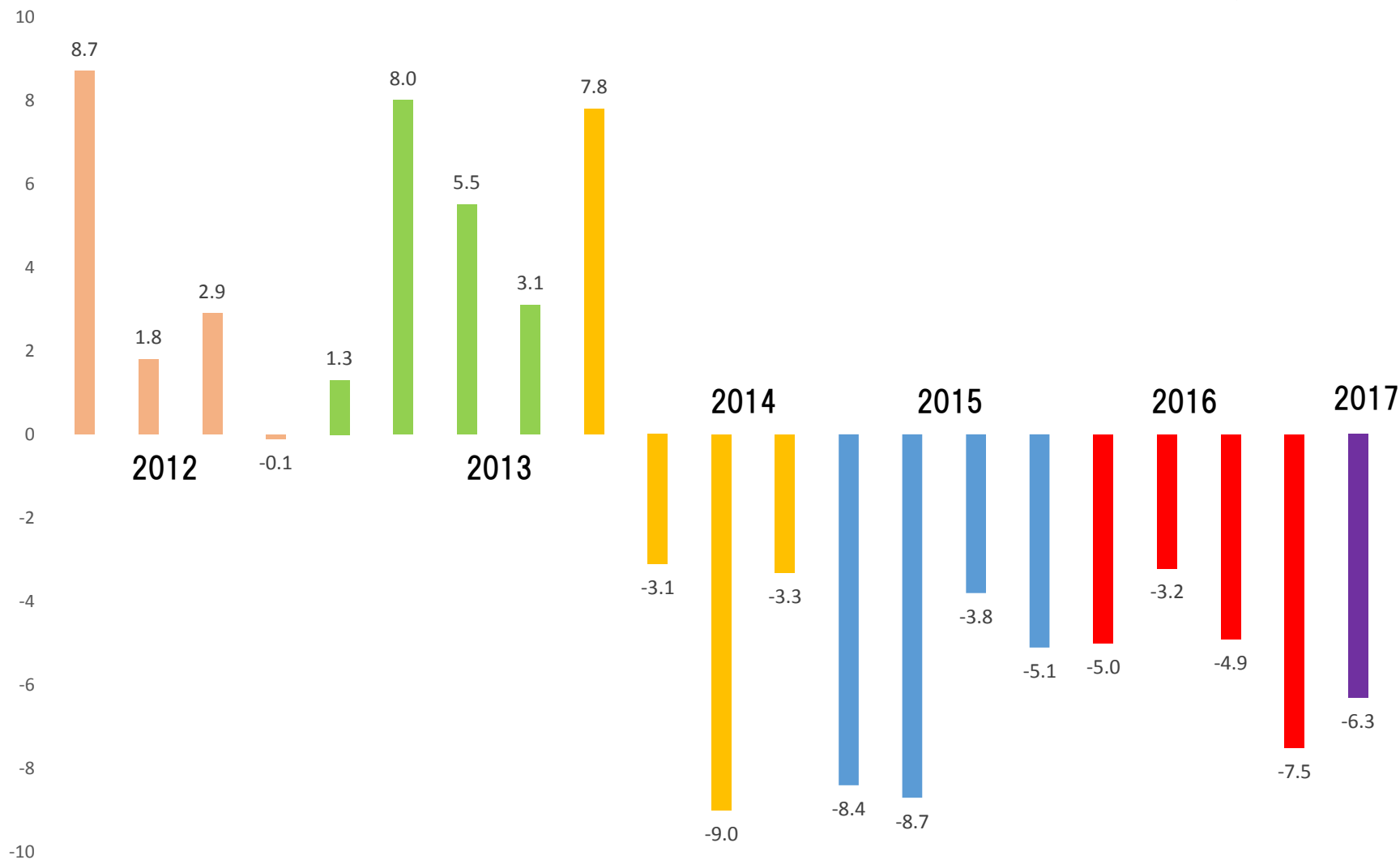
出所: IBGE(ブラジル地理統計院)



Source: FGV
Elaboration: FGV

建設実績 対前年同期比推移

出所: CBIC(ブラジル建設業協会)



1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

業種・分野別分類

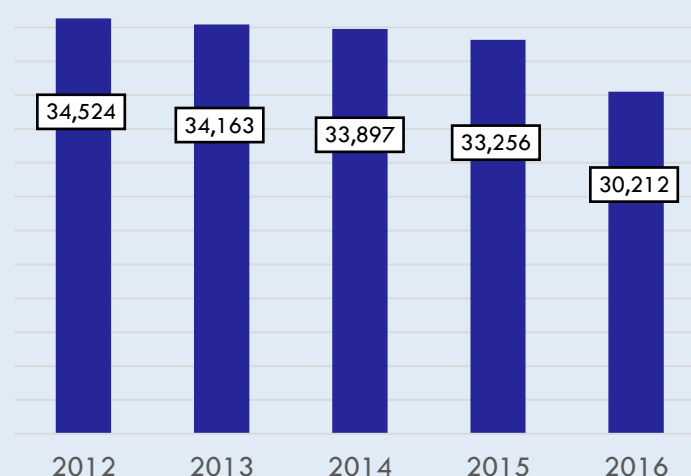
- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング
- (5) トラクター・非汎用圧縮機

3. 副題-回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は—

伯鉄鋼生産関連情報（伯鉄鋼協会）

2017年1-6月実績		数量:千トン、前年同期比					
	生産		国内販売		輸出		
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	
粗鋼	16,723	12%	8,052	▲2%	7,300	9%	
圧延鋼板	6,637	17%	4,730	5%	1,552	▲2%	
形鋼	4,291	▲5%	3,185	▲10%	962	8%	
スラブ	4,071	15%	62	▲35%	4,786	14%	
他	581	▲18%	132	10%			
輸入					1,216	64%	

粗鋼生産量推移（Kトン）



- ・生産：6年振りに前年比増加 ← 新会社CSP分で、既存メーカーではほぼ横ばい
- ・国内販売：自動車生産の回復で鋼板類は5%増も、建設・機械等の需要回復遅く、全体では2%減
- ・輸出：CSP、生産のほぼ全量を輸出(1,300千トン)を輸出(半製品14%増)で、全体9%増
- ・輸入：メーカーの値上げで16年後半より輸入増加、17年上半期は64%増

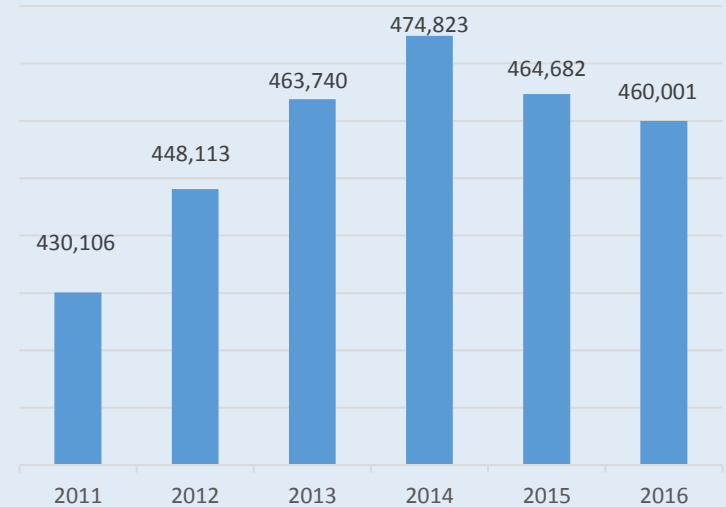
〈2017年下期展望〉

- ・輸出の増加(上期並み)もあり、年間生産量は6年振りの増加(3.8%)見込み (CSP影響大)
- ・国内販売は自動車生産の緩やかな回復があるものの、建設等需要弱く、微減(1.3%)予想
- ・国内販売最高であった2013年レベルへの回復は2028年になるとの見通しも
- ・製鉄会社の設備保守、維持への投資は回復基調

電力

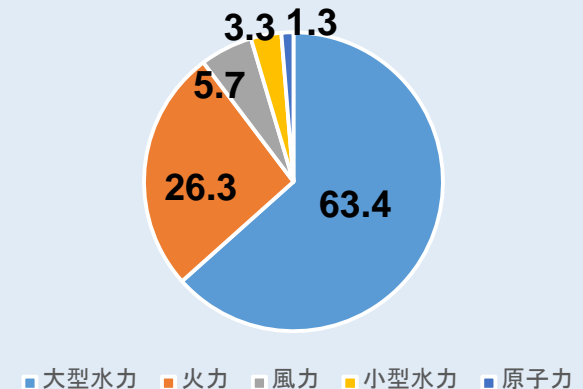
- ・ 経済活動の回復は弱く、2017年前半の電力消費は233,220GWhで、前年比横ばい(0.4%増)
- ・ 工業分野の電力消費は、2016年12月0.9%増加するまで32カ月間減少していた
2017年前半の工業電力の需要も0.05%の増と横ばい
- ・ 昨年新規水力/風力発電稼働開始し、総発電容量152GW 電力需給ギャップ拡大
- ・ 2017年前半はエネルギーオークション実施無し
年末に2つのオークション(A-4/A-6) 予定有るも詳細未定
- ・ 2017年後半も新規発電案件は期待薄で、電力会社向け設備等の販売も低調予想

ブラジル電力消費量(GWh)



出所: EPE(エネルギー調査公社)

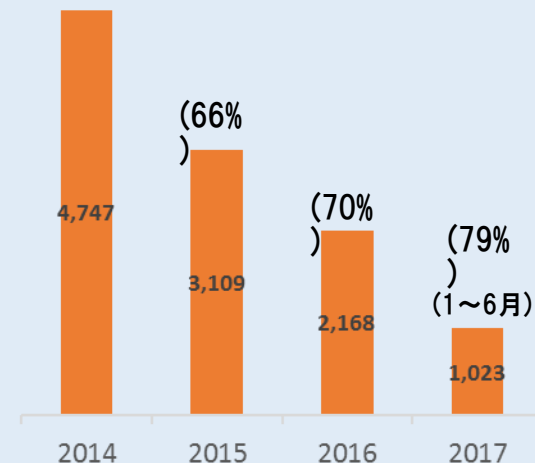
ブラジル電力発電構成(%、2016年)



建機

- ・ 建設需要の更なる落ち込みに加え、政府のインフラ投資も削減傾向で、1～6月の油圧ショベル販売は前年比79%
下期の回復も望み薄で、3年連続の需要減は必至
- ・ 小型建機(小型バックホー)販売も、2017年1～6月対前年比▲15% (2016年前年比▲47%、2015年 前年比▲42%)
油圧ショベル同様3年連続の需要減見込み
- ・ 農業、製造業、墓地等非建設用途需要開拓で凌ぐ

油圧ショベル販売台数推移



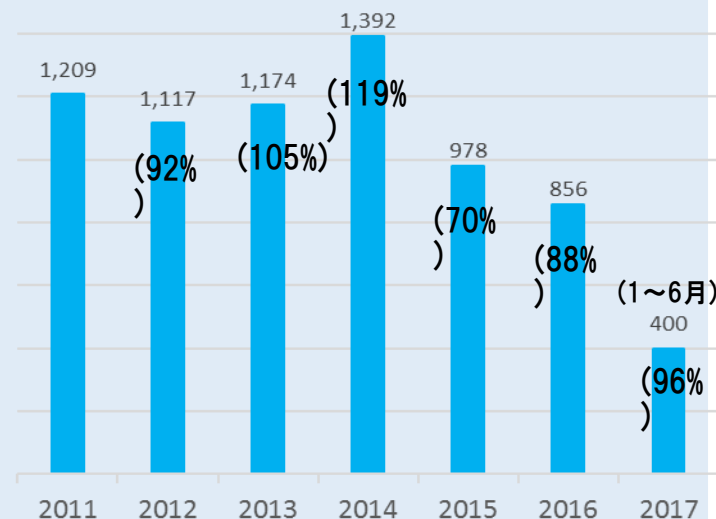
業務用空調

- ・ ビル・工場等の建設減による需要減：
2017年1～6月対前年比96%
3年連続の減少傾向だが、減少幅は縮小

〈2017年展望〉

- ・ 建設業界の回復は2019年以降と予測
- ・ 業務用空調の2017年下期は、交換需要等で微増を見込み、17年通年で前年並みを予想

業務用空調需要推移 (K冷凍トン)



出所: ABRABA(ブラジル冷凍空調協会)

主要顧客先は自動車業界

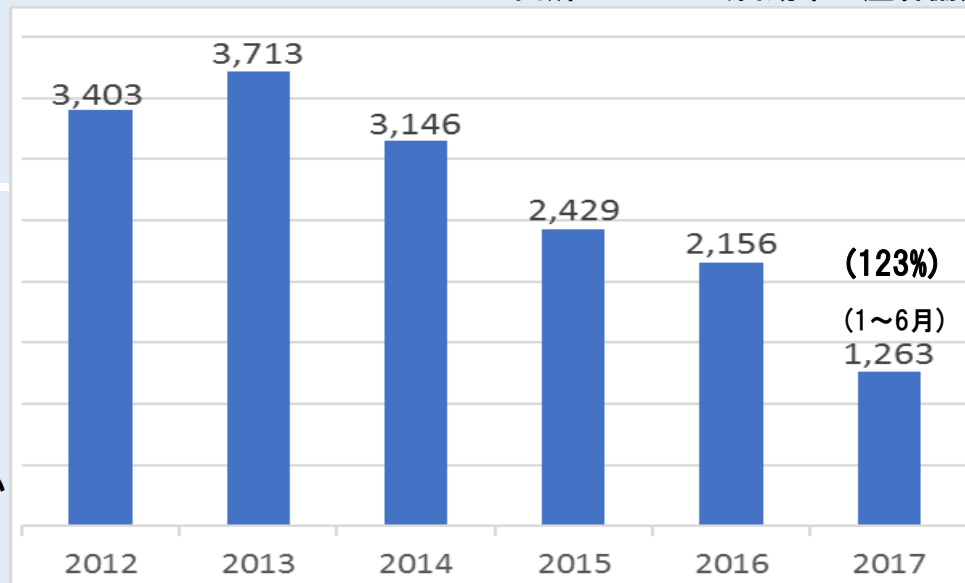
- 自動車生産回復基調（輸出増）
2017年1～6月対前年比 23%増
（輸出 57%増 37.3万台）
2017年通年予測 21.5%増へ上方修正

切削工具/金属加工油剤

- 自動車生産の回復基調を受け、受注増加傾向
- 農業機械、金型分野等比較的堅調
- 下期も自動車生産の回復に伴い、緩やかな増加傾向を期待

自動車生産台数推移（K台）

出所：Anfavea(自動車生産者協会)



ベアリング

- 自動車生産は回復基調だが、二輪の生産は大幅落ち込みが続き、深刻
従来の景気回復期は二輪から増加が始まり、自動車がそれに続くというパターン崩れた
- 一般産業機械向けでは、農業機械の生産が大幅増加
- 下期の自動車生産は回復継続も、二輪の落ち込みは継続中で、底が見えない
- 消費者向けアフターマーケットも一時の勢いを失い、反動減を見込み、全体に厳しい

トラクター

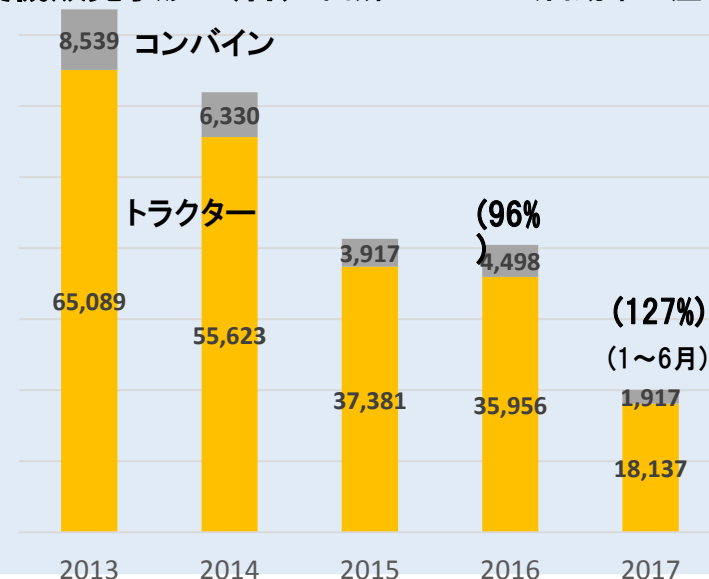
- ・ 2014年、2015年と大きく需要減少したが、2016年中盤より回復軌道に変わり、2017年上期は前年比127%

農作物の収穫も良好で、政府の農業向け低利融資17/18年収穫期プログラムも発表され、回復基調

〈2017年下期展望〉

- ・ 農作物の収穫も概ね良好が続き、全体的に回復傾向継続を予想

農機販売状況（台） 出所：Anfavea(自動車生産者協会)



非汎用圧縮機

- ・ 主要用途：資源開発、石油精製、石油化学
原油価格のUSD50付近での落ち着き、Lava Jatoの一段落等で、PETROBRASのProjectや改造案件等引合い徐々に増加も低レベル

〈2017年下期展望〉

- ・ スローながらも上記引合いが実案件化していくものと想定／期待
プレサル鉱区におけるPETROBRASの30%以上の権益優先権の撤廃による海外資本の投資に期待

ガスコンプレッサー輸入額（KUSD）

タイプ	2015	2016	2017上期	前年進捗
ターボコンプレッサー	28,169	1,486	373	25%
レシプロコンプレッサー	31,617	10,381	5,732	55%
スクリュコンプレッサー	7,430	7,974	924	11.0%
合計	67,216	19,841	19,841	35%

出所：Integrated Foreign Trade System(SISCOMEX)

1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

業種・分野別分類

- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング
- (5) トラクター・非汎用圧縮機

3. 副題-回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は—

回復途上のブラジル経済-いま打つべき戦略は-

- 経済は回復途上か？
 - 業種により違うが、全体的に未だ厳しい
 - 政治的混乱続いており、本格回復は2018年の大統領選後か？
 - ブラジルでの事業継続の岐路に立つ会社も

- 回復傾向、好調な業種・企業への新規業界/顧客開拓
隠れた需要発掘(保守・アフターサービス含め)
- 輸出、周辺国での営業強化
- **コスト削減:** 相対的価格競争力の強化と顧客の投資額低減
人員削減、経営の現地化、現地人登用
- **品質向上:** コスト同様品質面での競争力強化
親会社の支援も受け、技術力アップ

自動車 部会

溝口 イサオ 部会長

Departamento Automotivo

Presidente: Issao Mizoguchi

ブラジル日本商工会議所 業種別部会長シンポジウム 「自動車部会」レポート

2017年8月24日

< 2017 年上期の回顧と下期の展望 >

回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は

➤ 四輪業界動向

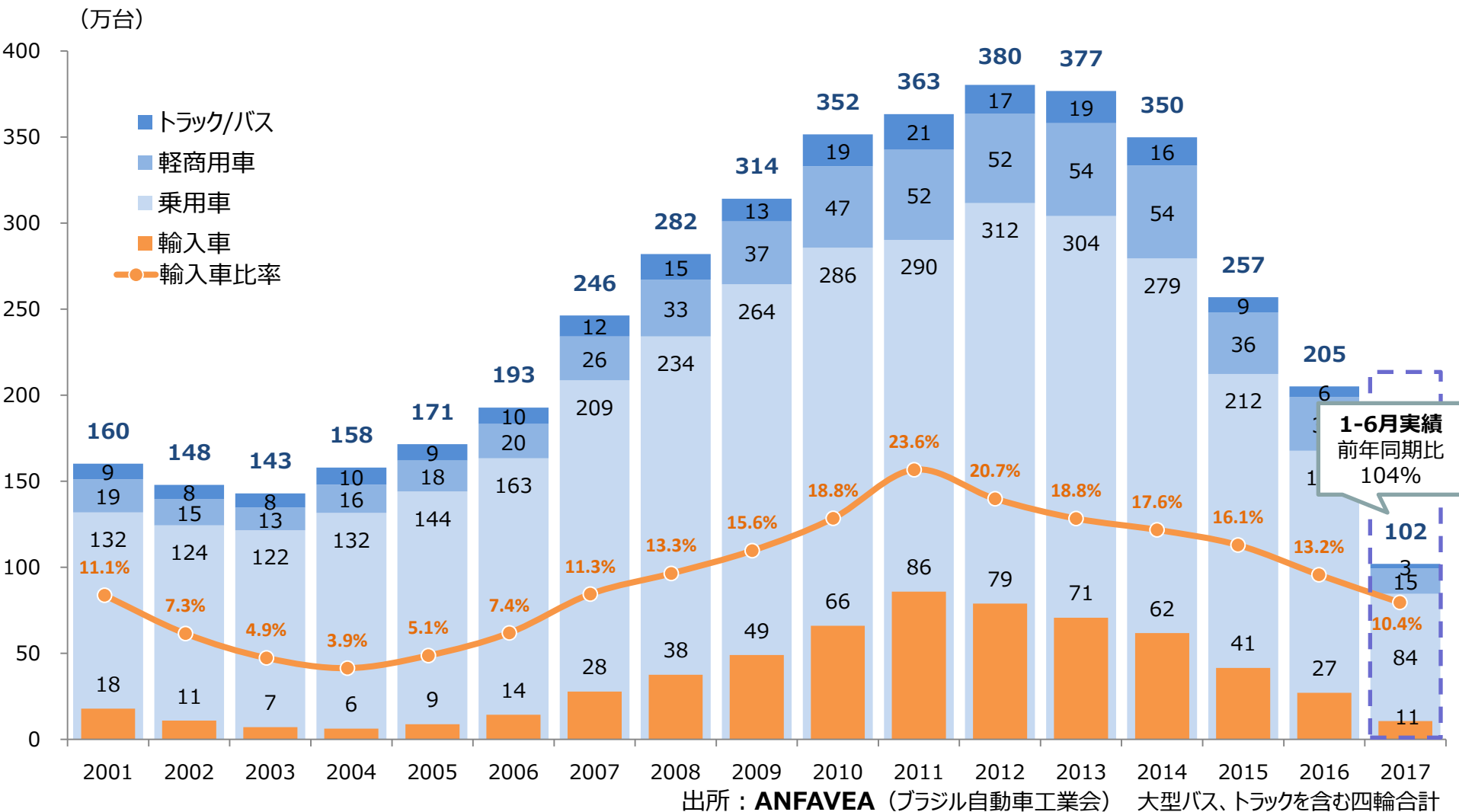
1. 2017年上期 振り返り
2. 2017年下期 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

➤ 二輪業界動向

四輪業界動向

1. 2017年上期 振り返り
2. 2017年下期 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

1. 2017年上期 振り返り - 販売台数 推移

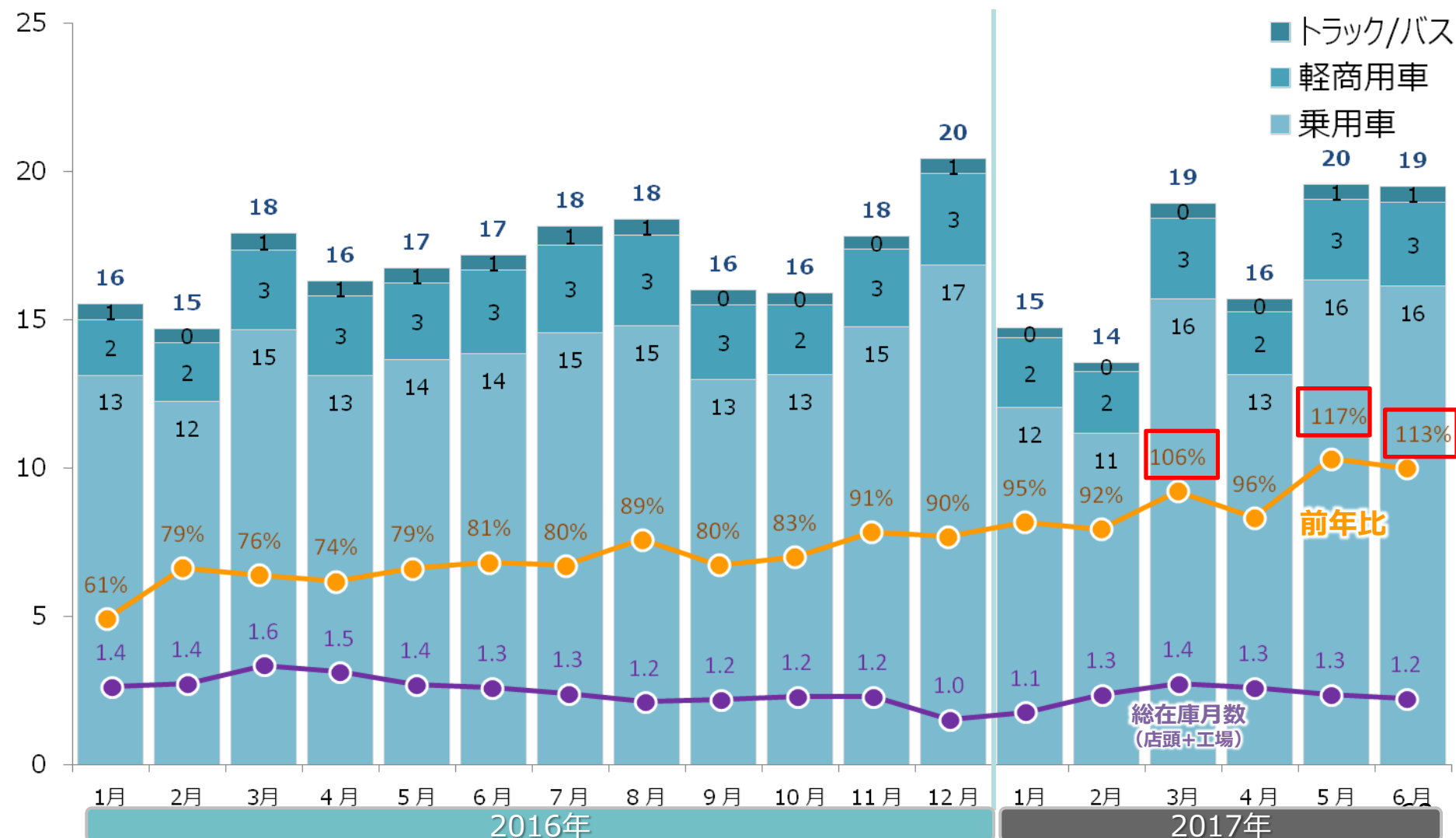


- 2017年上期の販売実績は約102万台(前年比：約104%)と4年ぶりに前年同期を上回った
- 輸入車比率は10.4%と、近年のレアル安傾向の影響により6年連続で低下

1. 2017年上期 振り返り 一月別販売台数 推移

(万台)

出典：ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計

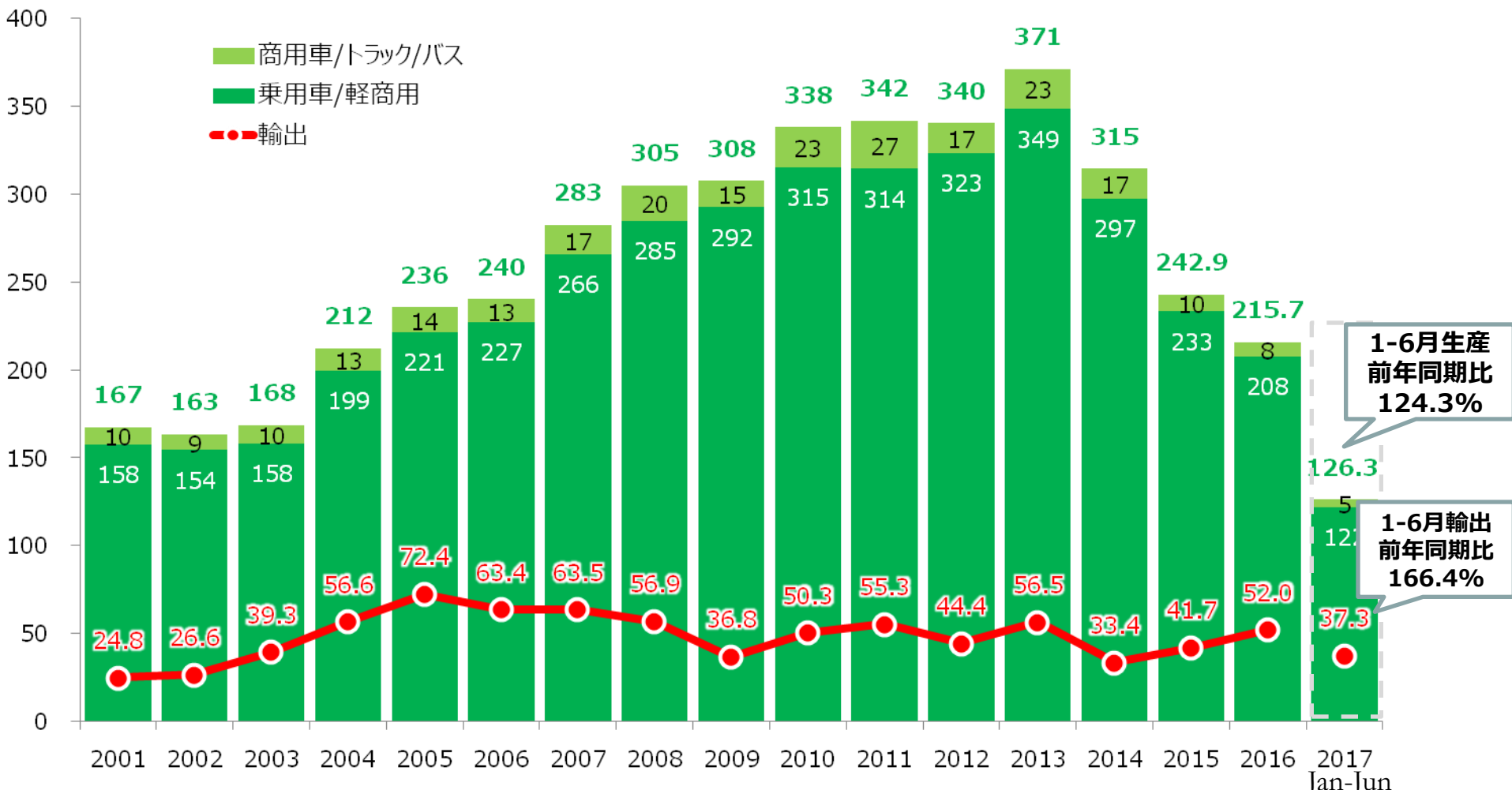


- 3月販売実績は、27ヵ月ぶりに単月で前年比プラス (2014年12月以来)
- 5月、6月も前年同月比プラスとようやく底打ちからの回復が見られ始める

1. 2017年上期 振り返り – 生産・輸出台数 推移

(万台)

出所：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず



- 2017年上期の総生産台数は約126万台（前年同期比：124.3%）
- 各社輸出シフトにより上半期として過去最高の輸出台数を記録（37.3万台/前年同期比:166.4%）

1. 2017年上期 振り返り – 輸出台数 詳細

◆ カテゴリー別 輸出概要 (単位：台)

出所：ANFAVEA/MDIC

カテゴリー	2016年	2016年 1H	2017年 1H	前年比
乗用車	410,153	178,463	301,326	+68.8%
ライトトラック	78,903	34,964	53,502	+53.0%
トラック	21,470	9,376	13,631	+45.4%
バス	9,760	3,842	4,104	+6.8%
合計	520,286	226,645	372,563	+64.4%

◆ 輸出相手国別 輸出金額 (CKD含む)

2016年		
	輸出相手国	FOB(百万ドル)
1	アルゼンチン 	3,173
2	アメリカ合衆国 	242
3	メキシコ 	234
4	チリ 	127
5	コロンビア 	117

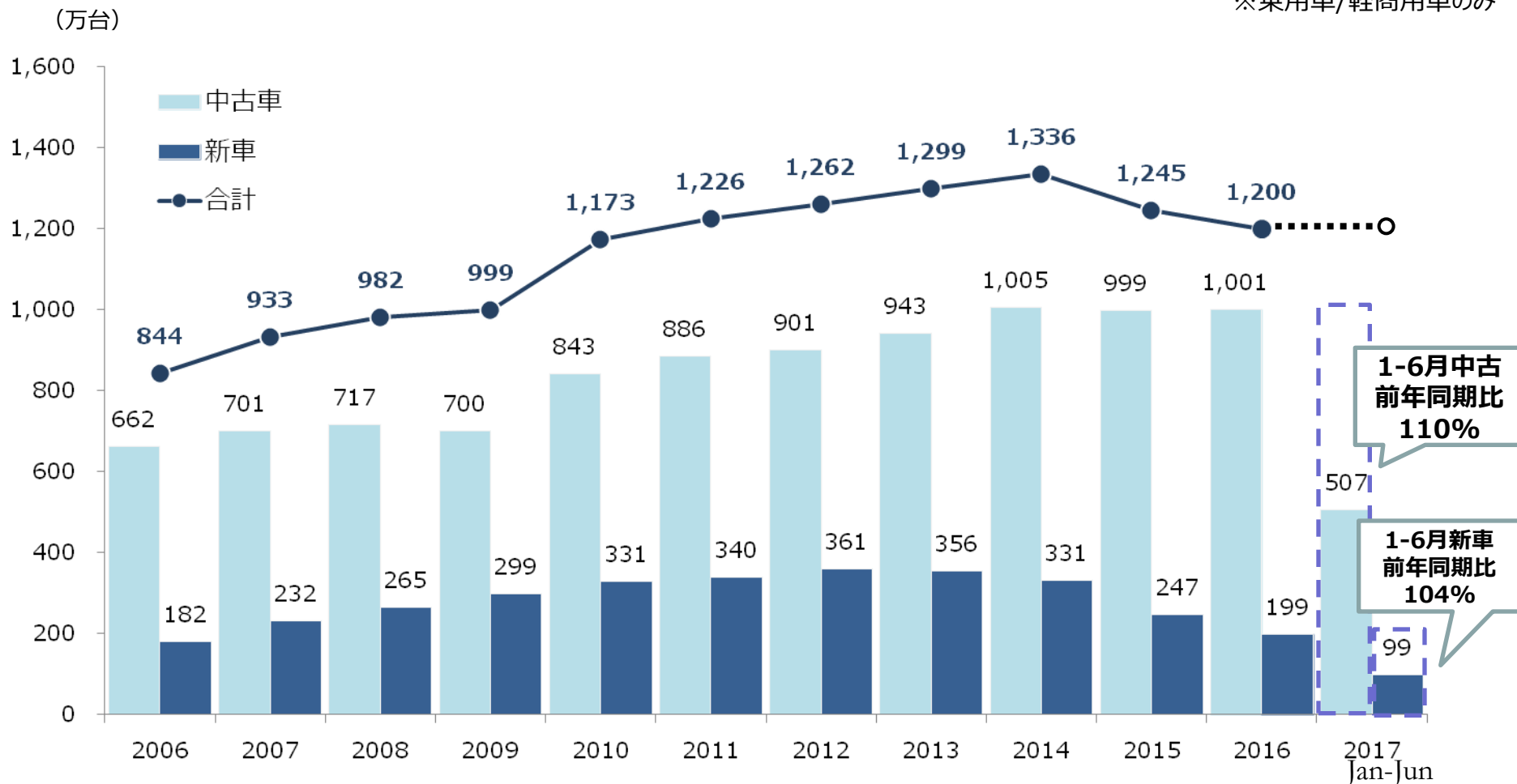
2017年 Jan-Jun			
	輸出相手国	FOB(百万ドル)	前年比
1	アルゼンチン 	2,288	+38%
2	メキシコ 	268	+67%
3	チリ 	142	+279%
4	コロンビア 	113	+123%
5	ウルグアイ 	106	+135%

- 国内市場の低迷が継続する中、各社輸出に力を入れ、前年比で大幅にプラス
- 市場が回復基調にあるアルゼンチンなど南米域内への輸出を中心に増加

1. 2017年上期 振り返り - 自動車業界(中古・新車)

出典：FENABRAVE/ ANFAVEA

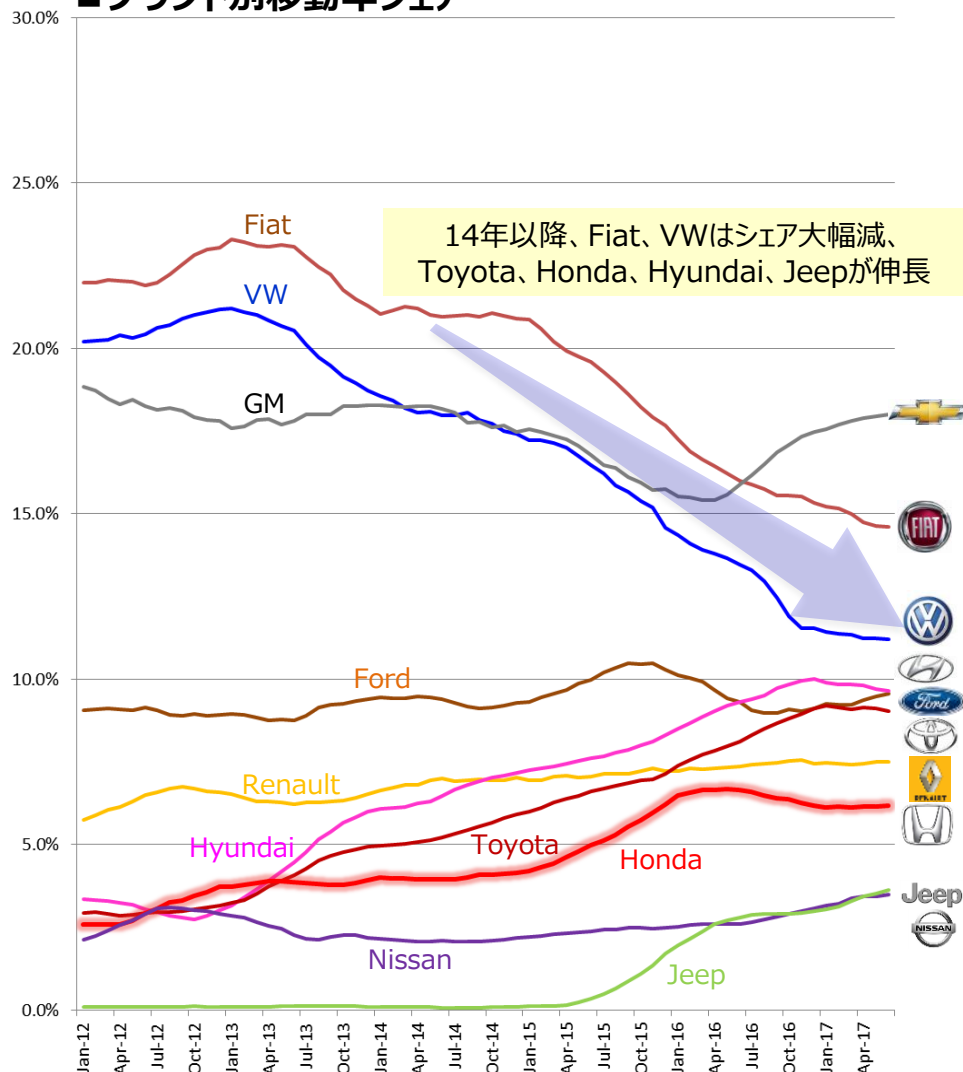
※乗用車/軽商用車のみ



- 新車市場に回復が見られる中、中古車市場上半期実績も前年を超え、年間でも昨年同様、約1,000万台の規模を維持する見込み。

1. 2017年上期 振り返り - 市場シェア

■ブランド別移動年シェア



	'16	台数	シェア
1		346	17.4%
2		305	15.3%
3		228	11.5%
4		198	9.9%
5		180	9.1%
6		180	9.1%
7		150	7.5%
8		123	6.2%
9		61	3.1%
10		59	3.0%

単位：千台

	'17 1H	台数	シェア
1		176	17.7%
2		135	13.6%
3		125	12.6%
4		93	9.4%
5		94	9.4%
6		88	8.8%
7		73	7.4%
8		65	6.5%
9		40	4.1%
10		34	3.4%

- Fiatが更にシェアを下げる一方、同FCAグループのJeepが1.0%以上シェアを伸長。
- 日系ブランドも堅調を維持。

1. 2017年上期 振り返り – 市場の回復

■ 上期に得られた好材料

- 経済指標の好転 (GDP 前期比増、失業率低下、インフレ・金利低下)
- FGTS (勤続期間保障基金) の引き出し許可
- ブラジル国内 販売台数 前年比増
- 輸出台数 前年比大幅増
- 工場稼働率の上昇 (2016: 46%→ 2017: 50%)
- 労働法改正案 下院・上院にて可決

■ 懸念項目

- 再燃した政情不安 (5月 テメル大統領の汚職隠ぺい疑惑発覚)

- 販売・生産台数は、結果として前年比を上回る実績
- 生産調整や輸出増など、各社の事業体質強化により、市場回復に向けた準備が整いつつある
- 政情不安が経済に与える影響は払拭されておらず、安定的回復を確信するには至らない状況

四輪業界動向

1. 2017年上期 振り返り
2. 2017年下期 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

2. 2017年展望 – 自動車業界

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

◆ ブラジル市場・輸出・生産の2017年予測

単位：万台

		2016年 最終結果	2017年 年初予測		2017年 中間修正予測	
			ANFAVEA (1月5日発表)	自動車部会	ANFAVEA (6月6日発表)	自動車部会
国内 市場	トラック・バス 含む総合計	205.0 前年比：-20.2%	213.0 前年比：+4.0%	210.3 前年比：+2.6%	213.0 前年比：+4.0%	215.0 前年比：+4.9%
	トラック・バス 除く合計	198.9 前年比：-19.8%	206.7 前年比：+3.9%	204.0 前年比：+2.6%	206.7 前年比：+3.9%	209.0 前年比：+5.0%
輸出台数		52.0 前年比：+24.7%	55.8 前年比：+7.2%	*前回予測スライド ANFAVEA 検証中	70.5 前年比：+35.6%	-
生産台数		215.7 前年比：-11.2%	241.0 前年比：+11.9%	241.0 前年比：+11.9%	261.9 前年比：+21.5%	261.9 前年比：+21.5%

- ANFAVEAは2017年 販売台数予測を6月時点でアップデートせず、前回予想の約213万台（前年比：+4%）を維持
- 輸出は、直近の傾向を背景に、70万台を超える予想に上方修正
- それに伴い生産台数も261.9万台と、半年前の予想より20万台の上方修正

四輪業界動向

1. 2017年上期 振り返り
2. 2017年下期 展望
3. **長期展望**
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

3. 長期展望 – ブラジル自動車市場予測

前回見直し

現状の販売状況、および長期経済指標などを総合的に見た場合

ブラジル自動車市場は底打ち状態にあり、

回復に転ずるのは2017年後半～2018年と予想

今回見直し

ブラジル自動車市場に回復傾向が見られ始め、

長期的には緩やかな成長基調と予想されるが、

安定的回復に向けては、引き続き政治状況とその経済への影響を注視する必要あり

3. 長期展望 – Rota 2030

Working Group

GT1 –Supply chain of Autoparts: Reindustrialization
自動車部品 サプライチェーン

GT2 -R & D, Engineering and Connectivity
技術開発、生産技術、コネクティビティ

GT3 -Energy Efficiency and Environment
エネルギー効率、環境

GT4 -Safety and sustainability
安全技術、サステナビリティ

GT5 -Low Volume Production
少量生産ブランド

GT 6 - Cost Structure for Competitive Integration
競争力のあるコスト構造

Contents

Actions to recover the financial and technological capacity of suppliers Tier2 and Tier3

- Restructuring fund for the chain
- Creation of REFIS for automotive suppliers
- Creation of capital market securities for industrial financing
- Program to support the Tooling Industry
- Insertion into global chains

- R & D support
- Development of Global Platforms
- Attracting R & D Centers
- Engineering Exports
- Advanced Manufacturing-Industry 4.0
- Specific program for acquisition of state-of-the-art equipment / software
- Infrastructure for connectivity including agribusiness / internet of things

- Energy efficiency target synchronized with emissions programs
- Heavy vehicles
- Valorization of ethanol / carbon cycle
- Hybridization and electrification
- Change in IPI taxation: MJkm and cubic capacity

- Vehicle Safety Labeling
- Road Map Road Safety
- Alignment Road Map x Agenda DENATRAN
- Definition or not of the technological route
- Harmonization of Standards

Low volume production companies

- Evaluation of the production of embedded automotive electronics systems
- Manufacturing stages
- Special treatment for assemblies without viability of production in the Country
- Attracting new investments

Reduction of export tax residue

- Logistic cost
- Reducing bureaucracy and simplifying

- 2017年で終了するINOVAR AUTOに替わる自動車政策の枠組みとして、Rota 2030が2018年より施行予定
- 6つの領域に分け、政府、ANFAVEA、自動車会社など業界全体で議論を推進中

四輪業界動向

1. 2017年上期 振り返り
2. 2017年下期 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

4. 日系ブランド 課題への対応

日系ブランドの課題

自動車部会にて
整理した課題と対応

① 厳しい状況に対する事業体質の強化

現地生産と輸出の強化

ブラジル生産モデルの輸出強化（トヨタ）

ブラジル現地生産の強化（日産）

ブラジル開発・生産モデルの輸出（ホンダ）

② 市場回復時の飛躍につながるブランド強化

環境安全規制強化とその対応

4. 日系ブランド 課題への対応－現地生産と輸出の強化



- **Etios** : ブラジルから中米向け（コスタリカ、ホンジュラス）への輸出を新たに開始



- **Corolla** : ブラジルから中南米向け輸出拡大を計画



- **Kicks** : ブラジルでの生産を17年4月から開始。今期中に輸出開始を予定。



- **WR-V** : 南米開発モデルとして17年2月よりブラジルでの生産を開始。
3月ブラジルにて発売、南米内への輸出を開始

- 各社、ブラジル国内での生産、および中南米域内への輸出を拡大
- 地域の需要に応えると共に、為替影響と、量を束ねることによるコストの低減により事業体質強化を図る

四輪業界動向

1. 2017年上期 振り返り
2. 2017年下期 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

5. 総括 ーまとめ

2017年上期実績/ 2017年展望

- 失業率低下など、主要経済指標がさらに好転
- 販売・生産台数が前年比を上回る実績となり、回復が目に見えて表れ始めた
- 政情不安が経済に与える影響は払拭されておらず、安定的回復に向けては注視が必要

状況を踏まえた対応

- 引き続き長期的視点に立ち、環境変化に負けない事業体質強化を推進
- 為替対応を踏まえた部品現調化や生産性向上などにより、コスト低減、および輸出促進を図る
- 現調化や輸出のさらなる加速には、ブラジルの国際的コスト競争力向上が鍵
- Rota2030含め、将来の成長を実現する枠組み作りが官民連携の下で必要

5. 総括（政府への提言）

政府および自動車業界の取り組みと課題

- 1) 新技術導入を促進する適切な自動車政策
 - 新技術を搭載した商品のブラジルのお客様への提供、ブラジルへの新技術集積

- 2) 自由貿易政策／輸出促進政策
 - ブラジル製車両の輸出拡大に向け、短期の経済情勢や貿易収支動向に影響を受けない一貫した政策の継続

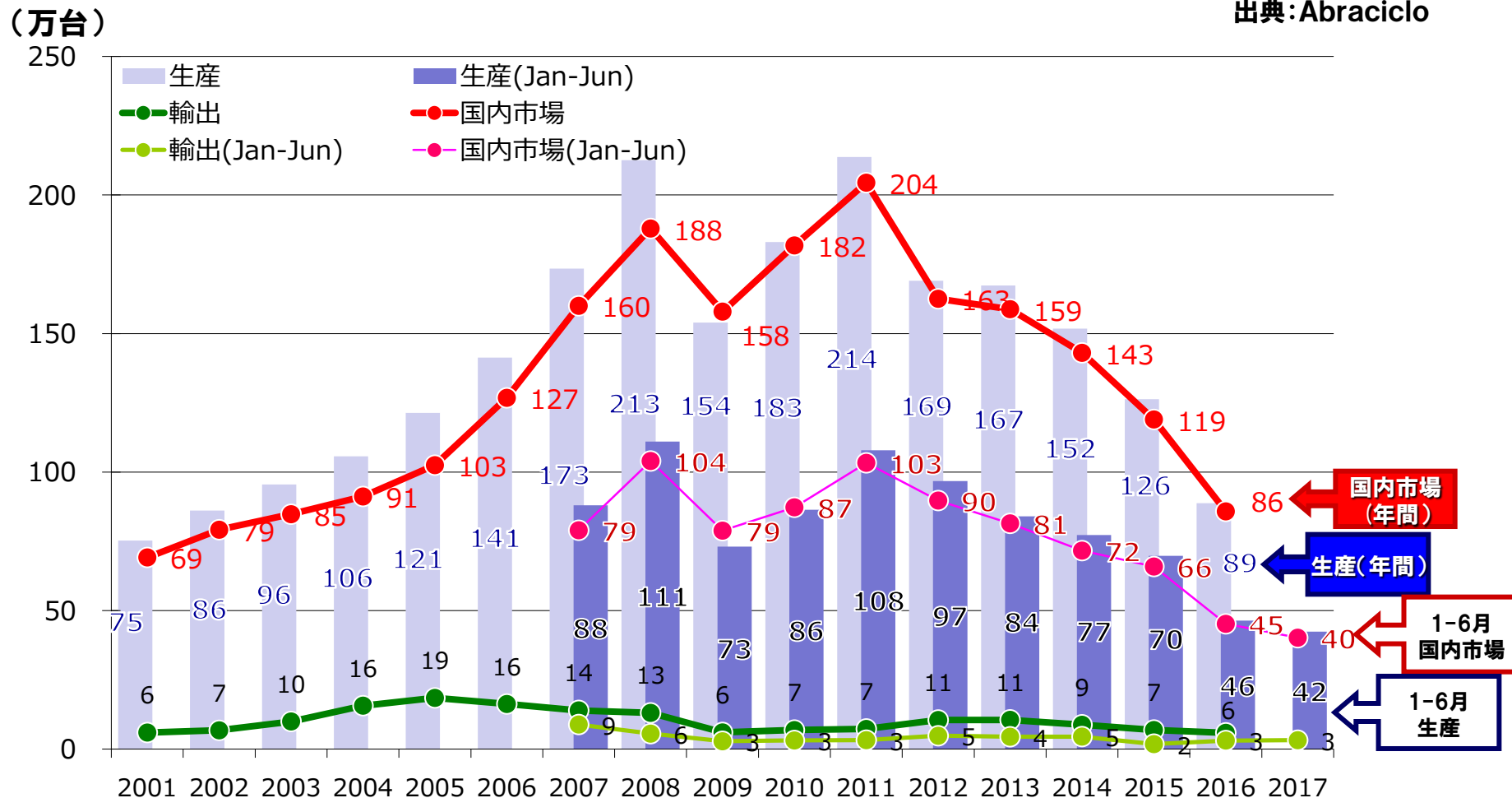
- 3) コスト削減に繋がる抜本的な取り組み
 - 道路・港湾等のインフラ整備による物流の効率化や、複雑な内国税の簡素化等

- 4) 新自動車政策Rota 2030
 - 内外差別や過度な国産化要求がされないこと
 - 新技術の導入を推進する政策であること
 - 燃費基準等については国際基準に調和した内容であること

二輪業界動向

二輪車 生産・販売 推移

出典:Abraciclo

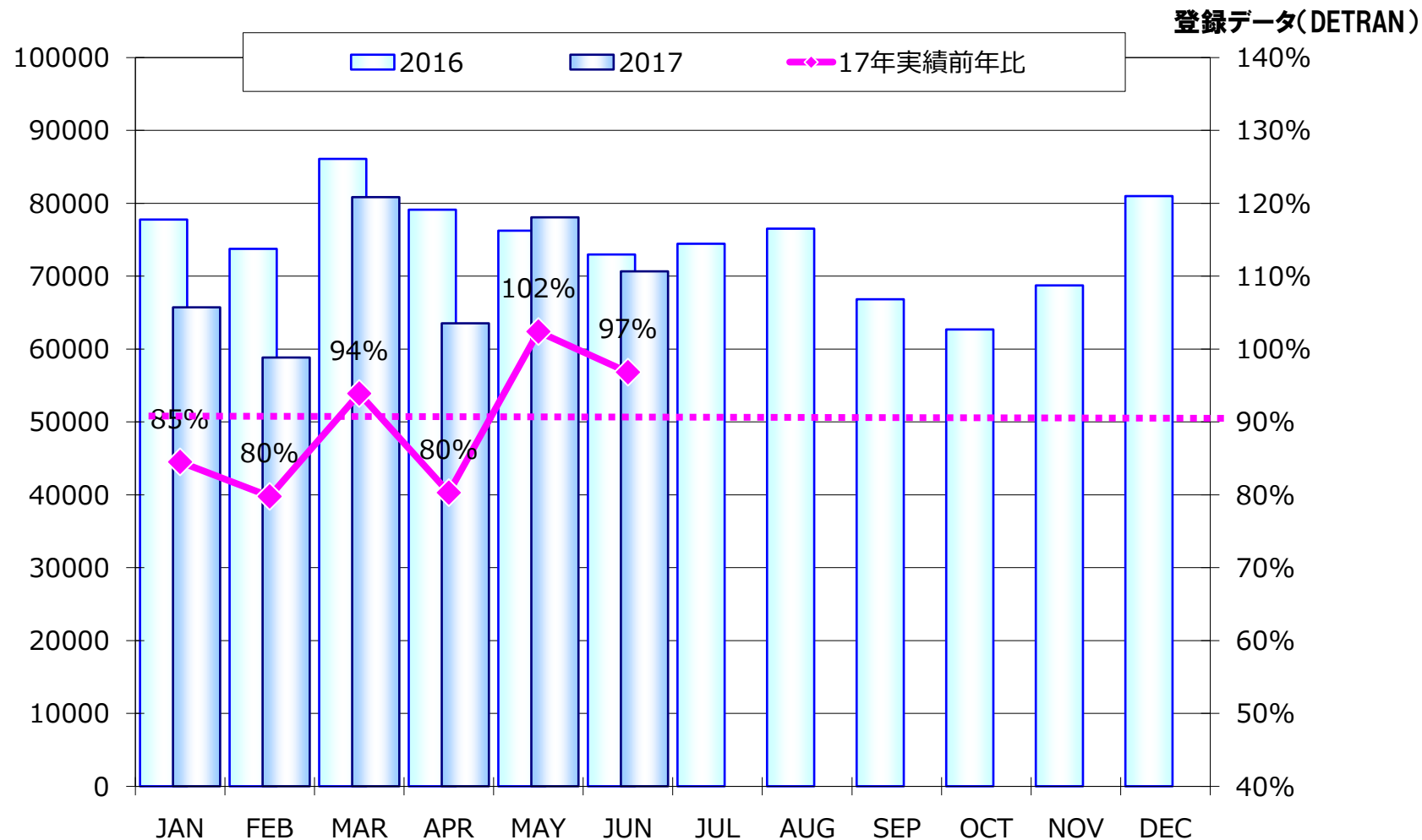


2017年上期実績

卸 40万台 (前年比89%)
 生産 42万台 (前年比91%)
 輸出 3万台 (前年比104%)

依然高い失業率により購買意欲の低下が小売り、卸に影響
 厳しい市場環境が続く、前年割れが続く

二輪車 月別販売推移 (2016年vs2017年)



高い失業率が二輪販売に影響を与え、17年上期累計は前年比90%。
前年比では回復傾向にあり、クレジット緩和、金利低下等により下期も緩やかな回復を期待。

Obrigado!

コンサルタント 部会

西口 阿弥 部会長

Departamento de Consultoria e Assessoria

Presidente: Aya Nishiguchi

「2017 年上期の回顧と下期の展望」

『回復途上のブラジル経済—
いま打つべき戦略は』

コンサルタント部会

構造改革は必要であるにもかかわらずブラジルは世界でも投資するには魅力的な国

経済成長のドライバー

1 – 政治的、産業環境



2017年からブラジルは景気回復の兆しが見え始め市場の信頼回復に寄与している。



財務省、国税庁のオーソドックスなマクロ経済政策により市場の不安定性 (Volatility) は減るのでは。



政府の支出を20年まで凍結することで投資を引きつけるのでは。



政治的に不安定であるのはブラジルで2017年の必要な改正を遅らせる可能性はある。



労働法改正が7月に議会で承認され、11月に施行。

2 – 経済環境



国内需要が魅力的なレベルに回復した際に2020年までブラジルは投資グレードを少しずつ回復する予定



中央銀行が金融緩和サイクルを保ち、財政引き締めが期待される。



産業活動は一般的に2016年に底を打ち、2017年から回復し始めるのでは。



ブラジルでインフラへ開発への投資がされ続けられれば投資するのに魅力的な国である。



天然資源が豊富で大きな消費基盤を持っている。

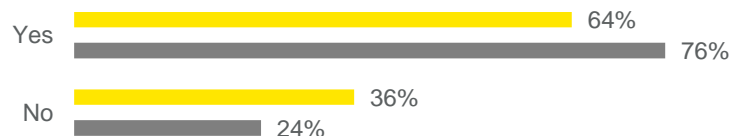
テーマ：「2017 年上期の回顧と下期の展望」

副題：『回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は』

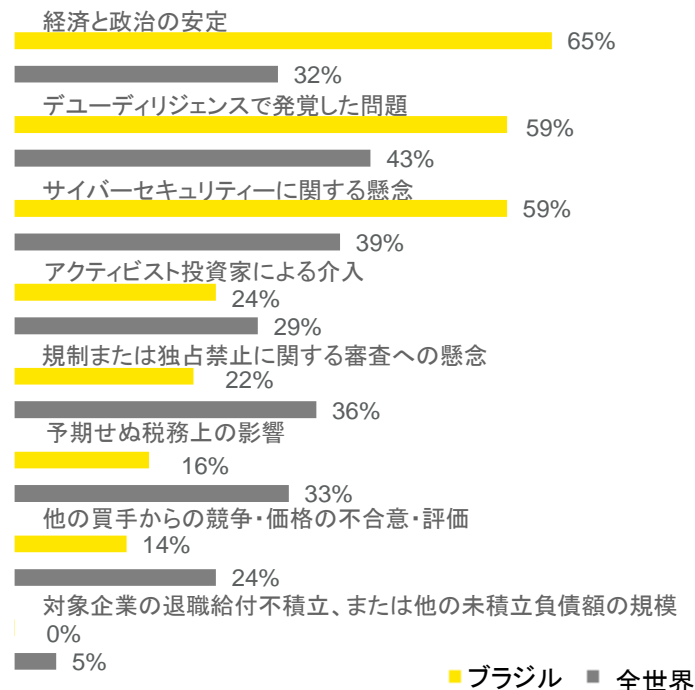
- ▶ M&A
 - ▶ 労働法改正
 - ▶ デジタル、ロボットの動向
 - ▶ コンプライアンス（eSocial、Bloco Kなど）
 - ▶ 税務（PERT、Tax Credit/Benefit、移転価格など）
 - ▶ キャッシュフロー
-
- ▶ 「見える化を！」

M&A 断念の主な理由

過去1年に買収計画の取りやめ、または買収の不成立を経験しましたか？



Yesの場合の理由は？(3つまで選択)*



M&Aを断念するのは：

ブラジルの回答者の64%は買収計画を成立させることができなかったと答えている。取りやめの主要理由は経済と政治の不安定。

- ▶ それに次ぐ主な理由はデューディリジェンスとサイバーセキュリティの問題。
- ▶ 多分な不確実性やかつてないペースで変わるマクロ経済要因のため取引を成功裡に完了、実行するには周到なデューディリジェンスが不可欠である。

* 2017年にEYで行われたアンケートにより、45カ国2千300人に面談した結果。

M&AブラジルM&A環境

買収企業がブラジル投資を決める一般的な理由

- ▶ 政治・経済的な不安にも拘らずより低いマルチプルおよび弱い通貨はM&A環境を好ましくしている。
- ▶ 2億5000万人というラ米最大の人口。
- ▶ 同族経営の事業が多い-特定産業は高度に分断化している。
- ▶ 特定産業分野は高成長の可能性がある。
- ▶ 高いインフラ投資の需要。
- ▶ 各地域はそれぞれ特徴のある多様化した国-企業は従来からの南部、南東部に加えて北東部にも投資している。
- ▶ 特定地域や産業への税制優遇策。

M&AブラジルM&A環境(続き)

ブラジルで案件が成立しない主な理由

- ▶ 文化的な違いを投資家が適切に考慮していない。
- ▶ 不十分な投資前のデューディリジェンス。
- ▶ 過剰な官僚手続きや法的手順。
- ▶ 予期しない税、環境および労働問題などによる複雑な規制環境。
- ▶ 為替レートを含めたマーケットの乱高下。
- ▶ 被買収企業の経営内容。
- ▶ 買収対象の入手可能な財務や主要情報の中身。
- ▶ 相乗効果、リストラから得られる効果の過剰評価。
- ▶ 非効率な取得後のモニタリング。
- ▶ 財務問題の抱えるパートナー。
- ▶ 取引が完了するまでの期間の過小評価。

M&Aリスクと課題

▶ 一般的なM&Aリスクと課題

- ▶ 文化的な要素
- ▶ 労働問題
- ▶ 税務
- ▶ 情報の中身
- ▶ IT
- ▶ ブラジルのGAAP
- ▶ 利益の内容
- ▶ 資産内容
- ▶ 財務報告

労働訴訟ブラジルと日本の比較

▶ 日本の労働関係民事通常訴訟、労働審判の数

	労働関係民事通常訴訟	労働審判	日本 (合計)
2012年	3.358		7.077
2013年	3.341	3.678	7.019
2014年	3.257	3.416	6.673
2015年	3.389	3.679	7.068

弁護士人数

日本: 2015年: 36,415

ブラジル2016年: 1,044,753

米国: 2016年: 1,335,963

▶ 日本とブラジルの労働訴訟受理数の比較

	日本	ブラジル	日/伯比率
2012年	7.077	3.276.156	0,21602%
2013年	7.019	3.544.184	0,19804%
2014年	6.673	3.666.834	0,18198%
2015年	7.068	3.768.454	0,18756%

▶ ブラジルでは2016年の労働訴訟受理数は3.957.179件

ブラジル労働訴訟

- ▶ 主な労働訴訟の提訴の理由
 - ▶ 残業代(支払っていない、マネージャークラス)
 - ▶ 休憩時間
 - ▶ 契約内容を超えた業務履行による追加の給与
 - ▶ 賃金格差(同職種)
 - ▶ 正当理由の解雇
 - ▶ モラルハラスメントなど
- ▶ 労働債務
 - ▶ 顕在的債務
 - ▶ 潜在的債務

ブラジル労働訴訟

▶ 法律に関わる文化

- ▶ 日本 辻褄がつく日本、発想一簡便化
- ▶ ブラジル 複雑



Inseguridade Jurídica (法的不安定性)

専門家や判事によって法的見解が異なることがある

- ▶ M&A後の労働雇用債務の継承に注意
- ▶ 多くのブラジル企業は短い間勤務する前提で雇用
- ▶ 労働改正で人事規定の見直し
- ▶ 社内では可能な限りよい環境を！

コーヒーブレイク

COFFEE BREAK

後半司会

大久保 敦 企画戦略委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Planejamento e
Estratégia**

Atsushi Okubo

化学品 部会

鎌倉 勇人 部会長

Departamento de Produtos Químicos

Presidente: Hayato Kamakura

ブラジル商工会議所 - 化学品部会

Chamber of commerce - Section of Chemicals

「2017年上期の回顧と下期の展望」

副題：回復途上のブラジル経済 - いま打つべき戦略は

日付：2017年8月24日（木）

発表：ThreeBond do Brasil 鎌倉勇人

目次

1. 世界の化学業界の動向
2. 日本の化学業界の動向
3. ブラジル化学品部会の2017年上期の回顧と下期の展望(市場別)
 - 3-1. 輸送(自動車、バイク、飛行機など)
 - 3-2. 農業(農薬、飼料、肥料など)
 - 3-3. ヘルスケア(食品、化粧品、医療品など)
 - 3-4. 印刷(インキ、製紙、フィルムなど)
4. 総括
5. 「回復途上のブラジル経済いま打つべき戦略は」



1. 世界の化学業界の動向

化学産業の世界売上規模ランキング(2015年)

順位	企業名(国名)	売上規模 [単位:100万ドル]
1	BASF (ドイツ)	78,698
2	ダウ・ケミカル (アメリカ)	58,167
3	中国石油化工集団 (中国)	57,953
4	サウジ基礎産業公社 (サウジアラビア)	43,341
5	エクソンモービル (アメリカ)	38,178
6	台塑関係企業集団 (台湾)	37,059
7	ライオンデルバセル (オランダ)	34,839
8	デュポン (アメリカ)	29,945
9	イネオス(スイス)	29,652
10	バイエル(ドイツ)	28,120
11	三菱ケミカル(日本)	26,342
12	ロイヤルダッチ(イギリス・オランダ)	24,607
13	LG化学(韓国)	21,456
14	ブラスケム (ブラジル)	19,578

2015年末
ダウケミカル(2位)
デュポン(8位)
合併
10兆円規模!

2016年上期
中国石油化工業(3位)
シンジェンタ(スイス)を買収

農業分野で
ダウデュポンを上回る規模

2016年下期
バイエル(10位)
モンサント(アメリカ)を買収

2. 日本の化学業界の動向

* 日本の化学業界の規模を示す指標: **農薬と石油化学**

農薬

時期	企業名	動向
2015年	日本農薬	ハイデラバードケミカル(インド)を子会社化
2016年	住友化学	エクセルクロップケア(インド)を買収
	三井化学アグロ	PIインダストリアーズ(インド)と合併で農薬登録会社を設立
2017年	クマイ化学	有効成分を製造するイハラケミカル工業を吸収合併

石油化学

各種プラスチックや合成ゴムの主要原料(石油 → ナフサ、灯油 → エチレン、プロピレン)

時期	企業名	動向
2014年	三菱化学	鹿島エチレン第一プラントの稼働停止(生産量:343千トン/年)
2015年	住友化学	千葉エチレンプラントの稼働停止(生産量:380千トン/年)
2016年	旭化成	水島エチレンプラントの稼働停止(生産量:443千トン/年)

- リーマンショック以降、主要製造業が日本から海外移転、その後の東日本大震災が決定的。
- シェール革命により、アメリカの石油化学産業が復活。
(アジアの石油由来のエチレンより、アメリカの天然ガス由来のエチレンがコスト面で優位になった)

化学業界自体そのものが、一つの大きな岐路にさしかかっている！

3. 2017年上期の回顧と展望

化学品部会所属企業・団体：71社
→ アンケート協力：26社（工場あり：15社）

＜アンケート方法＞
各市場で売上と利益の増減調査を実施

＜化学品部会が関わる市場＞

市場	アンケート数	化学品部会 企業占有率
輸送（自動車・バイク・航空機）	20	33%
機器（工作・電気電子・医療品）	5	8%
ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品）	12	20%
農業（農薬・飼料・肥料・酵素）	6	10%
印刷（フィルム・製紙・インキ）	6	10%
建築	4	7%
服飾	1	2%
コンシューマー	6	10%

計60件

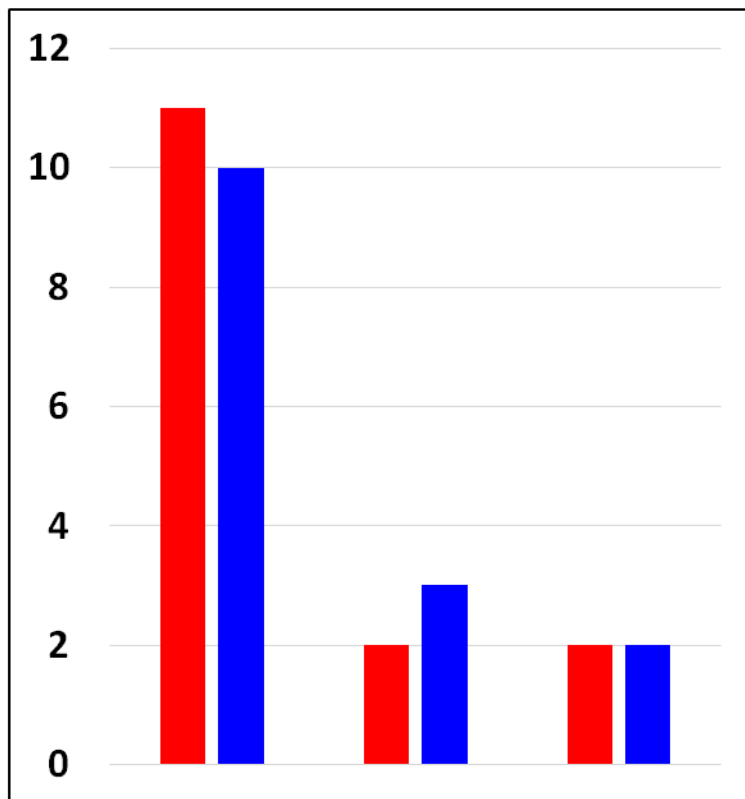
3. 2017年上期の回顧と展望

■ 輸送（4輪・2輪・飛行機）

用途：エンジン用シール剤、プラスチック部品（原料）、潤滑油、ガラス素材など

売上 利益

ポジティブ ネガティブ



増加

不変

減少

<業界動向>

- 4輪：同期比で、販売・生産台数増加
- 2輪：市場回復が遅延

<各企業の売上増減の要因>

- 設備投資
- 新市場開拓
- 生産性の向上（生産体制の見直し）
- 顧客の支払い遅延（信用不安）

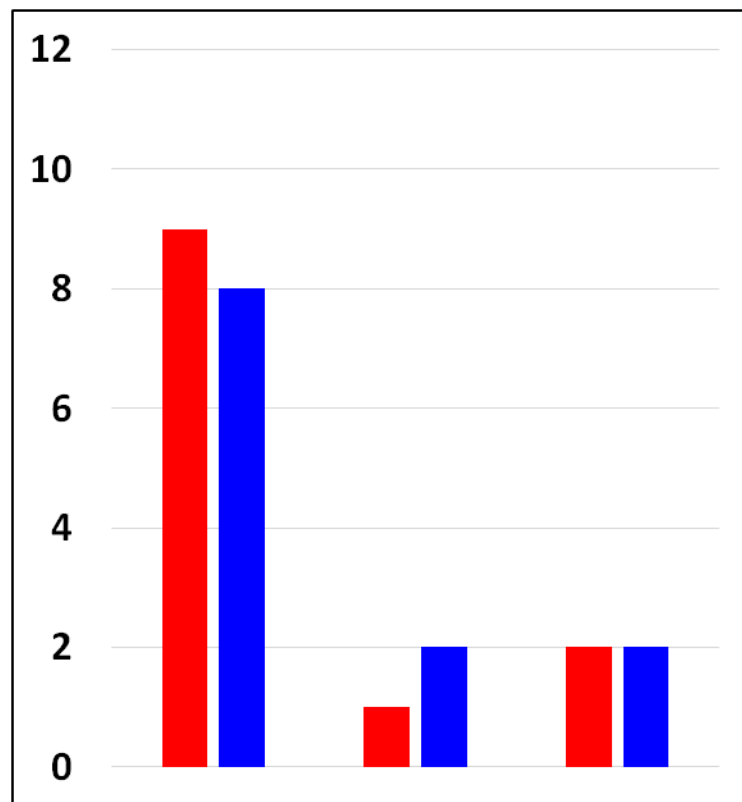
（2016年比較）2017年上期

3. 2017年上期の回顧と展望

■ 輸送（4輪・2輪・飛行機）

用途：エンジン用シール剤、プラスチック部品（原料）、潤滑油、ガラス素材など

売上 利益



増加

不変

減少

<下期に向けた対策>

- 失った顧客の再獲得
- 市場がさらに回復
- 輸入品からブラジル内製品に切替

2017年下期展望

3. 2017年上期の回顧と展望

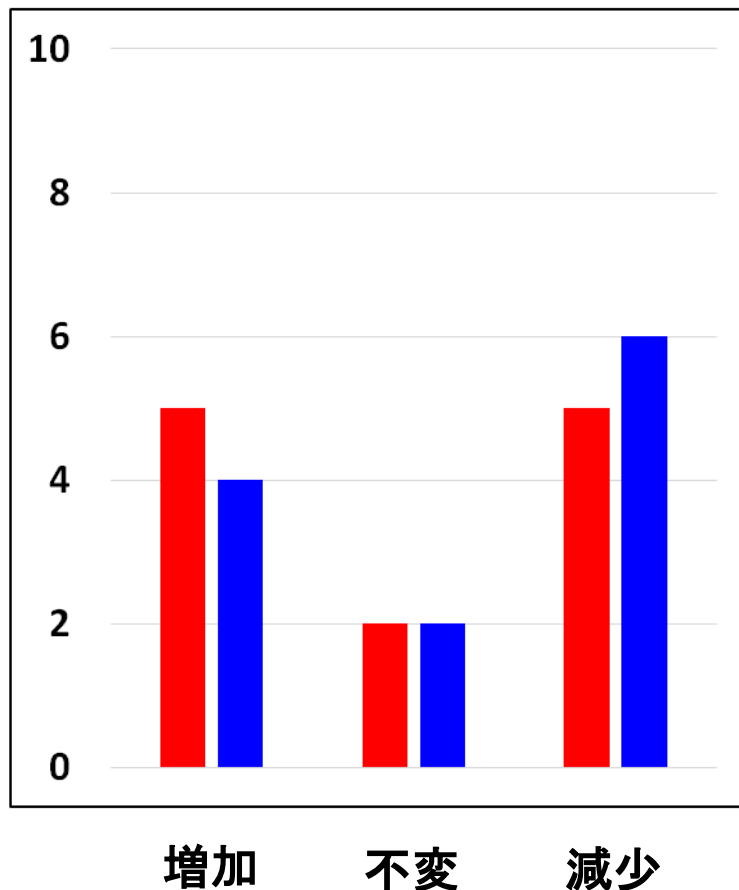
■ ヘルスケア(食品・化粧品・医薬品)

用途: 食品添加剤、包装フィルムや容器、スキン&ヘアケア用品、一般医薬品など

売上 利益

ポジティブ

ネガティブ



<業界動向>

- 食品: 市場は微増 (食肉偽造問題 影響小)
- 化粧品: 市場は微減
- 医薬品: 市場縮小が継続中

<各企業の売上増減の要因>

- 新規顧客の開拓
- 新規製品を開発投入
- 製造や経費など、コスト管理の徹底
- 周辺諸国の市場開拓に注力
- 顧客との契約終了、経営悪化
- 価格競争激化 (中国製品の台頭)

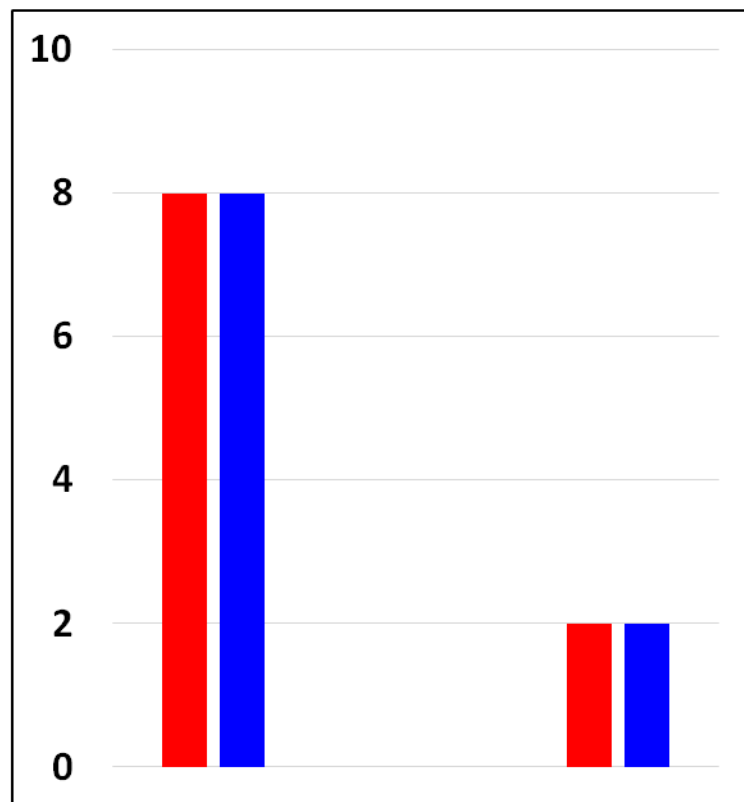
(2016年比較)2017年上期

3. 2017年上期の回顧と展望

■ ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品）

用途：食品添加剤、包装フィルムや容器、スキン&ヘアケア用品、一般医薬品など

売上 利益



増加

不変

減少

<下期に向けた対策>

- 景気回復による消費増加待ち
- 新製品の導入
- 新規顧客の獲得
- プロモーション活動の強化
- 生産体制の見直し継続

2017年下期展望

3. 2017年上期の回顧と展望

■ 農業（農薬・飼料・肥料・酵素）

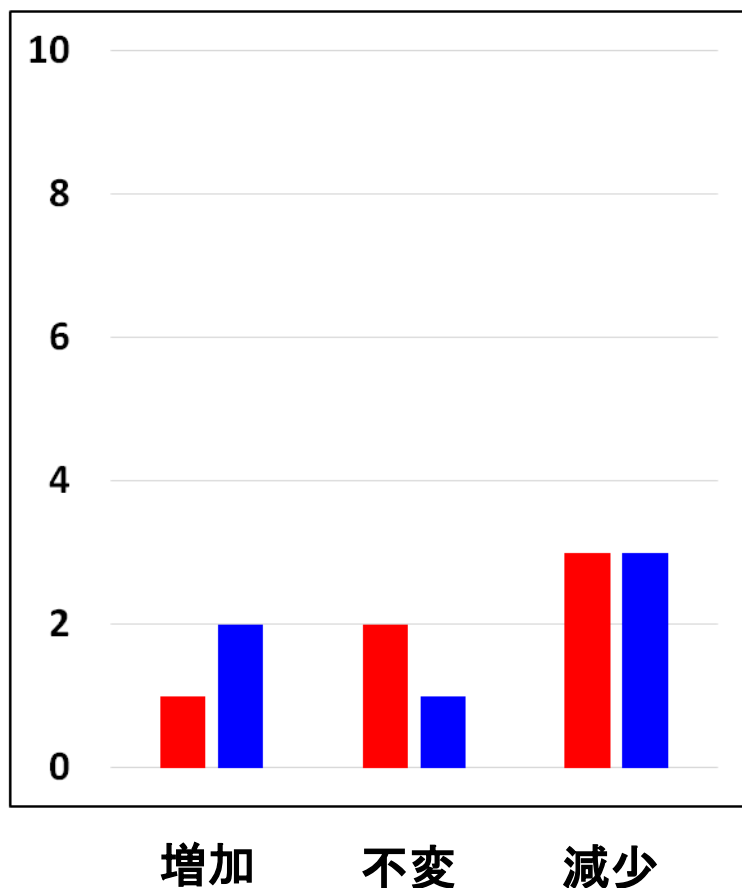


用途：殺虫・殺菌・除草剤、野菜やフルーツの薬剤、検診用酵素など

売上 利益

ポジティブ

ネガティブ



<業界動向>

市場は縮小傾向

<各企業の売上増減の要因>

試験農場設置による開発の効率化

経費削減

豊作による作物価格の下落

中国・インドからのジェネリック製品の攻勢

流通在庫過多

模倣品(違法品)が横行

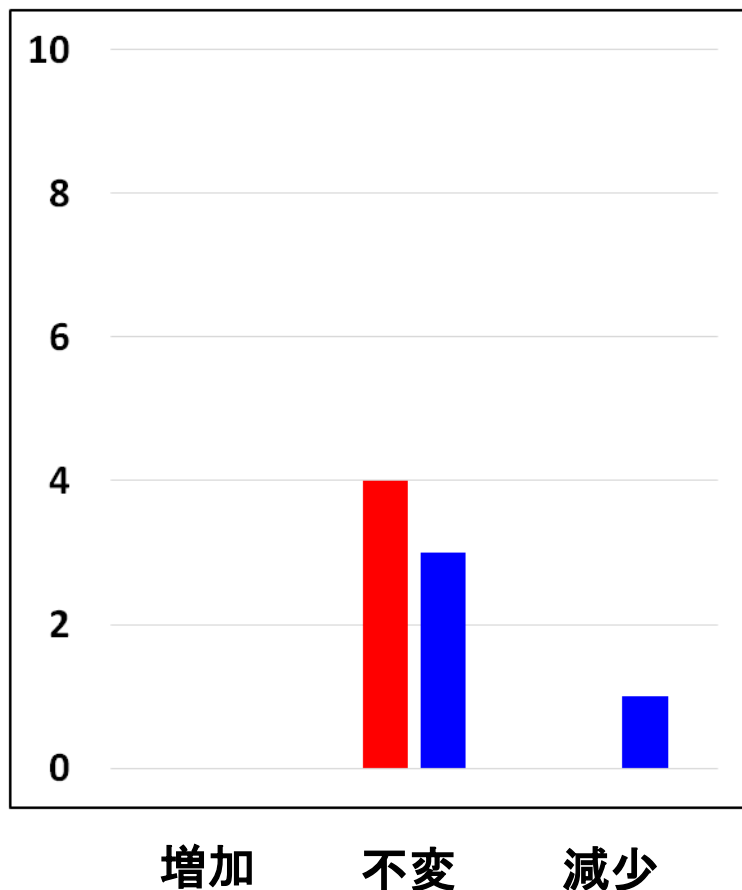
3. 2017年上期の回顧と展望

■ 農業（農薬・飼料・肥料・酵素）



用途：殺虫・殺菌・除草剤、野菜やフルーツの薬剤、検診用酵素など

売上 利益



<下期に向けた対策>

- 周辺諸国への展開
- 流通在庫の消化
- 新製品の導入
- 基本に立ち返った営業活動

3. 2017年上期の回顧と展望

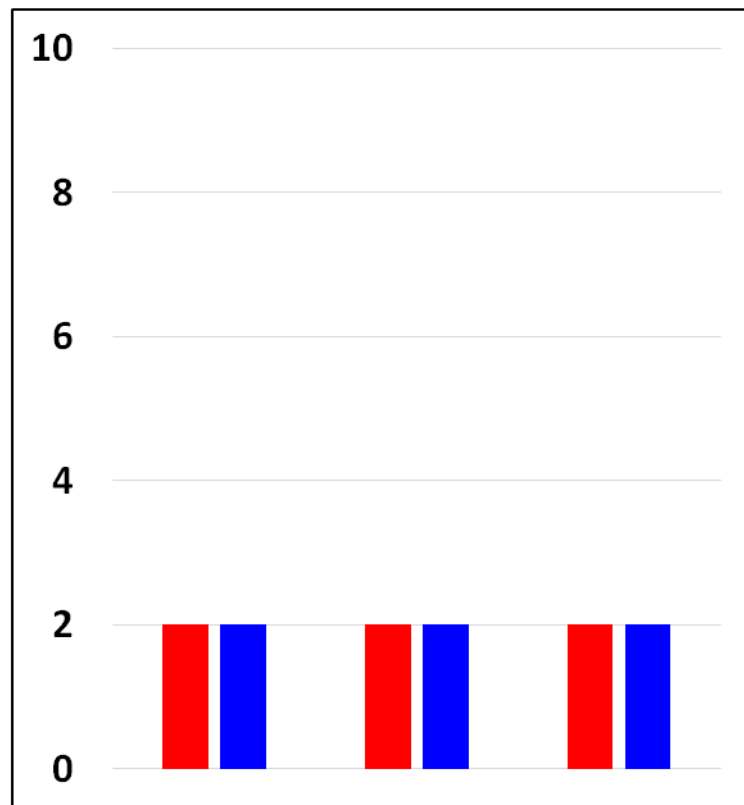
■ 印刷（インキ・フィルム・製紙）

用途：プリンター用インク、食品パッケージ用フィルム基材、感熱紙原料など

売上 利益

ポジティブ

ネガティブ



＜業界動向＞

□市場自体が低迷

＜各企業の売上増減の要因＞

- 高機能製品の展開
- 関連会社統合による経費削減
- 販売戦略の見直し
- 価格競争激化（税制の障害）

増加 不変 減少

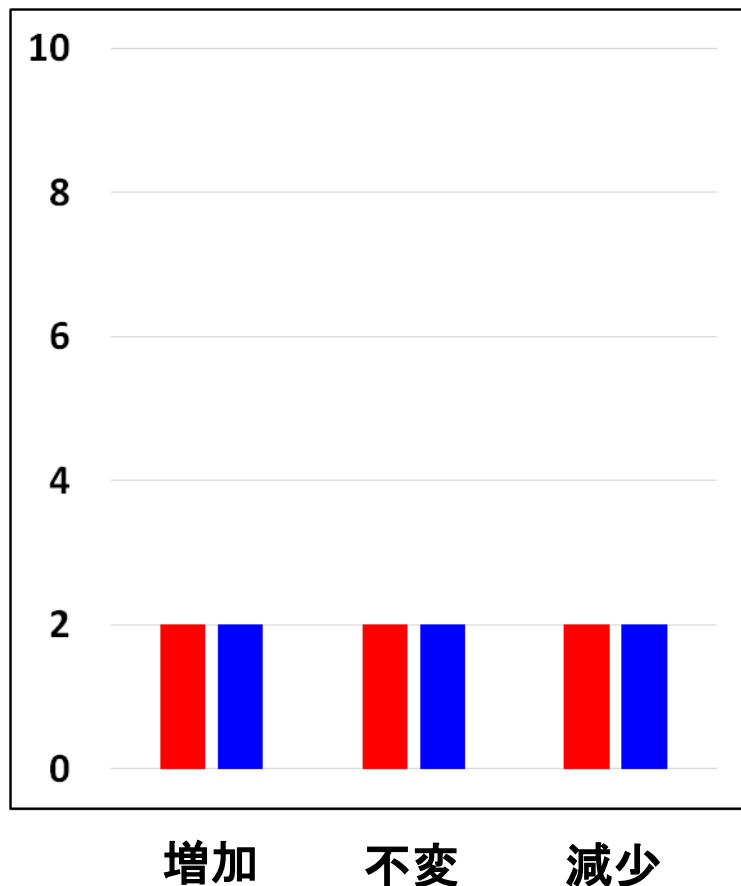
(2016年比較)2017年上期

3. 2017年上期の回顧と展望

■ 印刷（インキ・フィルム・製紙）

用途：プリンター用インク、食品パッケージ用フィルム基材、感熱紙原料など

売上 利益



<下期に向けた対策>

- 商流見直しによるコストダウン
- 周辺諸国への展開

2017年下期展望

3. 2017年上期の回顧と展望

■機器（工作・電気電子・医療）

用途：固定用接着剤、プラスチック部品、ソフトウェアなど

■建築

用途：床材、塗料、プラスチック部材など

■服飾

用途：合成ゴムなど

■コンシューマー

用途：接着剤、文房具など

項目	売上利益					
	上期回顧			下期展望		
	増加	不変	減少	増加	不変	減少
機器	1	1	3	1	3	1
建築	2		2	2	1	1
服飾		1			1	
コンシューマー	4	2		5	1	

4. 総括

ポジティブ

ネガティブ

2017年 上期

(一部の市場で需要の回復が見られる)

化学品部会:低調な傾向

売上増加:28/60件

- 昨年からの経済不振の影響が色濃く残り、信用不安が継続
- 消費者の購買意欲が未回復

2017年 下期

(各市場で緩やかな回復傾向だが…)

化学品部会:我慢が続く

売上増加予測:32/60件

- 周辺諸国への展開
- 新製品の導入
- 模造品の流通 (企業努力では対応できない)

5. 回復途上のブラジル経済 – いま打つべき戦略は

- 特許申請のスピード化
- 当局認可のスピード化・簡素化

日本の技術力が
生かせない

市場	内容	日本	ブラジル
(全般)	特許	2～3年	6～8年
農業	認可	3年	5～7年
医薬	認可	1年	3年

- 政治の不透明さ: 国家政策の推進、リアル通貨の安定
- 労働問題(過保護): 裁判関係(経費が膨大)
- 関税・税金: 販売価格のアップによる競争力低下

**「競争力豊かな」
制度(ルール)作り!**

「持続可能な競争力」格付2015年

順位	国名
1	アイスランド
2	スウェーデン
8	ドイツ
11	日本
24	ブラジル

保有資源、人口、
ガバメント能力など
から各国を評価

参考: SolAbility(スイス)

* 最後に

カネカ

ブラジル化学品部会所属

「4つの先見的事業を創出し、2020年度に1兆円企業の達成を目指す」

1. 環境: バイオポリマー(100%植物由来で、軟質・耐熱性生分解性ポリマーの開発は世界初)
→ ビニールハウスなどの農業資材に利用(土に埋めれば分解されるので利便性が高い)
2. 健康: 「再生・細胞医療プロジェクト」の立ち上げ
→ 細胞製剤の開発、iPS細胞を利用した創薬支援製品の開発
3. 情報通信: 超高熱伝導グラファイトシート
→ 熱伝導率が銅の約3倍で、モバイル端末の放熱に役立つ
4. 食料支援: 光合成を活発化させる新高機能肥料
→ 世界の食料不足問題に対する解決策の一つとして期待される

リンテック

「革新的新製品の創出により新たな成長を目指す」

保有技術を高次元で融合させ、独自性が高く、よる差別化した製品の開発
→ 従来とは全く異なる技術領域への挑戦「人口筋肉関連」

参考: 産学社

化学業界は「変化」に強い

化学業界自体の大きな変化、浮き沈みの激しいブラジル経済にも対応

電気電子 部会

千野 浩毅 部会長

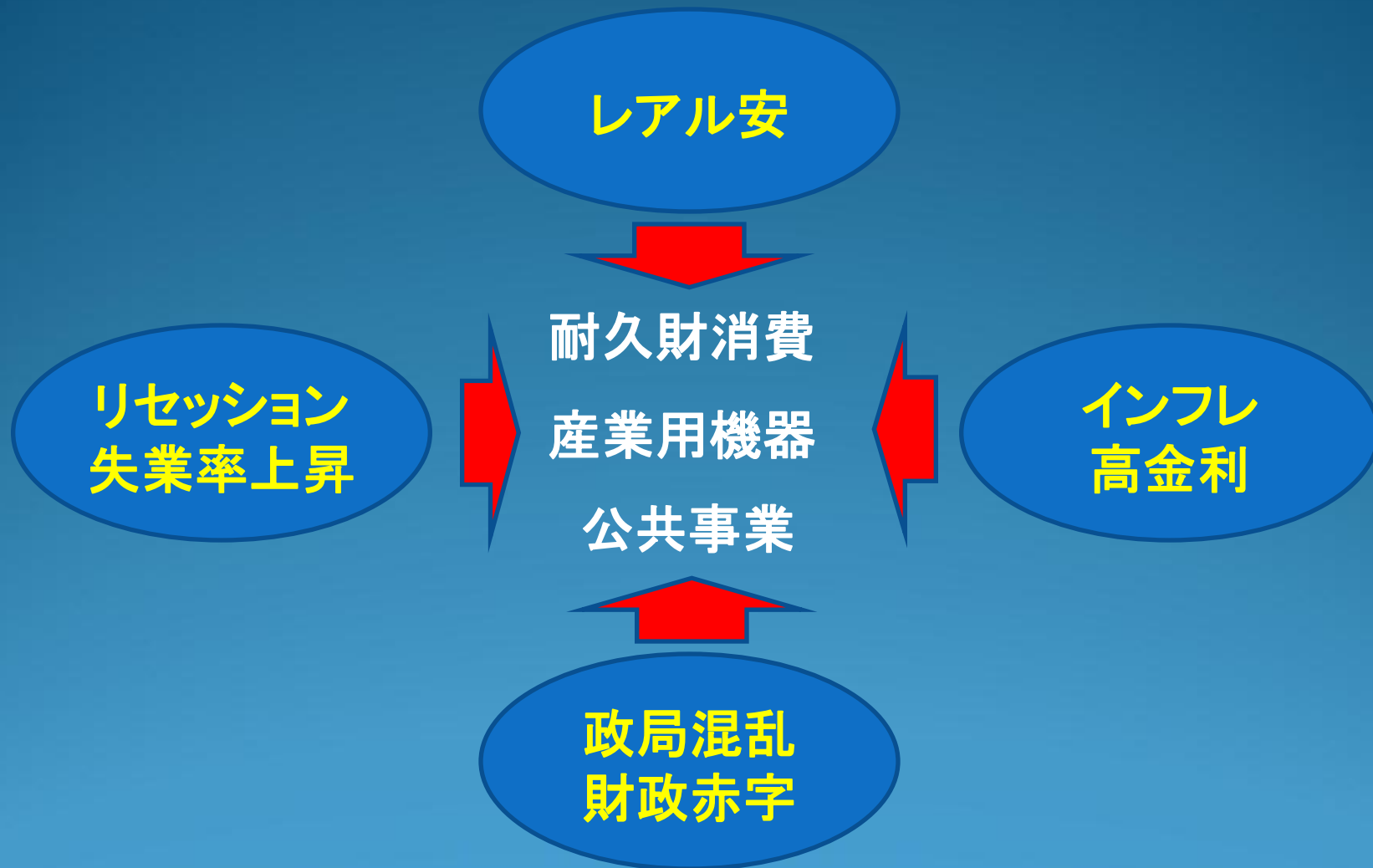
Departamento Eletroeletrônico

Presidente: Hiroki Chino

電気電子業界 2017年上期回顧と下期展望

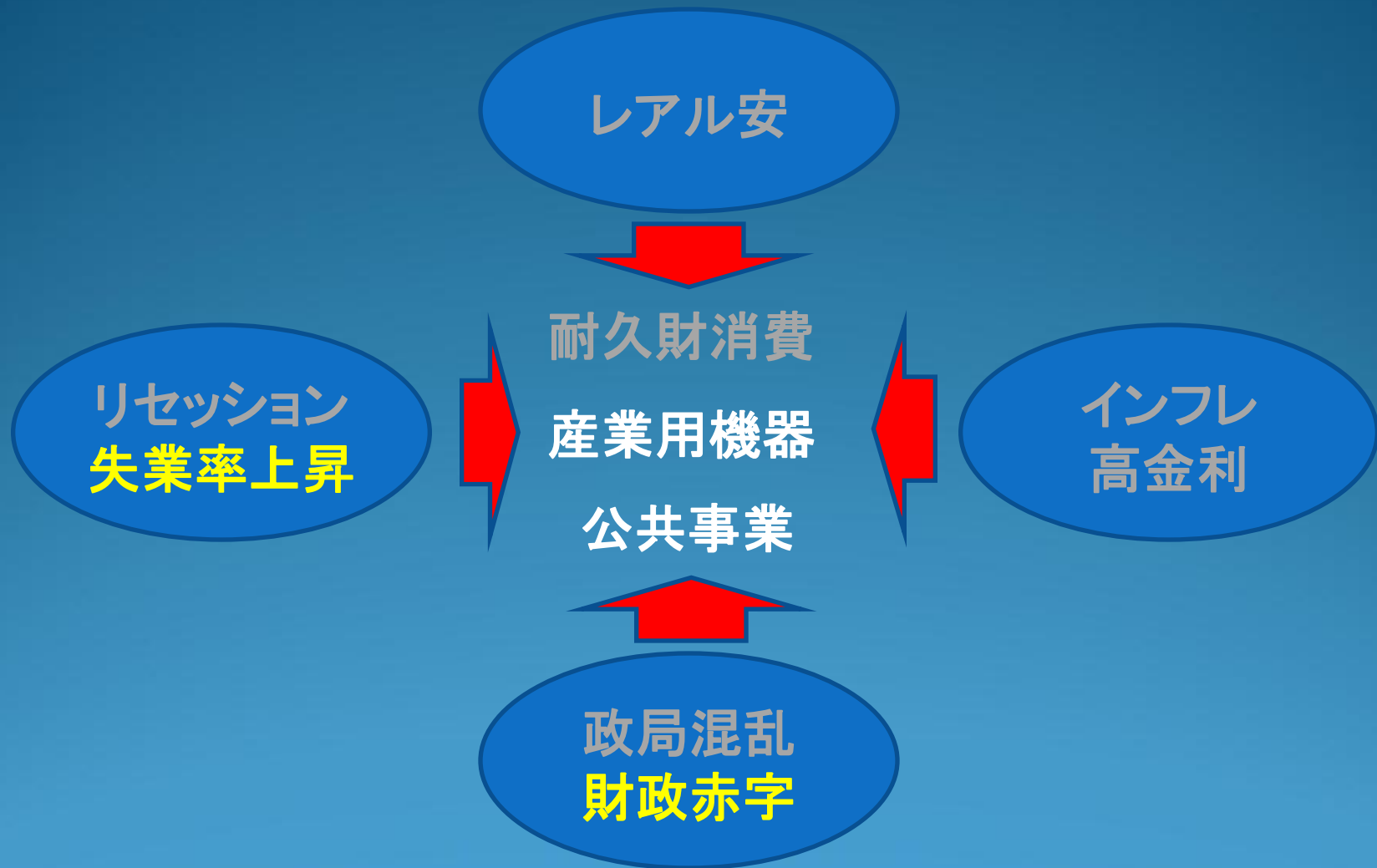
2017年8月24日
電気電子部会

電気電子業界の事業環境（2015年～2016年）



一般消費者向け耐久消費材、産業向け機器、公共事業の全分野にわたって
事業環境は「どん底」の状況にある

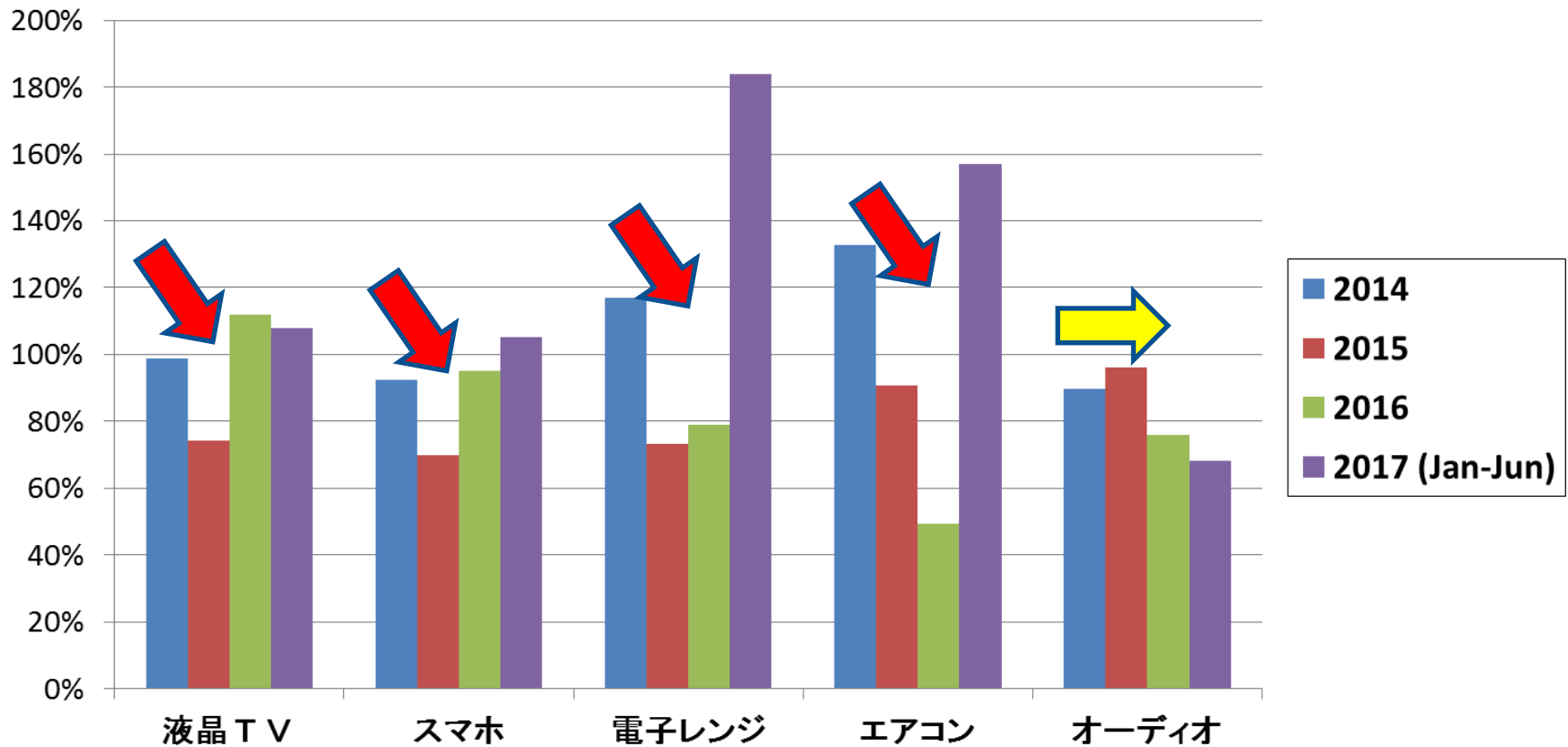
電気電子業界の事業環境（現在）



- 「どん底」⇒「底打ち」⇒「回復」の基調
- 事業領域、商品カテゴリーによって回復のスピードは異なる

主要家電製品 マナウス生産数量推移

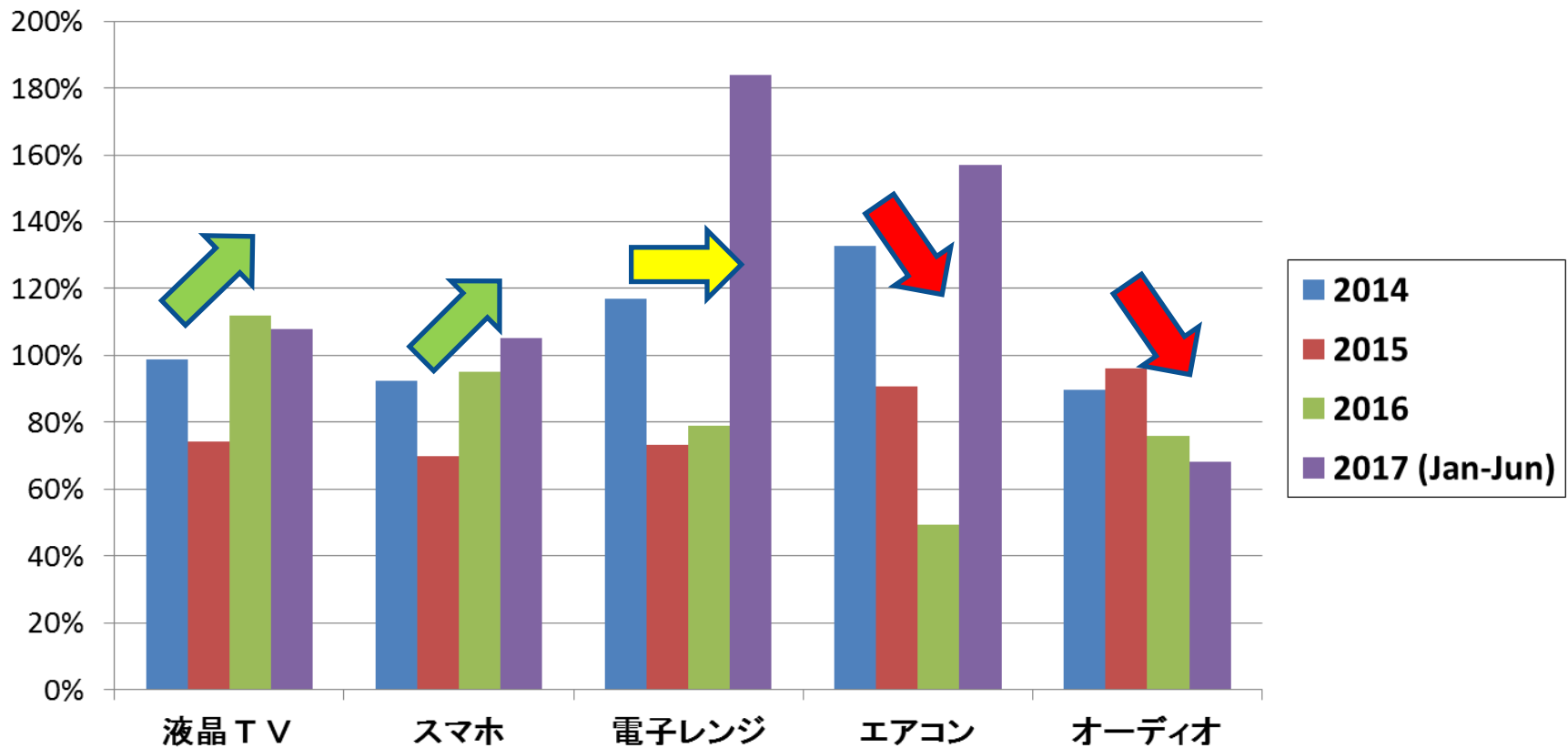
マナウス地域における生産数量の推移(対前年比)



- 2014年から2015年にかけてオーディオを除く全カテゴリーで大幅なダウン

主要家電製品 マナウス生産数量推移

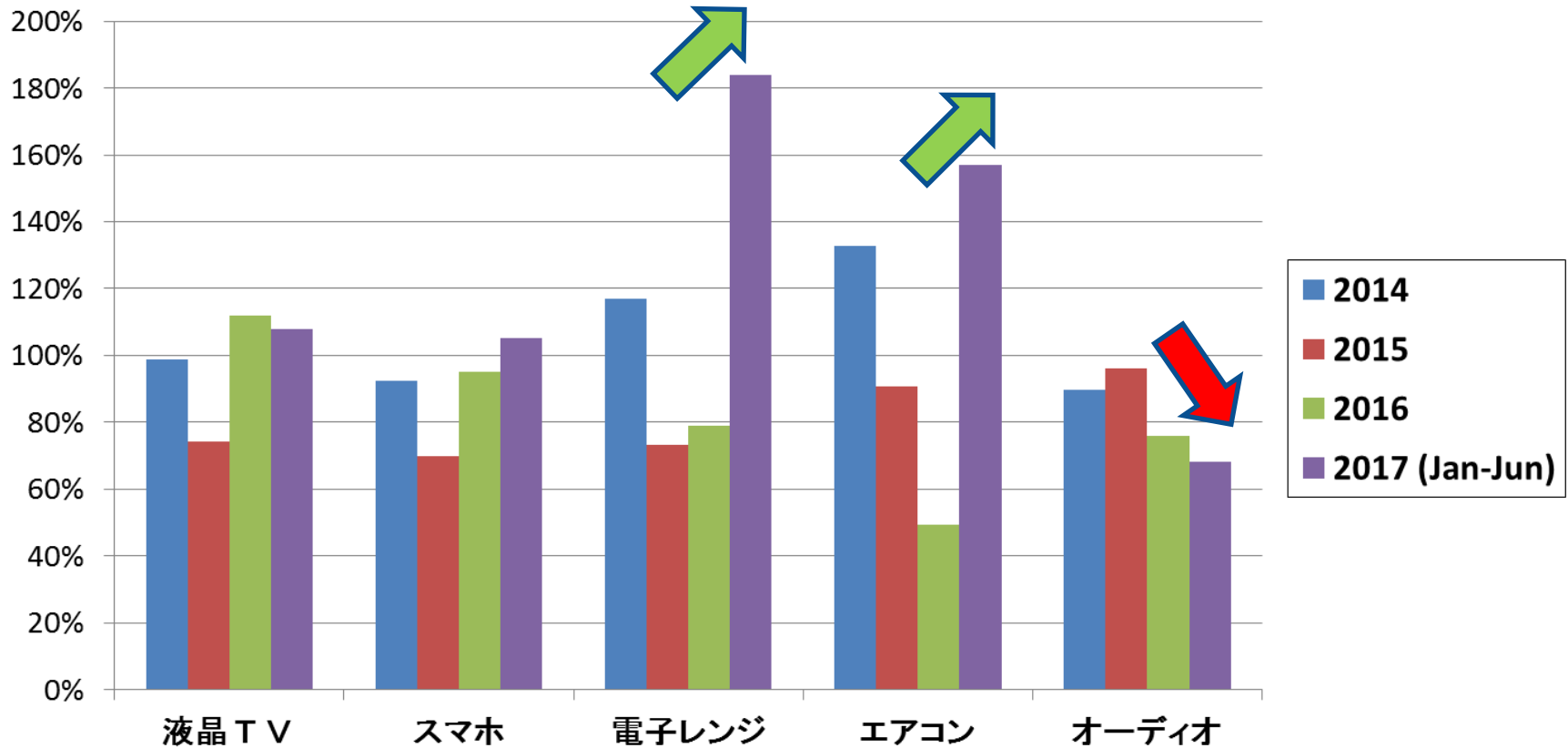
マナウス地域における生産数量の推移(対前年比)



- 2014年から2015年にかけてオーディオを除く全カテゴリーで大幅なダウン
- 最初に「必需品」が回復（液晶TV、スマホ）

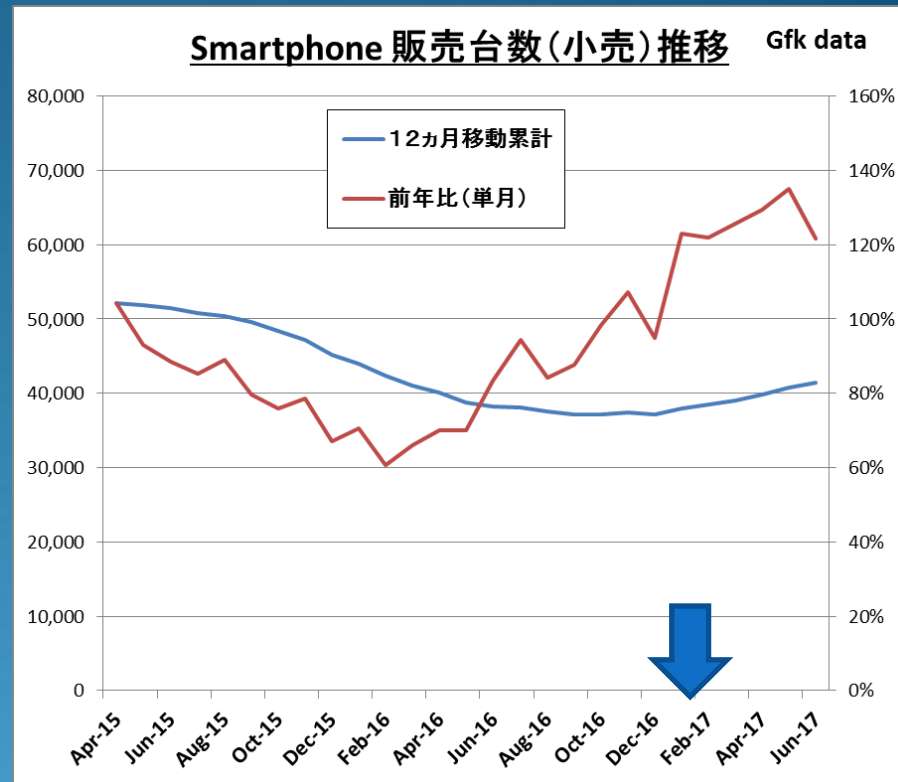
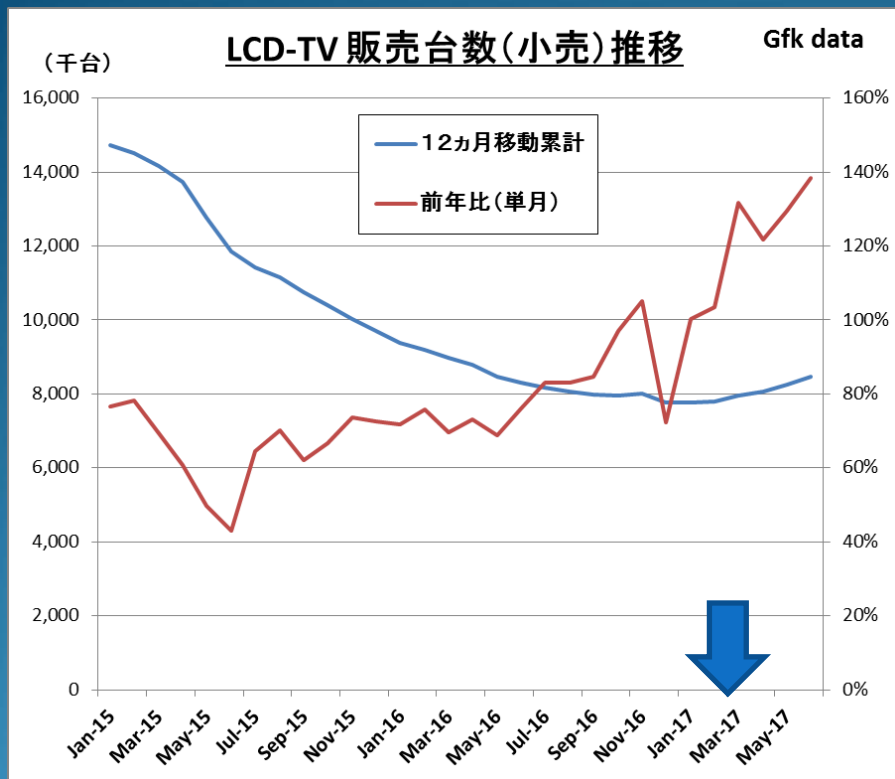
主要家電製品 マナウス生産数量推移

マナウス地域における生産数量の推移(対前年比)



- 2014年から2015年にかけてオーディオを除く全カテゴリで大幅なダウン
- 最初に「必需品」が回復（液晶TV、スマホ）
- 続いて「成長商品」が回復（電子レンジ、エアコン）
- 経済危機を境に衰退するカテゴリもある（オーディオ）

液晶TV・スマホ販売台数(小売)の推移



- 液晶TVは3月、スマホは2月からプラス成長に転じ、その後、プラスを継続

2017年上期回顧と下期展望 会員アンケート結果

電気電子部会各社の販売動向(対前年)

「維持」を対前年比100~109%として分類

2月時点
の
2017年展望

	改善	維持	悪化	合計
17年展望	9	3	0	12
(%)	75%	25%	0%	100%

今回の
アンケート
結果

	改善	維持	悪化	合計
上期回顧	9	1	4	14
(%)	64% ↓	7% ↓	29% ↑	100%
	改善	維持	悪化	合計
下期展望	10 ↑	1	3 ↓	14
(%)	72%	7%	21%	100%

- また、8社が上期から下期にかけて改善率がUPすると回答

2017年上期回顧 会員アンケート 主要コメント

(-)

- 産業系需要および官需の停滞が続いている
- 特需の減少(去年はオリンピック特需があった)
- ラバジャットの影響
- 取引先の経営困難(資金難、信用縮小など)による影響

(+)

- 一般耐久消費財需要の「底打ち」、回復の兆し
- 為替の改善
- 経営体質強化活動の成果
- 競争力強化によるシェア拡大(商品、販売戦略)
- 新規ビジネス立ち上げ・拡大(自社E-Commerceなど)
- 輸出拡大
- フレキシブルな価格対応による販売拡大(為替メリットの活用)
- 投資の選択的拡大

2017年下期展望 会員アンケート 主要コメント

(-)

- 市場環境の急速な改善は望めない(時間掛かる)
- 限られた公共投資、産業需要の獲得競争が続く
- ラバジャットの影響継続
- グローバル・ボラティリティ(トランプ政権、Brexit、中国)懸念

(+)

- 購買力回復への期待(インフレ率低下、金利低下、失業率低下)
- 為替安定への期待
- 政治安定への期待
- 経営体質強化活動の成果出し
- 競争力強化によるビジネス拡大 (そのための選択的投資)
- 輸出拡大
- 改正労働法のメリットを生かす

<サマリー>

- 市場回復の速度と度合いは事業領域や商品カテゴリーによって大きな差がある
- 特に産業用機器、公共投資関連は依然、厳しい状況が続いている
(即効性のある投資や小規模投資は回復の兆しあり)
- 景気回復、政治の安定、為替安定が期待から現実になりつつある中で、
 - 過度の期待をせずに慎重な姿勢の企業が多い
 - リセッション期から取り組んできた「市場の量的拡大に頼らない経営」(差異化、新規事業、体質強化)の継続・強化を志向する企業が多い

シンポジウム副題に関して

「回復途上のブラジル経済-いま打つべき戦略は？」

回復後も高いボラティリティが想定される事業環境において、かつての「新興国バブル」の饗宴が再現されるのではないという認識のもとに、

- 不断の経営体質強化
- 事業環境変化、制度変更への迅速な対応
- 自社の「強み」に立脚した長期視点での経営判断
- 技術革新(IoT、AIなど)がもたらす社会インフラやライフ・スタイルの変化を新たな事業機会に結び付ける努力

商工会議所、ブラジル政府、日本政府への要望

ポスト高度成長のブラジルの魅力を創出する努力

政治・経済・為替・治安の健全化・安定化への努力

新規事業や輸出拡大へのインセンティブ（「その場しのぎ」でないもの）

税制の改善（増税阻止、簡素化、透明化、低減、ST・クレジット累積問題の解消、国際標準レベルの移転価格税制への変更）

労働関連法規の更なる改善、改正労働法に関するセミナー開催

ビジネス・インフラの整備（物流ネットワークなど）

ファイナンス、ファンディング、パートナーリングの支援・連携促進

南米周辺国との輸出入拡大に向けた手続き・税制の改善、体系的な取り組み（日本企業が南米ビジネスの司令塔を置くべき場所は？）

両国政府間での中長期的な関係強化、ブラジルの魅力アピール

ご静聴、ありがとうございました。

食品 部会

黒崎 正吉 部会長

Departamento de Gêneros Alimentícios

Presidente: Masayoshi Kurosaki

2017年上期の回顧と下期の展望

『回復途上のブラジル経済 – いま打つべき戦略は？』

ブラジル日本商工会議所 食品部会

2017年8月24日(木)

目次

- ◆ 2017年上期業界動向
- ◆ 原材料動向
- ◆ 2017年下期の展望

2017年上期の業界動向

◆ 国内市場概況

- スーパーマーケットの売上高前年比(実質)は、6月までの直近1年のうち10ヵ月間で前年を上回った。経済情勢の悪化に底入れ感が出てきており、緩やかな回復基調が続いている。*ABRAS(ブラジルスーパーマーケット協会)データ
- 17年1-3月の食品・飲料・日用雑貨は、重量前年比93.9%、同金額(実質)96.3%と厳しい状況も、3月に若干回復が見られた。*Nielsen1月-3月データ
- 低価格指向が強まり、嗜好品への支出を抑制する傾向が続いている。

2017年上期の業界動向

<調味料>

- 市場はほぼ前年並み。食品部会所属企業では主力の家庭用調味料で対前年金額ベースで107%、新カテゴリーのメニュー用調味料も同102%と堅調。

<飲料>

- 乳飲料：食品部会所属企業では金額ベースで前年並み。数量ベースでは前年比6%減も、新製品投入や販促活動により5月以降回復の兆し。
- 粉末飲料：市場は金額ベースほぼ前年並みで推移した。

2017年上期の業界動向

<しょうゆ>

- 輸入しょうゆは現地メーカーとの販売価格差により厳しい状況が続く。
- 日本食材輸入代理店と共に販路拡大に取り組み、新たなターゲットや需要発掘を目指す。

<清酒>

- 食品部会所属企業では景気低迷と競争激化により対予算で10%程度の減少。
- 酒、米に対する顧客の低価格指向が高まっている。

2017年上期の業界動向

<コーヒー>

- レギュラーコーヒー:寡占化が進む中、原料相場に軟化の兆しが出てきた。
- インスタントコーヒー:レアル高と原料相場上昇により、前年同期比数量ベースで12%減、金額ベースで10%増。

<即席めん>

- 市場は昨年後半より横ばいで推移。食品部会所属企業では値上げ等もあり金額ベースで増、数量ベースで微増。

2017年上期の業界動向

<食肉>

- 食肉業界は3月の食肉不正問題(Carne Fraca)が相場に影響する等、安定感に欠ける環境が続く。
- 食品部会所属企業では食肉輸出は堅調に推移。国内販売の活性化が課題。

<チョコレート>

- 数量ベースでの減少傾向は2017年も継続。金額ベースでは値上げが進み横ばいから微増と推定。
- 食品部会所属企業の主たる市場の業務用も、同様に数量は減少。金額ベースでは値上げもあり微増。

2017年上期の業界動向

<香料>

- 食品部会所属企業では対予算で数量、金額ともに増加。
- 顧客となる清涼飲料、乳製品、ベーカリーは増、菓子類は横ばい(いずれも対前年、金額ベース)と予測。

<食品添加剤>

- 食品部会所属企業では既存顧客への販売はほぼ前年並みも、新規顧客との開発テーマは増加。

2017年上期の業界動向

<アセロラ製品>

- 主要産地での干ばつにより、原料供給が少ない状態が続く。
- 天然ビタミンCへの需要は欧州を中心に引き続き増加傾向。

<種苗>

- 景気低迷の影響を受け、野菜消費の低迷・作付意欲低下により、種子の販売も前年同期比で大幅減。
- 世界的なM&Aによる市場のモノポリー化進む。

2017年上期の業界動向

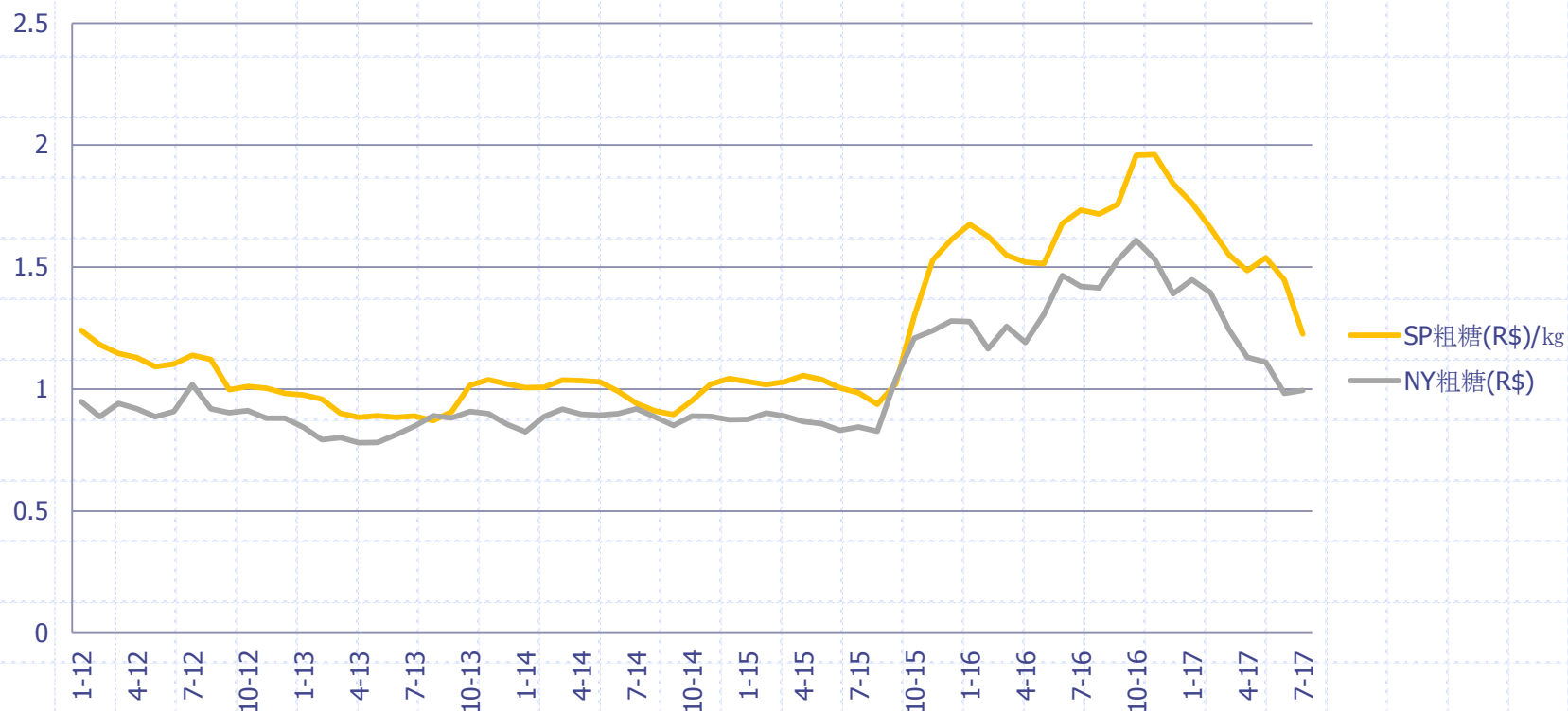
<外食産業>

- 食品部会所属企業ではラーメンに続き焼きそばやNew Wave Bowl等の新製品投入により、予想以上の売上増。
- 初めてサンパウロ市郊外（モジ・ダス・クルーゼス）に出店し、予想以上の集客。

原料動向

砂糖相場の推移(2012～)

粗糖キロあたりリアル単価

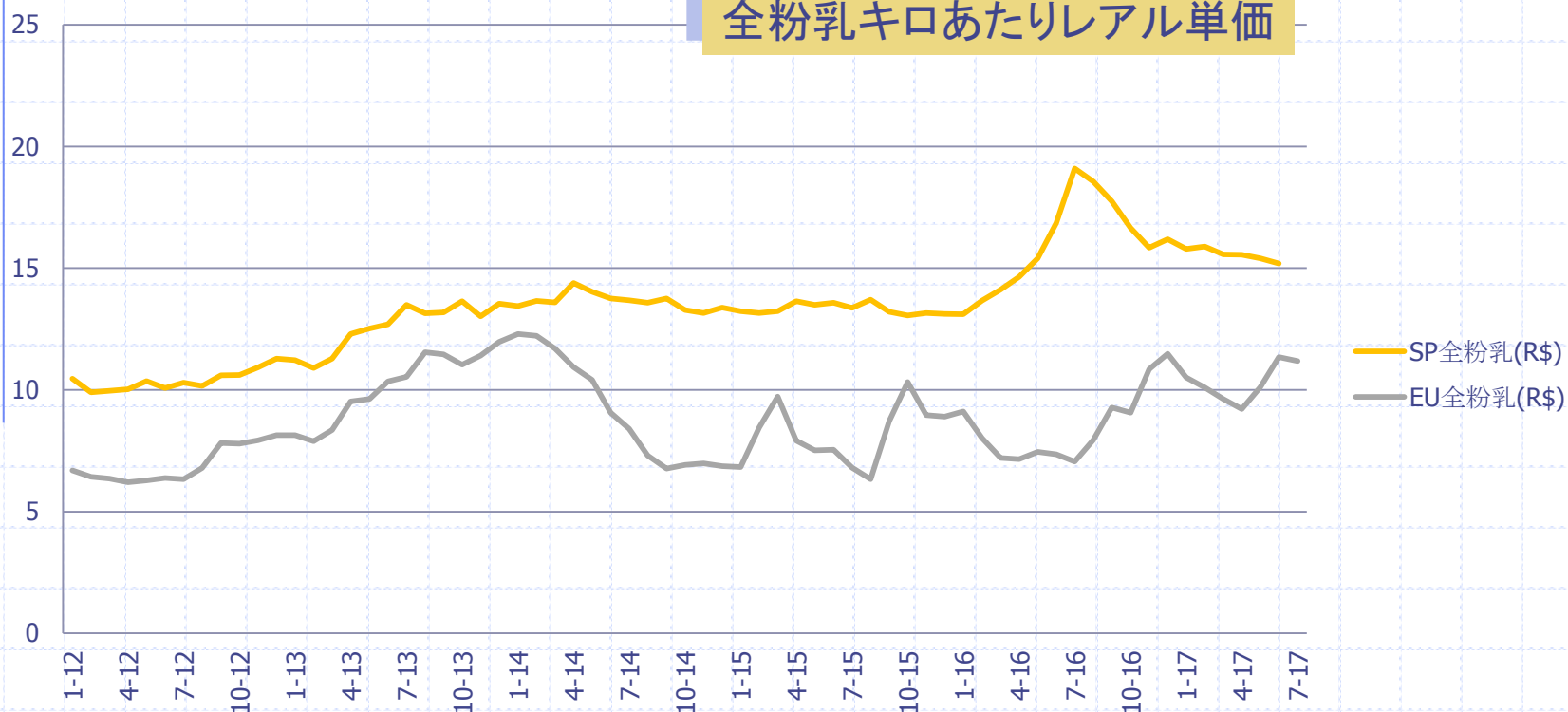


◆2015年後半以降相場は高騰していたが、砂糖生産国での減産懸念材料が軽減したことで2016年末以降下げ相場に転じた。国際相場は安値にあるもののリアル通貨安の影響でリアル建て国内相場の下げ幅は限定的となっている。

原料動向

乳相場の推移(2012～)

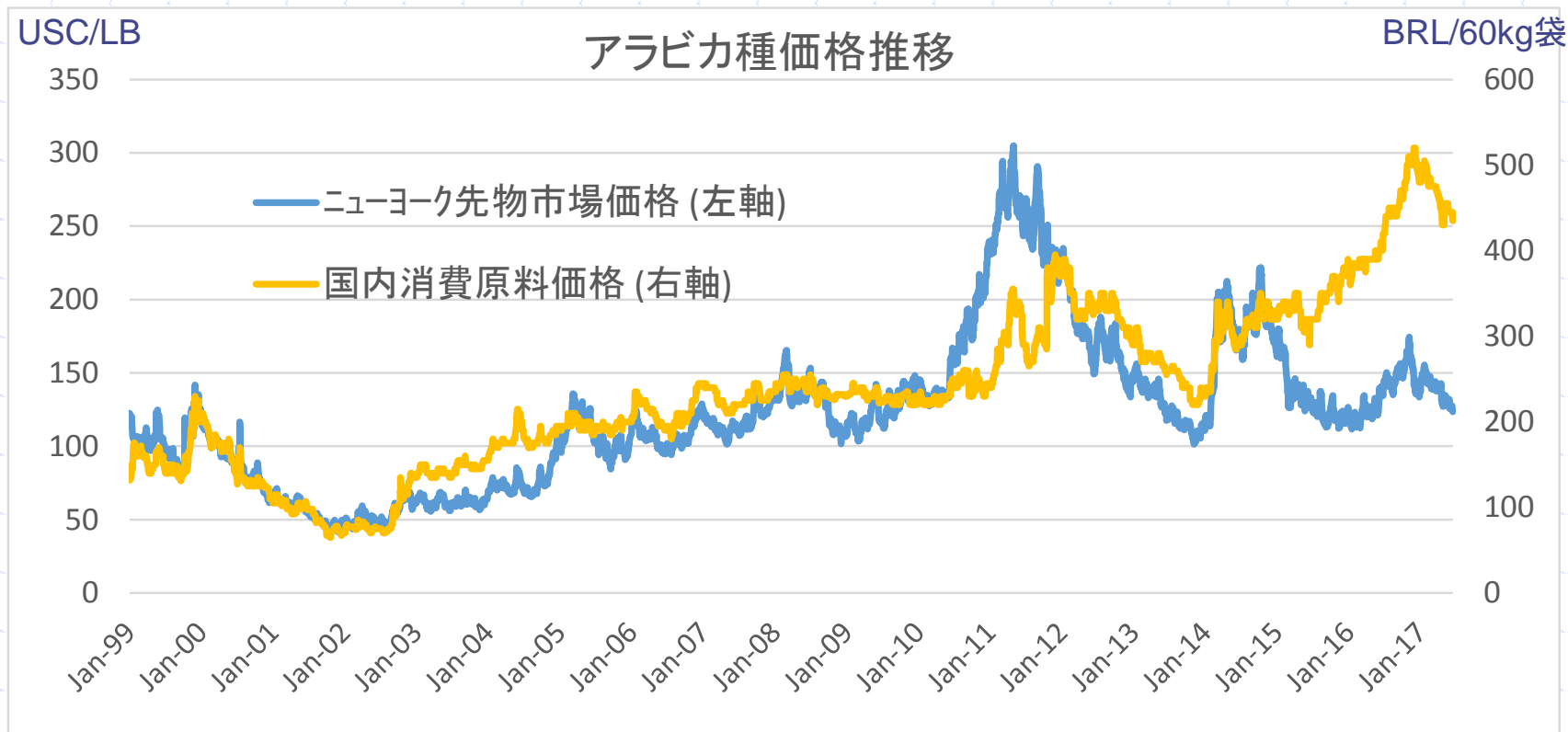
全粉乳キロあたりリアル単価



◆乳製品価格は2014年以降国際的に大きく下落したが、国内相場は高値を維持。2016年は生乳価格の上昇で国内相場が高騰した。国際相場は比較的落ち着いているが、国内相場は高止まりとなっており、国内相場、国際相場間の乖離が未だに存在する。

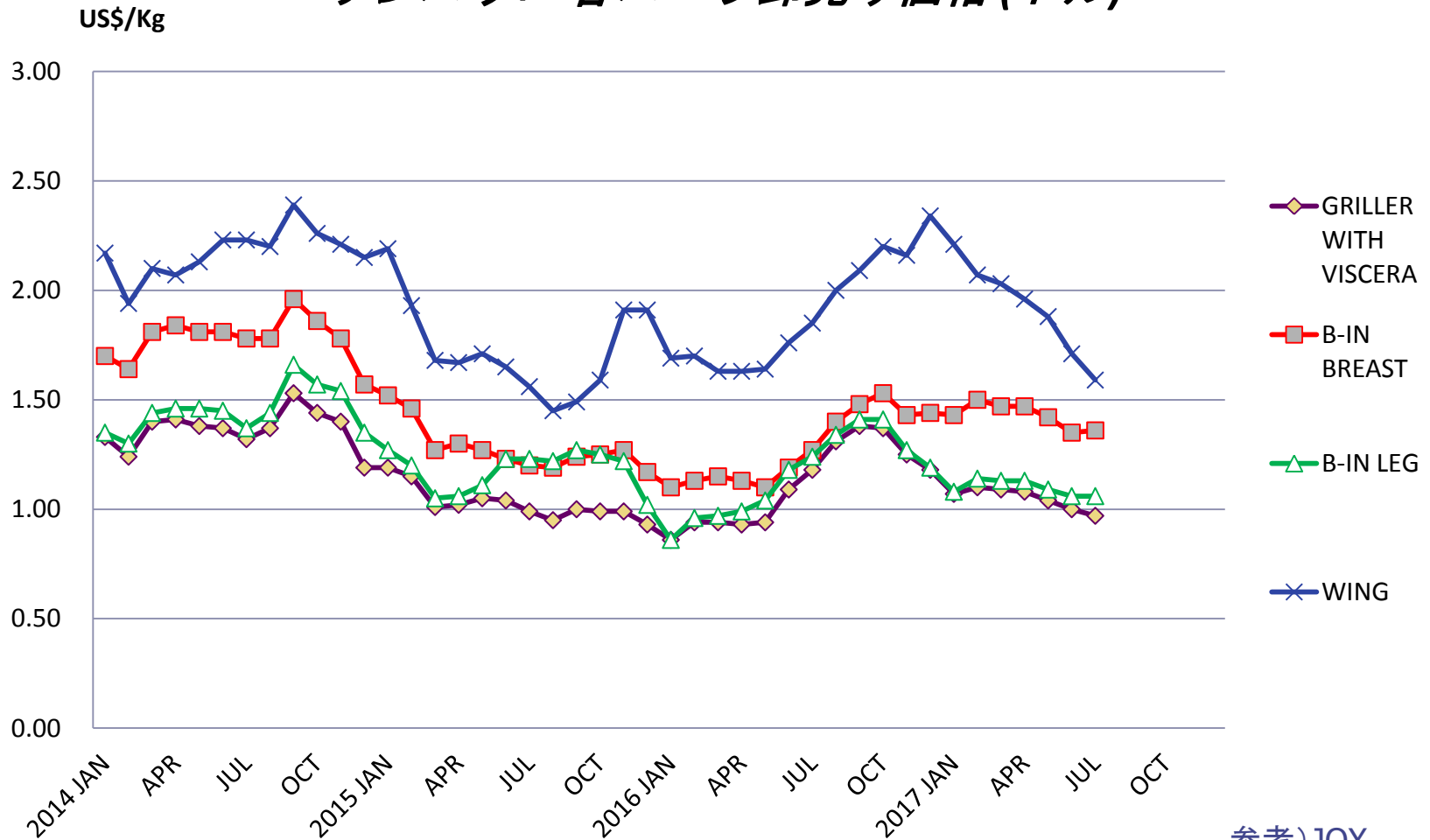
原料動向

コーヒー相場の推移



- ◆2017年上期は、ブラジル国内消費原料相場はR\$500/袋をピークにR\$430/袋まで低下。今クロップはロブスタ種も生産は好調にて、国内相場価格が緩んだもの。
- ◆今クロップは、Brocaと呼ばれるコーヒー豆に穴を空ける害虫被害がアラビカ種を中心として広がっており、相場への影響が懸念される。

サンパウロ 各パーツ卸売り価格(ドル)

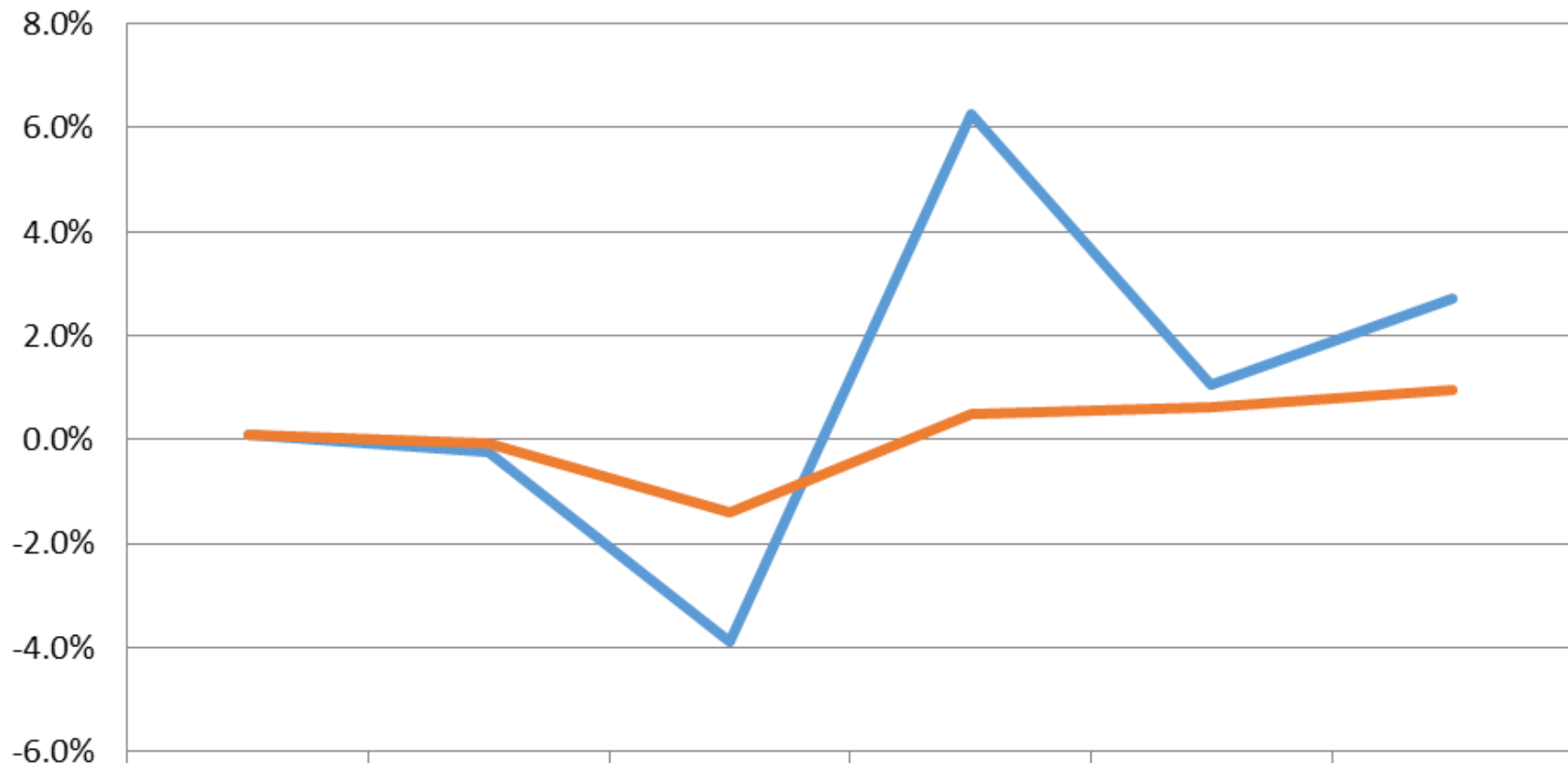


参考)JOX

中国・香港の引き合いが落ちついたことから手羽の価格は年始から大きく下降。その他部位は季節的な要因により若干下降気味も、価格は比較的安定しており、国内需要が堅調なことが伺える。JBSのスキャンダルにより牛肉から鶏肉に代替え需要があったことが推測される。

スーパーマーケットの売上高前年比(実質)は、6月までの直近1年のうち10ヵ月間で前年を上回った。

2017年度 スーパーマーケット売上前年比(実質)

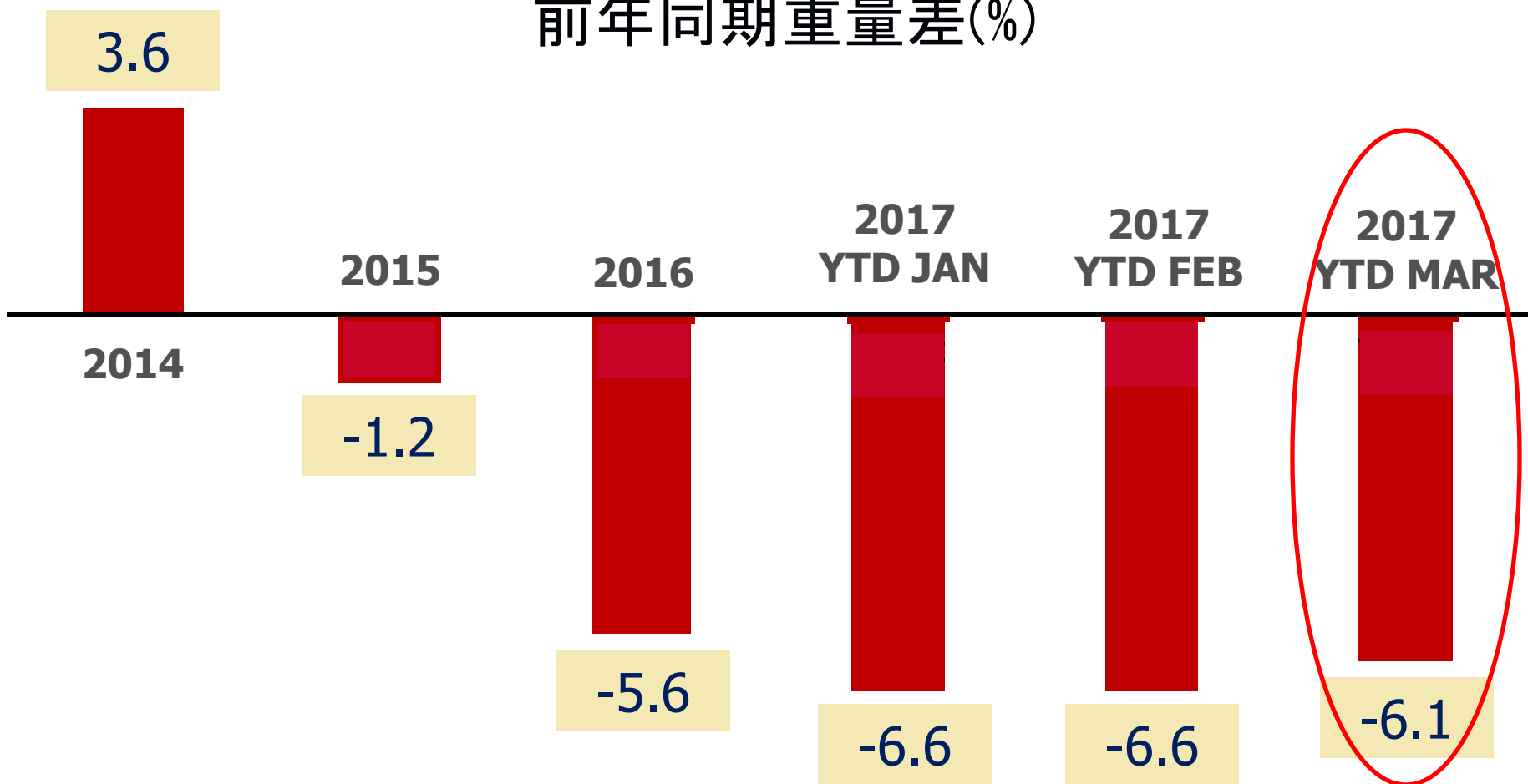


— 単月前年比
— 累計前年比

	Jan	Fev	Mar	Abr	Mai	Jun
単月前年比	0.1%	-0.2%	-3.9%	6.3%	1.1%	2.7%
累計前年比	0.1%	-0.1%	-1.4%	0.5%	0.6%	1.0%

17年1-3月の食品・飲料・日用雑貨は、重量前年比93.9%と厳しい状況も、3月に若干の回復あり。

前年同期重量差(%)



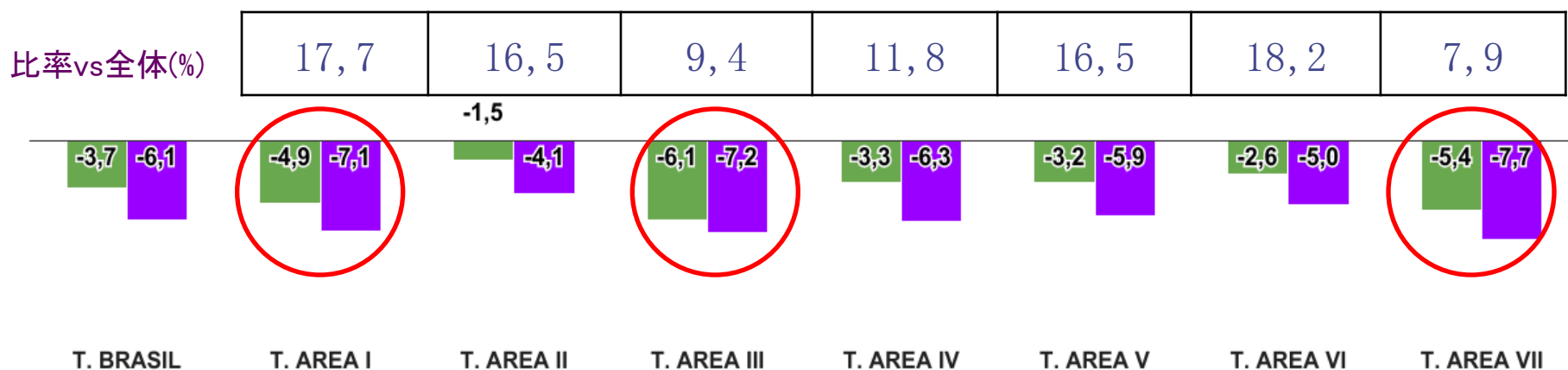
Fonte: Nielsen | Retail Index – 128 categorias

ブラジル合計金額(実質)前年比96.3%。 全地域で金額減少。北部(AREA I)、リオ中心部(AREA III)、 中西部(AREA VII) が平均よりも落ち込む。

17年1-3月地域別前年同期差(%)

■ 前年金額差(実質) ■ 前年重量差

AREA I	NORTHEAST
AREA II	MINAS GERAIS, ESPIRITO SANTO AND RIO DE JANEIRO COUNTYSIDE
AREA III	RIO DE JANEIRO - CAPITAL
AREA IV	SÃO PAULO - CAPITAL
AREA V	SÃO PAULO - COUNTRYSIDE
AREA VI	SOUTH
AREA VII	MIDWEST

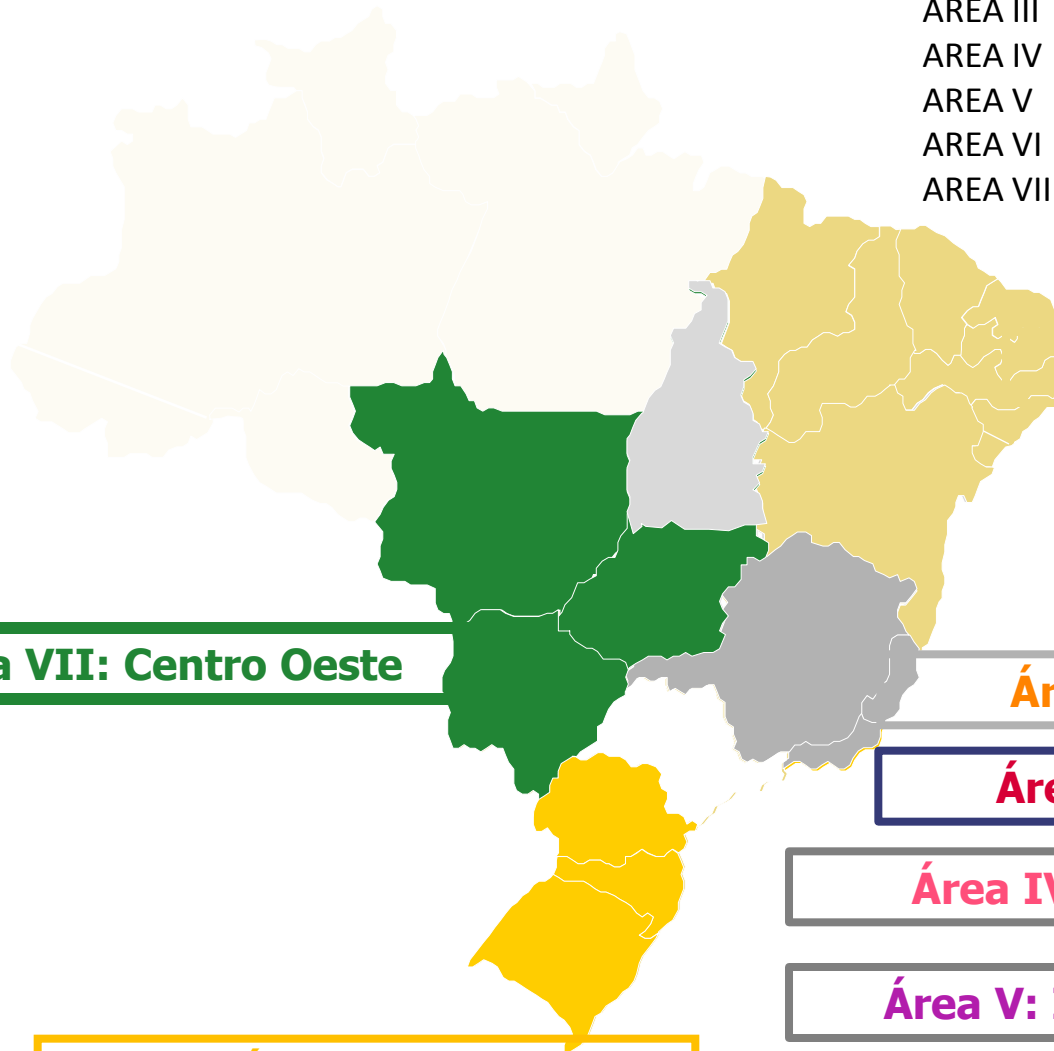


インフレ率4.89%を除いた(実質)価格上昇率(%)

2,6	2,3	2,7	1,1	3,2	2,8	2,6	2,4
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

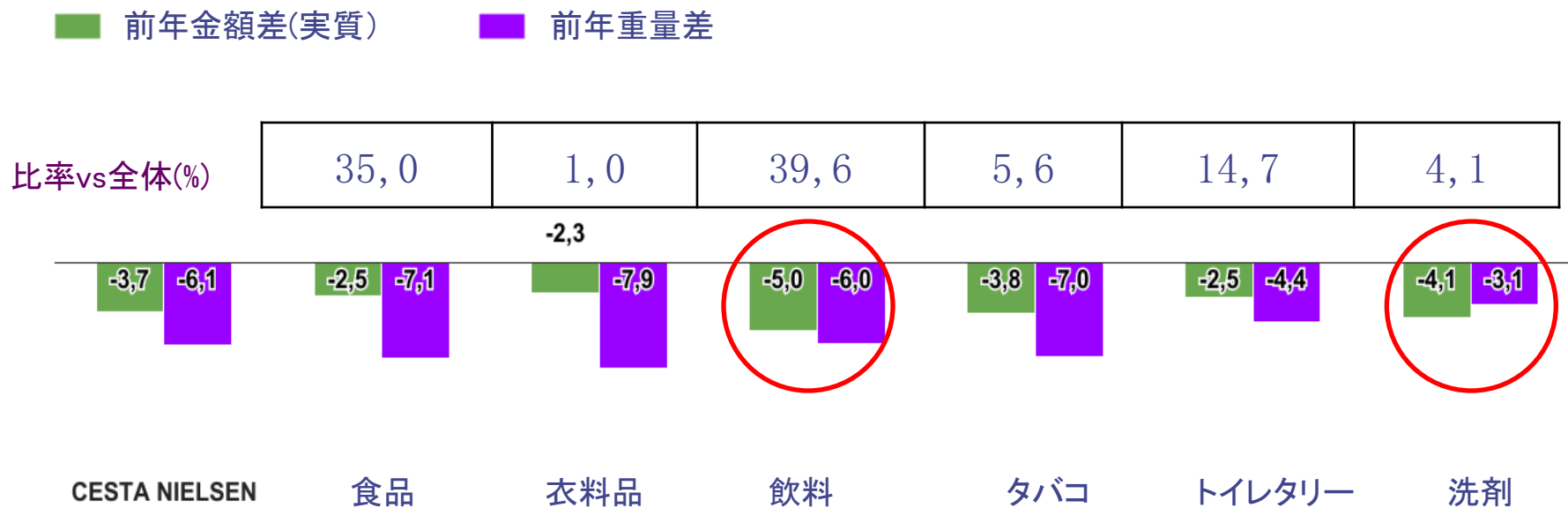
Áreas Nielsen

AREA I	NORTHEAST
AREA II	MINAS GERAIS, ESPIRITO SANTO AND RIO DE JANEIRO COUNTYSIDE
AREA III	RIO DE JANEIRO - CAPITAL
AREA IV	SÃO PAULO - CAPITAL
AREA V	SÃO PAULO - COUNTRYSIDE
AREA VI	SOUTH
AREA VII	MIDWEST



カテゴリー別では飲料、洗剤の落ち込みが大きい

17年1-3月製品カテゴリー別前年同期差(%)



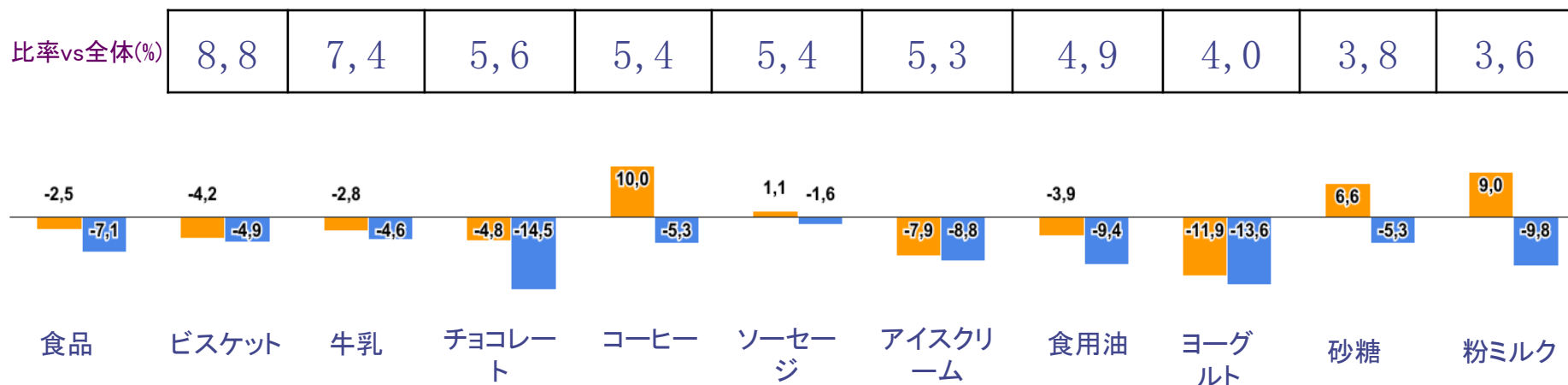
インフレ率4.89%を除いた(実質)価格上昇率(%)

2,6	5,0	6,1	1,0	3,4	2,0	-1,0
-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

食品カテゴリー内製品別前年同期差(17年1-3月、%)

金額増加 ; コーヒー、砂糖、粉ミルク
金額大幅減少; アイスクリーム、ヨーグルト

■ 前年金額差(実質) ■ 前年重量差

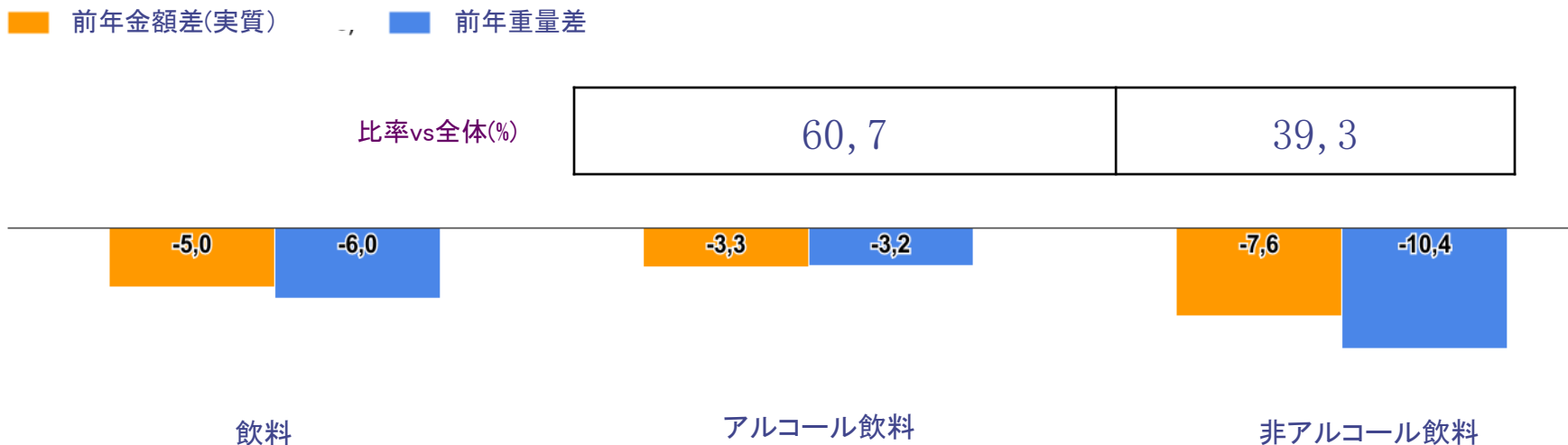


インフレ率4.89%を除いた(実質)価格上昇率(%)

5,0	0,8	1,9	11,4	16,3	2,7	1,0	6,1	2,0	12,6	20,8
-----	-----	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	------	------

飲料カテゴリーの前年同期差(17年1-3月、%)

非アルコール飲料の落ち込みが顕著。 メインの炭酸飲料が7.4%前年から減少した。



インフレ率4.89%を除いた(実質)価格上昇率(%)

1, 0	-0, 2	3, 1
------	-------	------

2017年下期の展望

『回復途上のブラジル経済 – いま打つべき戦略は？』

- (1) ABRASの予測では、2017年度のスーパーマーケット販売額は1月は前年比101.3%であったが、インフレ率の低下が消費を下支えするという見込みから、7月予測では101.5%に上昇した。
⇒約2年間続いた景気低迷が昨年6月から回復基調であり、また、2017年度の景気予測も良化した。
- (2) 景気回復の波に乗れるような事業基盤の強化、新たな事業の種まき等を進める。
- (3) 会員企業の新たなビジネスチャンス発掘につながりうるCAMARA食品部会の取組を進めていく。

運輸サービス 部会

細谷 浩司 部会長

Departamento de Transportes e Serviços

Presidente: Koji Hosoya

2017年上期の回顧と下期の展望

回復途上のブラジル経済

—いま打つべき戦略は

運輸サービス部会 細谷 浩司

2017年8月24日

運輸サービス部会の対象業界

- 物流
- 海運
- 航空貨物
- 航空旅客
- 旅行、ホテル
- 通信、IT



物流業界

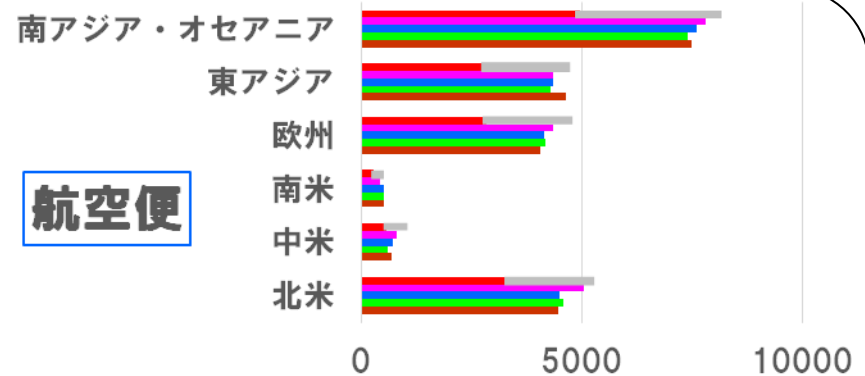
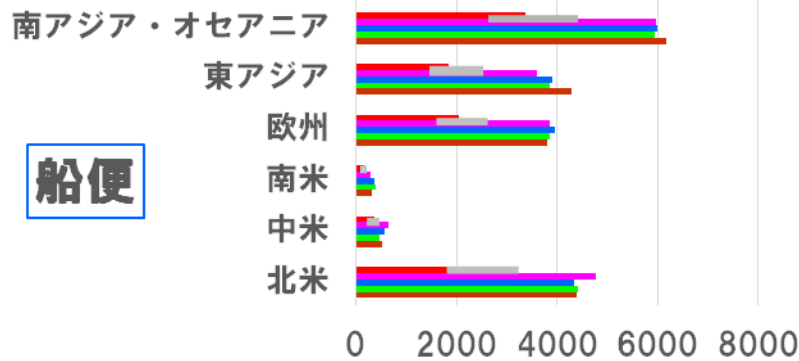
2017年上期回顧

- 国内空港の民営化に向けた入札が行われる(3月)
- カーニバル休暇後から徐々に荷動きが回復
- 待遇改善等を求める**ストライキが断続的に発生**(2月、3月、5月)

2017年下期展望

- 待遇改善等を求めるストライキの発生が引き続き懸念される
- 急速な回復は期待できないものの、一定量の荷動きは維持される見込み

日本発 各地域向け船便・航空便引越件数動向 (単位 発送件数) 資料：日本通運扱実績数値より抜粋



■ 2013年
 ■ 2014年
 ■ 2015年
 ■ 2016年
 ■ 2017年上期
 ■ 2017年下期予測値

海運業界

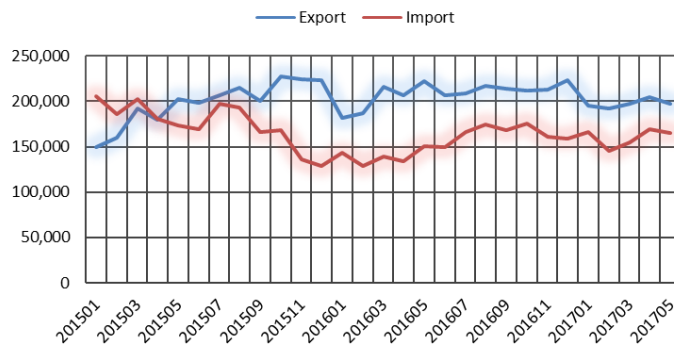
2017年上期回顧

- ・ ブラジルの外航コンテナ輸送量は前年同期比にて輸入が15%増加、輸出はほぼ横這いの状態であり、2年間続いた輸入量減少傾向から反転の兆しが見られる。特にアジア-南米東岸トレードでは輸送スペースの需給が逼迫し、**市況運賃レベルは上昇傾向**にある。
- ・ ドライバルク輸送市況は今年3月頃に反転の兆しが見られたが、未だに採算分岐点を大きく下回るレベルで推移。
- ・ 完成車輸送は特にアルゼンチン向けを中心に輸出が強く、輸入が弱い昨年からの傾向継続。

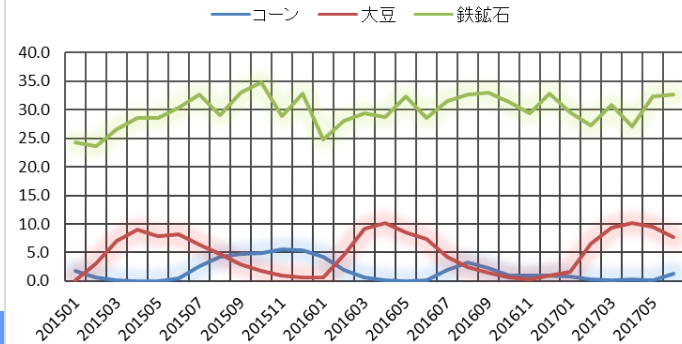
2017年下期展望

- ・ コンテナ分野ではクリスマス商戦前の輸入貨物輸送需要増加に対し、臨時船の差し建てを行うことで対処する見込み。業界全体では、コンテナ船社の合従連衡による集約化の動きが継続中。邦船3社によるコンテナサービス統合新会社は2018年4月よりサービス開始予定。
- ・ ドライバルク分野は業界全体の需給バランスは改善の傾向にあるが、マーケットを大きく変化させる要因には乏しく、先行き不透明な状況が続く見込み。
- ・ 完成車輸送は上期傾向が継続する見通し。**ブラジル市場は緩やかな回復基調**も、影響は軽微。

ブラジル外航コンテナ輸送量推移 (TEU)



ブラジル ドライバルク貨物輸出货量(単位 百万トン)



航空貨物業界

2017年上期回顧

- 主要3空港での比較(GRU,VCP,MAO)※1-6月実績比較

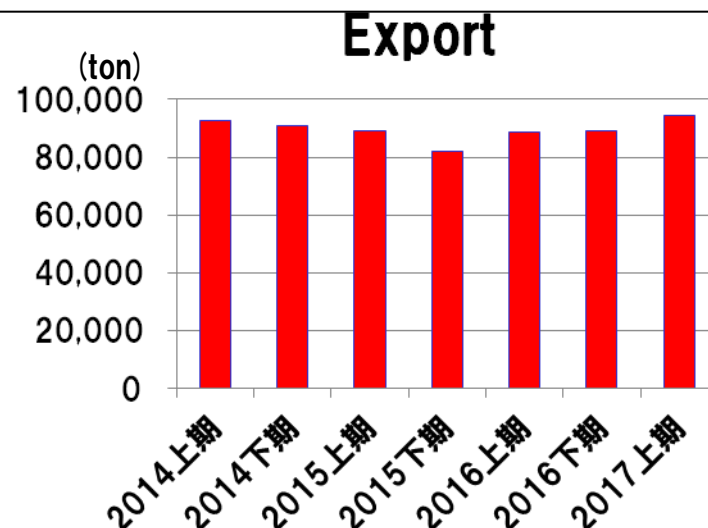
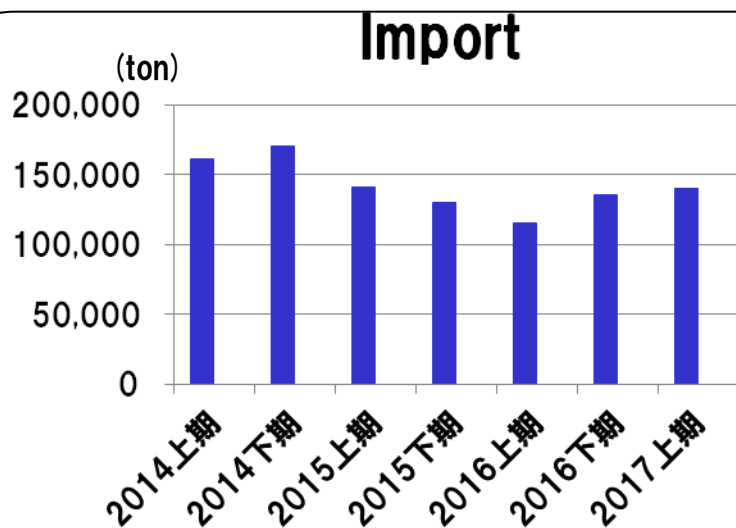
輸入量は対前年同期比 45.9%増 (GRU,VCP), 39.4%増 (MAO)

輸出量は対前年同期比 30.1%増 (GRU,VCP), 11.3%増 (MAO)

2017年下期展望

- 輸出貨物量は上期同様に**対前年増にて推移する見込み**
- 航空機貨物スペースがタイトになることが予測される。**早めのスペース確保が必要**
- 新しい輸出申告システム化の導入により、**手続の簡略化が推進される**

GRU,VCP,MAO 3 空港 航空貨物輸出入取扱数量動向 (単位: トン)



航空旅客業界

2017年上期回顧

- 国内線は、有償旅客キロは対前年+0.6%、提供座席キロは同▲0.6%、利用率は+1.0ptで、需給ともにほぼ横這いの実績となった。
- 国際線は、ブラジル系航空会社計で、有償旅客キロは対前年+11.7%、提供座席キロは同+7.2%、利用率は+3.4pt上昇し、供給の伸び以上の旺盛な需要が続いた。
- 航空各社の受託手荷物の預け入れ基準が変更となったため、利用する際は事前に航空会社のHPやコールセンターで確認する等の注意が必要。
* 多くの航空会社が、国際線エコミークラスの無料受託手荷物許容量を32kg×2個→23kg×2個へ変更。

データ元：ANAC（ブラジル民間航空監督庁）

2017年下期展望

- 国内線は、LATAM航空やGOL航空による不採算路線の運休・減便も一旦終息した感があり、景気動向にもよるが、下期は緩やかに回復すると思われる。
- 国際線も、下期に主要路線を運休・減便する情報はなく、且つ昨年のオリパラでの特需は殆どなかったため、引き続き前年を上回る実績が続くことが期待される。

特記・周知事項

- 6月上旬のカタールと周辺6ヶ国（サウジアラビア、UAE、バーレーン等）との外交断絶に伴い、カタール航空のサンパウロ＝ドーハ線はアラビア半島を南北に迂回するルートへ変更を余儀なくされ、所要時間は約16時間となっている。 *サンパウロ＝日本間は乗継時間を含め約29～32時間。
- アルゼンチン政府がブエノスアイレス市内にあるホルヘ・ニューベリー空港での国際線運航禁止を決めたことに伴い、ブラジル発着の国際線は全てエセイサ国際空港に集約される（2018年4月から徐々に）。
- 国内線では、機内での無料茶菓サービスが廃止され、有料で飲料や軽食類を販売提供するサービスへ移行する傾向が強まる。

航空旅客業界（資料）

グアリュージョス空港とサンパウロ市内間の空港アクセス鉄道（建設中）



引用元: Folha de S.Paulo

- Engenheiro Goulart からグアリュージョス空港の間に敷設。
- CPTM 12号線のBrásから直通運転の予定。
- 空港駅はターミナル1の近くにでき、各ターミナルへは巡回バスで移動（徒歩可）。

航空旅客業界（資料）

参考：2011年～2016年の輸送実績

路線区分	項目	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	
国際線	有償旅客数 (人)	17,886,137	18,949,890	19,763,247	21,328,649	21,587,452	20,934,387	
	前年比 (%)	116.3	105.9	104.3	107.9	101.2	97.0	
	座席数 (席)	23,052,867	24,533,534	25,714,704	27,447,285	28,111,685	26,588,597	
	前年比 (%)	115.8	106.4	104.8	106.7	102.4	94.6	
	RPK (百万人キロ)	105,458	115,050	119,941	130,530	131,559	126,864	
	ASK (百万座席キロ)	131,664	144,505	150,724	163,129	166,986	155,626	
	利用率 (%)	80.1	79.6	79.6	80.0	78.8	81.5	
	内ブラジル航空会社							
	有償旅客数 (人)	5,756,528	5,774,370	6,097,151	6,410,526	7,295,084	7,507,282	
	前年比 (%)	109.2	100.3	105.6	105.1	113.8	102.9	
シェア (%)	32.2	30.5	30.9	30.1	33.8	35.9		
国内線	有償旅客数 (人)	82,080,171	88,717,217	90,252,205	95,928,056	96,191,412	88,686,065	
	前年比 (%)	117.0	108.1	101.7	106.3	100.3	92.2	
	座席数 (席)	116,036,568	122,076,479	120,856,639	121,630,377	123,172,779	113,792,953	
	前年比 (%)	113.0	105.2	99.0	100.6	101.3	92.4	
	RPK (百万人キロ)	81,462	87,047	88,244	93,333	94,381	89,026	
	ASK (百万座席キロ)	116,096	119,338	115,907	117,053	118,230	111,256	
	利用率 (%)	70.2	72.9	76.1	79.7	79.8	80.0	

<コメント>

- 2014年までは、ブラジルの経済成長に伴って国際線・国内線ともに順調に推移した。
- 2015年は、急激な景気後退により、国際線・国内線ともにほぼ横這いとなったものの（微増）、過去最高の年間実績となった。
- 2016年は、8月と9月にリオでオリパラが開催されたが、更なる景気低迷と汚職による政治空白化が影響し、航空需要は減退した。

データ元：ANAC

航空旅客業界（資料 国際線）

参考：ブラジル国際線の月別輸送実績（2016年版、一日当たり）

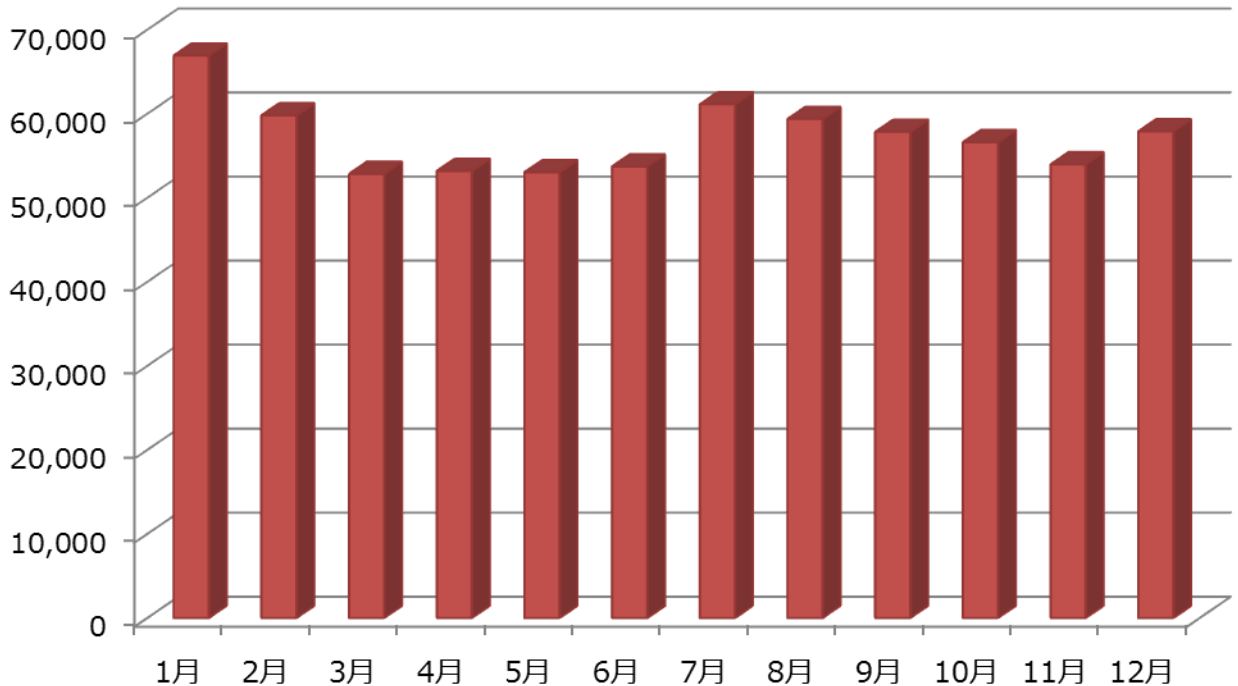
月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	2,074,011	66,904
2月	1,734,059	59,795
3月	1,638,074	52,841
4月	1,595,160	53,172
5月	1,643,701	53,023
6月	1,611,524	53,717
7月	1,894,464	61,112
8月	1,840,347	59,366
9月	1,735,050	57,835
10月	1,754,469	56,596
11月	1,618,956	53,965
12月	1,794,572	57,889
計	20,934,387	57,198

<コメント>

➤ 需要が最も多い月は1月。

➤ 8月と9月は、リオでオリパラが開催されたが、前年と比較してもプラス効果は見られず、むしろ減少した。

単位：人



データ元：ANAC

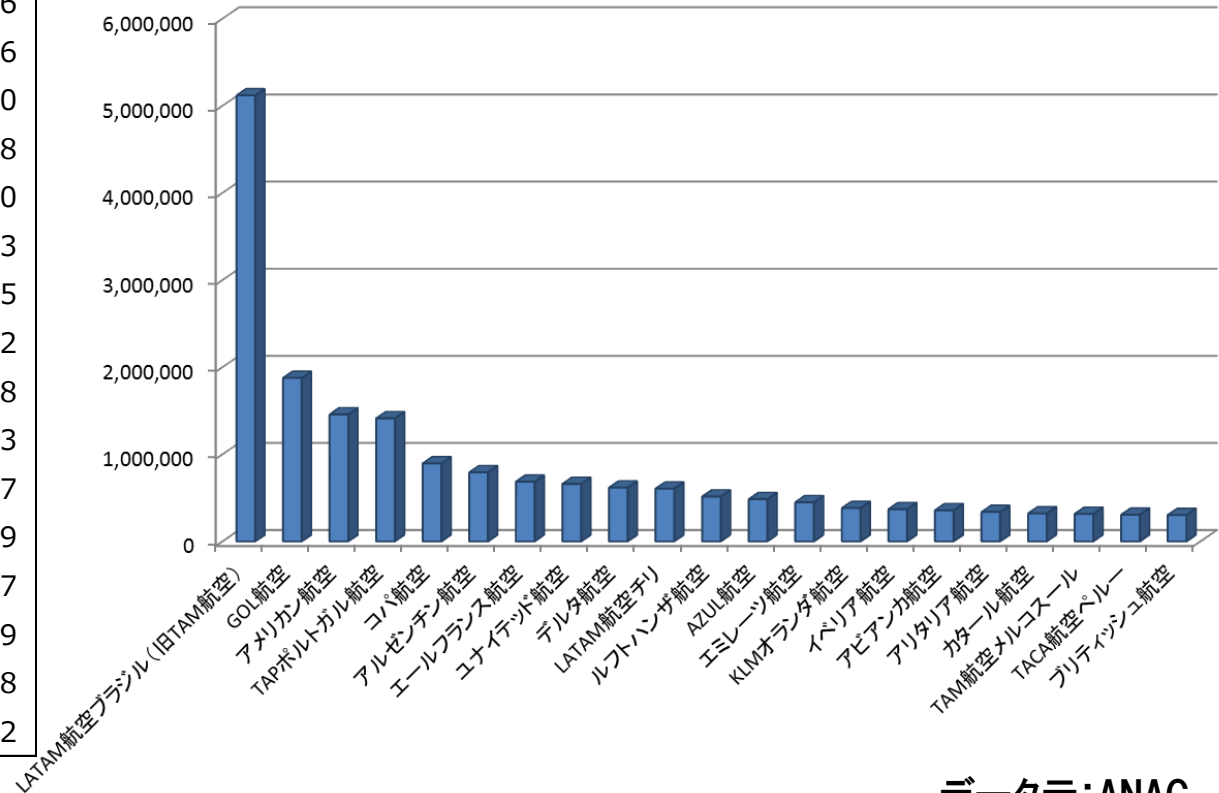
航空旅客業界（資料 国際線）

参考：ブラジル国際線の会社別輸送実績（2016年版、30万人以上）

航空会社	有償旅客数 (人)
LATAM航空ブラジル（旧TAM航空）	5,117,864
GOL航空	1,875,039
アメリカン航空	1,456,493
TAPポルトガル航空	1,412,180
コパ航空	895,434
アルゼンチン航空	792,156
エールフランス航空	684,716
ユナイテッド航空	659,580
デルタ航空	617,208
LATAM航空チリ	604,000
ルフトハンザ航空	513,793
AZUL航空	484,365
エミレーツ航空	448,372
KLMオランダ航空	381,118
イベリア航空	368,823
アビアンカ航空	356,507
アリタリア航空	337,029
カタール航空	320,617
TAM航空メルコスール	314,919
TACA航空ペルー	305,208
ブリティッシュ航空	302,072

<コメント>

➤ **LATAM航空ブラジルが圧倒的に多いが、GOL航空も年々実績を伸ばしている。**



データ元：ANAC

航空旅客業界（資料 国際線）

参考：ブラジルとの2国間の輸送実績（2016年版、年間10万人以上）

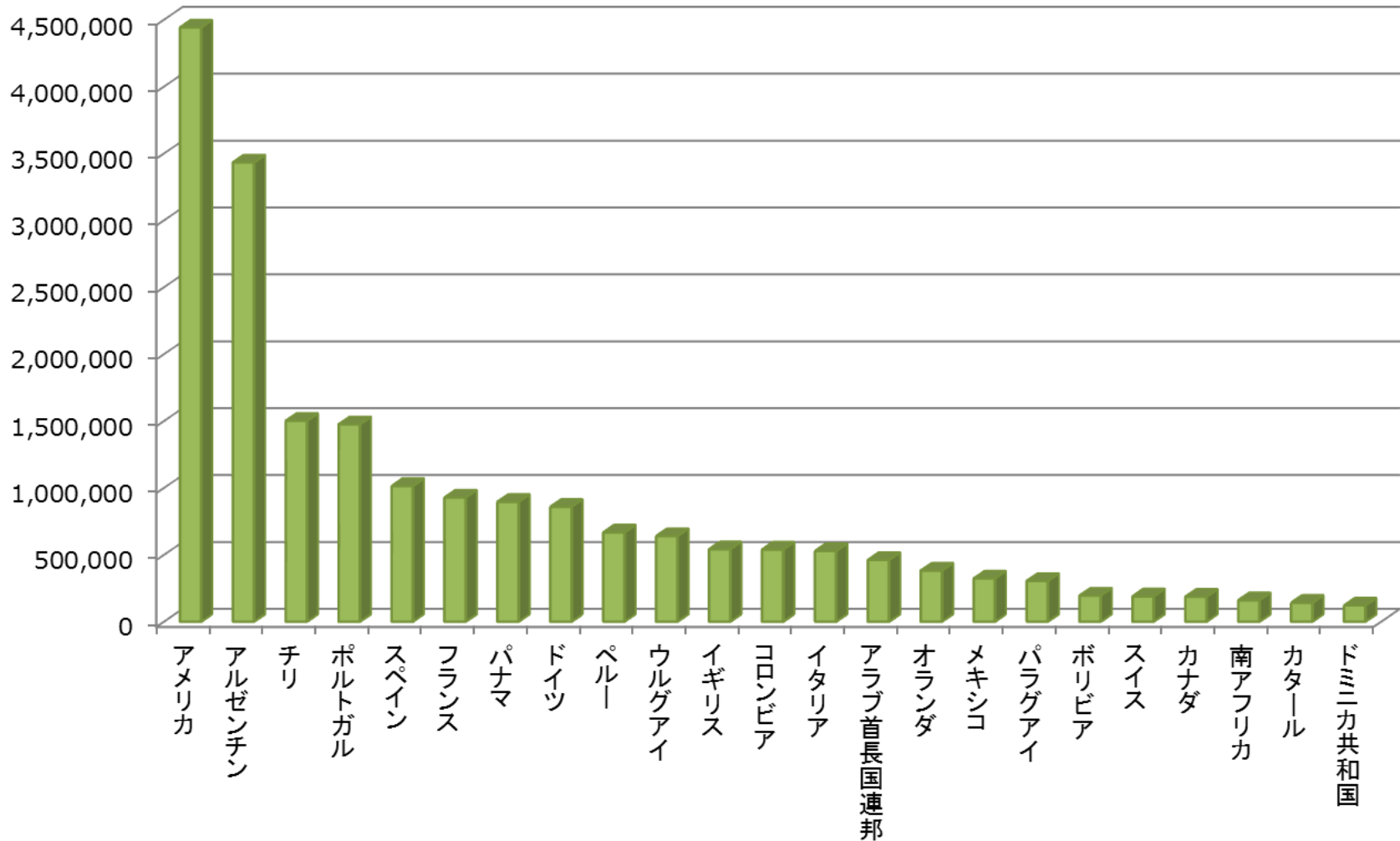
順位	国名 (ブラジルとの2国間)	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)	シェア (%)
1	アメリカ	4,441,234	12,135	21.2
2	アルゼンチン	3,431,994	9,377	16.4
3	チリ	1,500,888	4,101	7.2
4	ポルトガル	1,474,704	4,029	7.0
5	スペイン	1,013,071	2,768	4.8
6	フランス	927,829	2,535	4.4
7	パナマ	895,434	2,447	4.3
8	ドイツ	857,896	2,344	4.1
9	ペルー	667,318	1,823	3.2
10	ウルグアイ	639,046	1,746	3.1
11	イギリス	540,882	1,478	2.6
12	コロンビア	538,773	1,472	2.6
13	イタリア	527,082	1,440	2.5
14	アラブ首長国連邦	460,947	1,259	2.2
15	オランダ	381,118	1,041	1.8
16	メキシコ	322,467	881	1.5
17	パラグアイ	303,587	829	1.5
18	ボリビア	194,259	531	0.9
19	スイス	188,834	516	0.9
20	カナダ	186,376	509	0.9
21	南アフリカ	159,764	437	0.8
22	カタール	140,997	385	0.7
23	ドミニカ共和国	121,590	332	0.6

<コメント>

- 米国との2国間の航空需要が圧倒的に多く、全体の21.2%を占めている。
- 移民政策等の歴史的背景から、欧州諸国との旅客流動は大きい。

航空旅客業界（資料 国際線）

参考：ブラジルとの2国間の輸送実績（2016年版、年間10万人以上）



データ元: ANAC

航空旅客業界（資料 国際線）

参考：国際都市間輸送実績（2016年版、年間20万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝ブエノスアイレス	1,679,925	4,590
2	サンパウロ＝サンティアゴ	1,100,770	3,008
3	サンパウロ＝マイアミ	1,035,155	2,828
4	リオデジャネイロ＝ブエノスアイレス	756,487	2,067
5	サンパウロ＝ニューヨーク	680,120	1,858
6	サンパウロ＝マドリード	659,889	1,803
7	サンパウロ＝パリ	575,726	1,573
8	サンパウロ＝オランダ	517,812	1,415
9	サンパウロ＝フランクフルト	454,629	1,242
10	サンパウロ＝ボゴタ	444,946	1,216
11	サンパウロ＝モンテビデオ	440,183	1,203
12	サンパウロ＝リマ	436,924	1,194
13	サンパウロ＝ロンドン	410,833	1,122
14	サンパウロ＝パナマ	407,053	1,112
15	リオデジャネイロ＝サンティアゴ	372,573	1,018
16	サンパウロ＝リスボン	356,766	975
17	リオデジャネイロ＝パリ	307,462	840
18	サンパウロ＝メキシコシティ	304,534	832
19	サンパウロ＝アスンシオン	295,634	808
20	リオデジャネイロ＝マイアミ	289,063	790
21	リオデジャネイロ＝リスボン	246,816	674
22	リオデジャネイロ＝ニューヨーク	235,515	643
23	サンパウロ＝アムステルダム	223,938	612
24	リオデジャネイロ＝フランクフルト	215,671	589

<コメント>

- ▶ サンパウロ＝ブエノスアイレス間は、年間約1,680千人が利用しており、南米域内で最大の高需要路線である。
- ▶ オリパラ開催の影響で、リオデジャネイロ発着南米路線の旅客数は増えたが、同空港発着の北米・欧州路線は昨年より旅客数が概ね減少した。
- ▶ ブラジル人にとって、米国マイアミは非常に人気が高く、特に富裕層はマイアミのリゾートホテルや別荘で休日をご過ごしして買物を楽しむ傾向にあり、利用旅客の大半が観光目的である。

(注)

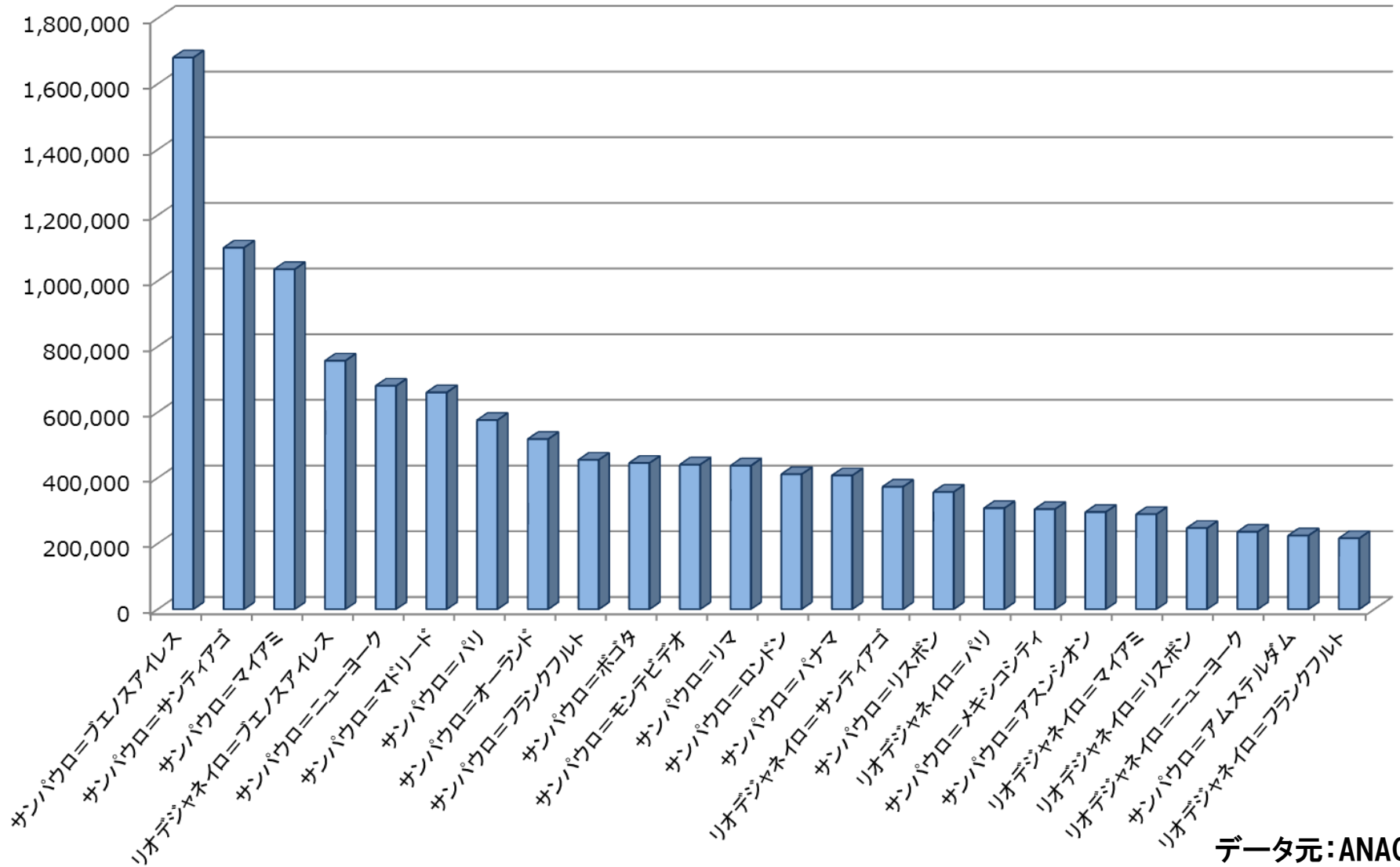
サンパウロ …… グアリュウリオス空港、ヴィラコッポス空港
 ブエノスアイレス… エセイサ空港、ホルヘ・ニューベリー空港
 マイアミ …… マイアミ空港、フォートローダーデール空港
 ニューヨーク …… JFK空港、ニューアーク空港

データ元：ANAC

航空旅客業界（資料 国際線）

参考：国際都市間輸送実績（2016年版、年間20万人以上）

単位：人



データ元：ANAC

航空旅客業界（資料 国内線）

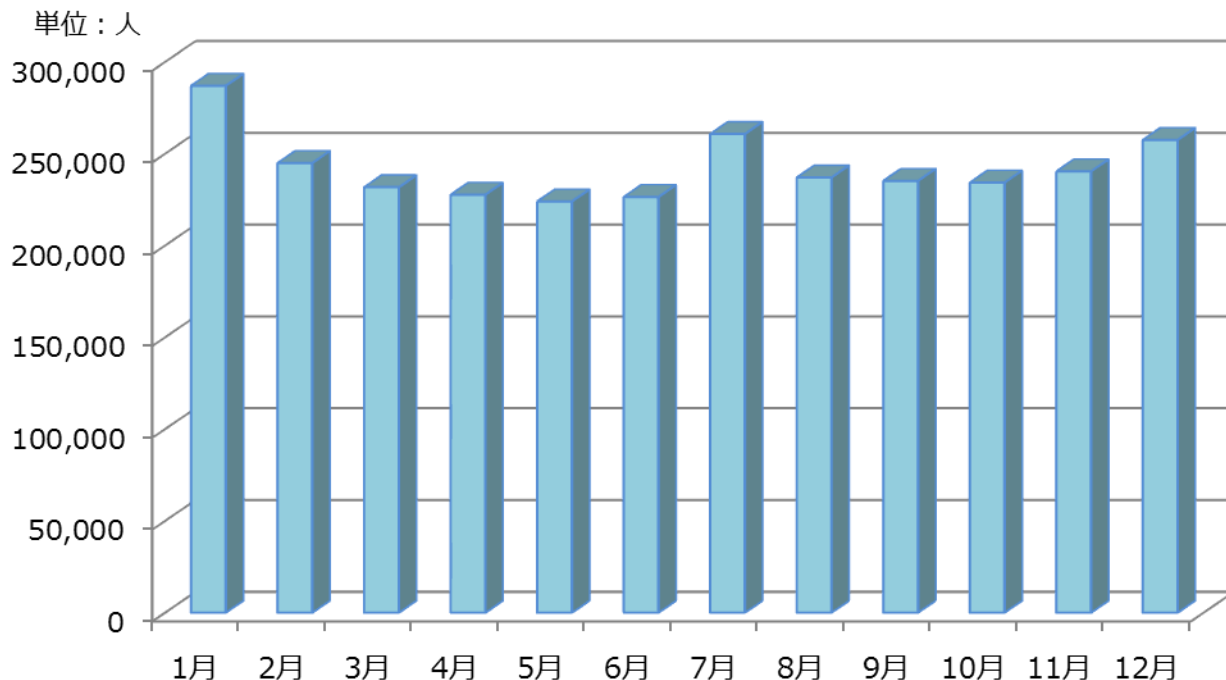
参考：ブラジル国内線の月別輸送実績（2016年版、一日当たり）

月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	8,895,722	286,959
2月	7,103,127	244,935
3月	7,182,886	231,706
4月	6,828,657	227,622
5月	6,942,869	223,964
6月	6,792,530	226,418
7月	8,082,396	260,722
8月	7,347,347	237,011
9月	7,055,412	235,180
10月	7,261,630	234,246
11月	7,210,604	240,353
12月	7,982,885	257,512
計	88,686,065	242,312

<コメント>

➤ 需要が最も多い月は1月。

➤ 8月と9月は、リオでオリパラが開催されたが、前年と比較してもプラス効果は見られず、むしろ減少した。



データ元：ANAC

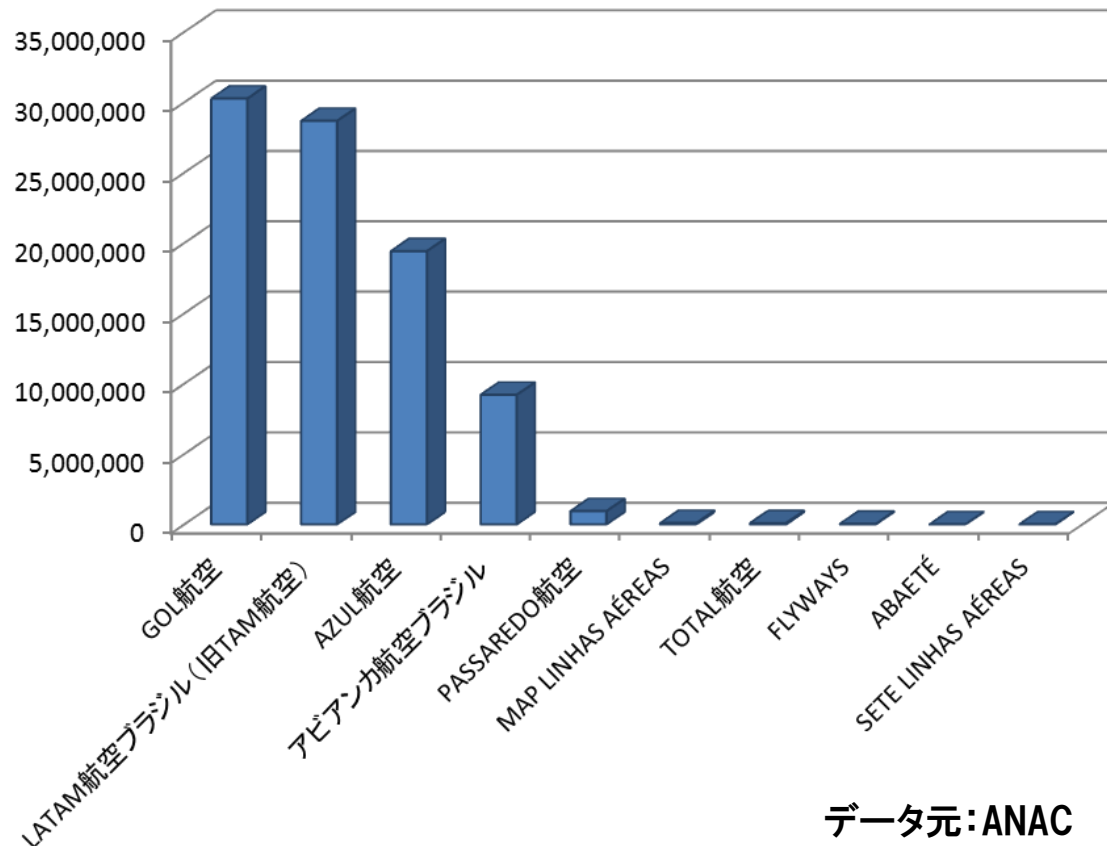
航空旅客業界（資料 国内線）

参考：ブラジル国内線の会社別輸送実績（2016年版）

航空会社	有償旅客数 (人)
GOL航空	30,257,754
LATAM航空ブラジル（旧TAM航空）	28,672,019
AZUL航空	19,414,422
アビアンカ航空ブラジル	9,203,011
PASSAREDO航空	937,157
MAP LINHAS AÉREAS	88,149
TOTAL航空	83,369
FLYWAYS	29,937
ABAETÉ	155
SETE LINHAS AÉREAS	92

<コメント>

- 輸送実績では、GOL航空が最も多いが、LATAM航空ブラジルもほぼ拮抗している。
- 上位4社以外は、主に地域航空会社と不定期航空会社。



データ元：ANAC

航空旅客業界（資料 国内線）

参考：国内都市間輸送実績（2016年版、年間80万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝リオデジャネイロ	8,012,482	21,892
2	サンパウロ＝ポルトアレグレ	4,054,095	11,077
3	ブラジリア＝サンパウロ	3,745,992	10,235
4	サンパウロ＝ベロオリゾンチ	3,523,984	9,628
5	サンパウロ＝クリチバ	3,397,573	9,283
6	サンパウロ＝サルバドール	2,868,709	7,838
7	サンパウロ＝レシフェ	2,372,582	6,482
8	サンパウロ＝フロリアノポリス	2,069,252	5,654
9	ブラジリア＝リオデジャネイロ	1,811,100	4,948
10	サンパウロ＝フォルタレザ	1,741,423	4,758
11	サンパウロ＝ゴイアニア	1,726,276	4,717
12	サンパウロ＝ヴィトリア	1,329,622	3,633
13	リオデジャネイロ＝ベロオリゾンチ	1,263,030	3,451
14	リオデジャネイロ＝ポルトアレグレ	1,225,300	3,348
15	リオデジャネイロ＝サルバドール	1,162,161	3,175
16	サンパウロ＝クイアバ	1,145,105	3,129
17	サンパウロ＝ナヴェガンテス	1,118,755	3,057
18	リオデジャネイロ＝ヴィトリア	979,789	2,677
19	サンパウロ＝カンポグランジ	975,189	2,664
20	サンパウロ＝マセイオ	948,132	2,591
21	サンパウロ＝イグアス	932,802	2,549
22	サンパウロ＝ナタル	865,456	2,365
23	リオデジャネイロ＝クリチバ	840,620	2,297
24	リオデジャネイロ＝レシフェ	835,416	2,283
25	ブラジリア＝ベロオリゾンチ	829,231	2,266
26	ブラジリア＝サルバドール	811,499	2,217

<コメント>

➤ サンパウロ＝リオデジャネイロ間の旅客需要は旺盛で、全国内線の9.0%を占める。1日当たりの旅客数は22千人弱で、日本の東京＝福岡線とほぼ同規模となっている。

*東京＝札幌 8,949千人、東京＝福岡 8,198千人

➤ 上記2都市と、現首都ブラジリア、旧首都サルバドール、ベロオリゾンチ、フォルタレザを結ぶ路線の需要は比較的大きい。

➤ 左表から分かるように、国内線においても、ハブ空港は首都ブラジリアではなくサンパウロとなっている。

(注)

サンパウロ …… ガアリュージュス空港、コンゴニャス空港、ヴィラコッポス空港

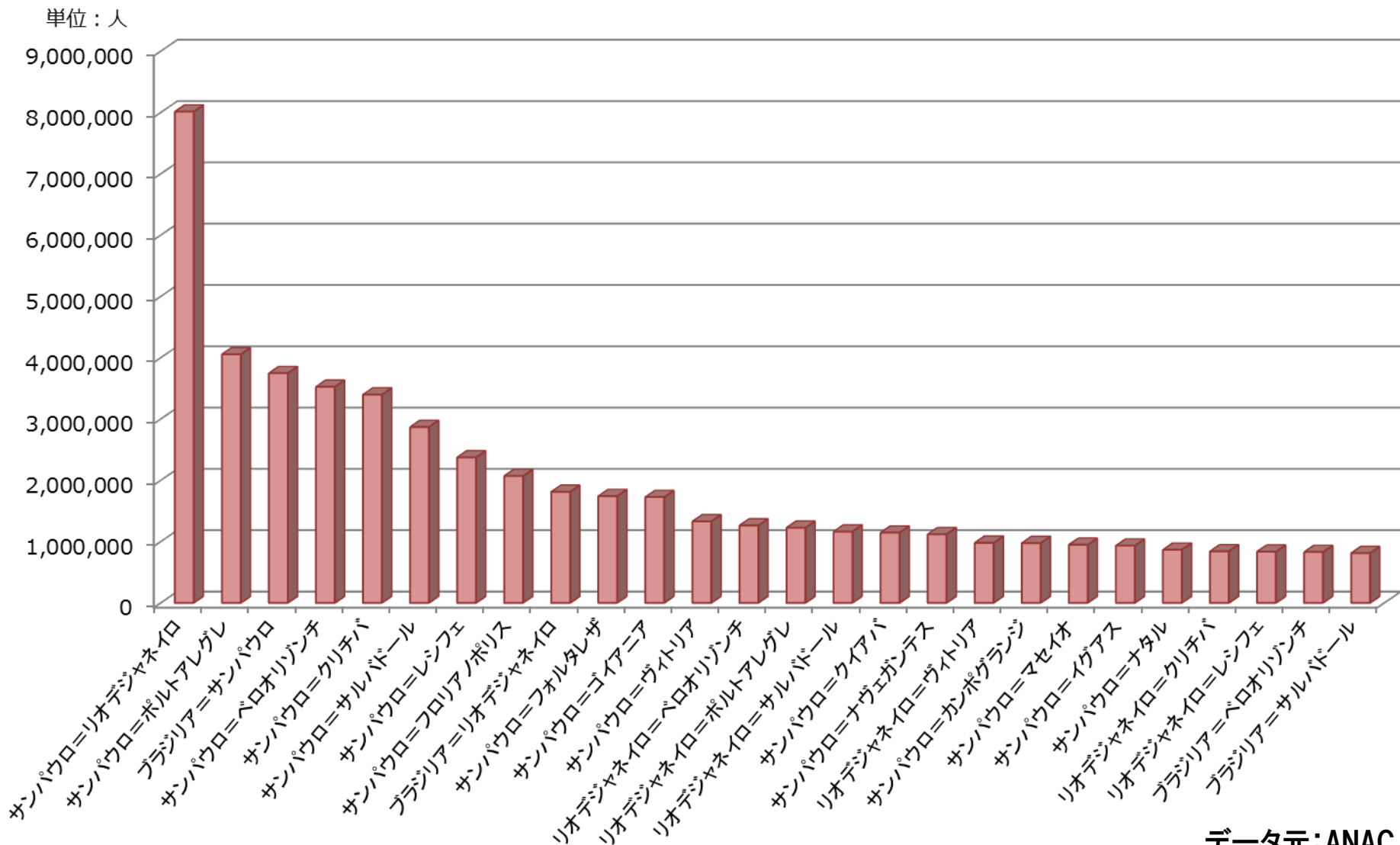
リオデジャネイロ …… ガレオン空港、サントス・ドゥモン空港

ベロオリゾンチ …… コンフィンズ空港、パンプーリャ空港

データ元：ANAC

航空旅客業界（資料 国内線）

参考：国内都市間輸送実績（2016年版、年間80万人以上）



データ元：ANAC

旅行・ホテル業界

2017年上期回顧

	2016第1 四半期		2017年第1 四半期		比較	
	売上高 (千)	発券枚数	売上高 (千)	発券枚数	売上高	発券枚数
国内線航空券	R\$ 892,549	1,618,967	R\$ 1,009,721	1,708,362	+ 13.1%	+ 5.5%
国際線航空券	R\$ 722,665	210,729	R\$ 876,325	254,075	+ 21.3%	+20.6%
国内ホテル		RevPAR* 132.89		RevPAR* 125.86		- 5.3%

2017年下期展望

- 民間航空庁（ANAC）の発表によると国内線・国際線を合わせた**2016年**の年間航空旅客数は**2015年**の**1億1770万人**から**6.9%減**の**1億960万人**にとどまった。年間の航空旅客数が前年を下回るのは**2007年**以降初めてとのこと。**2017年**第一四半期の数字を見ると前年同期比、航空券は国内線、国際線とも改善しているため、**2017年**下期も前年同期比でさらに改善することが見込まれる。
- 国内ホテルはRevPAR（販売可能客室1室あたりの売上を表す値）が**2017年**上期は前年同期比**5.3%**のマイナスだった。昨年の下期はオリンピック・パラリンピックのおかげでリオのRevPARは高かったがその反動で今年下期はリオがさらに大きく落ち込むことが予想されるためブラジル全体の数値も去年を上回ることが期待できない。
- 航空券の販売実績が前年度比プラスとなっているが、旅行代理店は航空券の販売だけが目的でないため、全体的には業績は**2016年**より悪化している。特に、地上手配やパッケージツアーの販売が落ちている。ブラジル経済低迷と著しい治安の悪化により日本からの観光客は衰退の一方であり、景気回復と治安改善がない限り日本からの観光客が増加する見込みはまったくない。
- 2017年3月25日**をもってエティハド航空がサンパウロ路線を廃止した。格安運賃のエティハド航空が撤退したため平均的に日本行運賃が去年より高めとなったが、この傾向は**2017年**下期も続くことが見込まれる。
- 旅行代理店の数が増え（**10年前**はカマラ会員だった旅行代理店は**5社**程度であったが今は**11社**）狭い日系マーケットで些細な手数料や**30日**を超える支払いタームをオファーして顧客を取り合っている現状、旅行代理店の経営はますます厳しくなっており今後、無理な経営により破綻する旅行代理店が出る懸念される。旅行代理店の経営状況を見極めることも大切。

トピックス

- 今まで無料だった飛行機の手荷物の受託荷物が**2017年6月以降**、自由化された。
- 日本政府が日系四世への就労ビザの検討を開始した。
- 日本政府への要望として「日伯間で早く観光査証の免除協定」と「運転免許証についての協定」を締結してほしい。

通信業界（携帯電話・モバイル）

2017年上期回顧

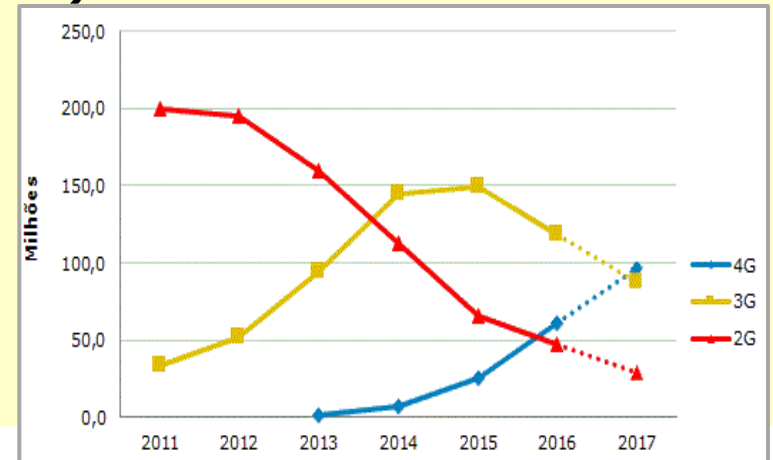
- 全体的な契約者数は、長引く景気低迷の影響に加え、キャリア間の接続料金引下げに伴う複数SIM保有者の減少より、2017年上期で約200万減少した。
- 4G契約数に関しては、2Gと3Gからの移行が順調に進んで、2017年上期で約1,623万増加。ブラジル市場の31%を占める。（表A）

（表A）携帯電話・モバイル契約者数

項目	2017年上期 [単位：万]	前年比
携帯電話契約数（全体）	24,212	▲5.1%
4G (LTE)	7,633	+104%
3G	10,734	▲23.3%
2G	4,099	▲30.3%
データカード等	1,744	▲0.1%

【出典】 Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

（表B）契約者数の推移と2017年度見通し



2017年下期展望

- 4Gへの移行は更に加速し、年内に3Gの契約数を超える見通しである。（表B）
- IoT/M2M（ネットワークに繋がったセンサーやデバイスを用いてデータを解析する仕組み）に関しては、狭帯域・低電力化に対応したNB-IoT (Narrow Band IoT)の運用が開始され、更に普及が進むと見込まれる。
- 会社更生手続きを申請したOi社に関しては、債権者との交渉が継続中。具体的な対処については、2018年にずれ込む見通しである。

通信業界（テレコム・データセンター）

2017年上期回顧

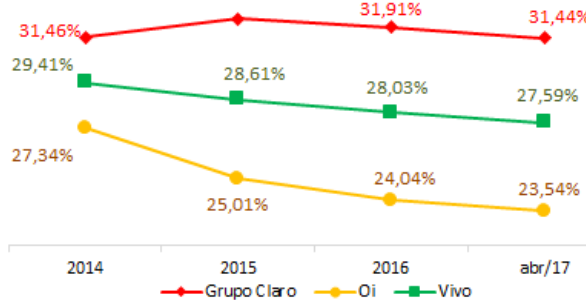
- インターネット普及率： 65% （1億3911万ユーザ）
※合計ユーザ数としては多いが、人口辺りの普及率は周辺国と比べて高くない状況。（表C）
- ブロードバンドのマーケットシェア： NET31.44%、Vivo27.59%、OI23.54%
※ブロードバンドシェアは上位3社（Claro,Vivo,Oi）ともに16年から減少しており、その他事業者が台頭してきている。（表D）
- 固定ブロードバンドアクセス数： 2730万アクセス（2017年3月）※前年から5%の上昇
- 平均通信速度： 6.8Mbps（2017年3月）※前年の1.5倍であり、南米諸国では最も高い。（表E）

（表C）南米各国のインターネット普及率

順位	国名	総人口辺りの普及率	合計ユーザ数
1	エクアドル	81.00%	13,471,736
2	アルゼンチン	78.60%	34,785,206
3	チリ	77.00%	14,108,392
4	ウルグアイ	69.40%	2,400,000
5	ブラジル	65.90%	139,111,185
6	ベネズエラ	57.20%	18,254,349
7	エクアドル	56.00%	13,471,736
参考	日本	94.00%	126,045,211

【出典】 Akamai HP <https://www.akamai.com//>

（表D）ブロードバンドのマーケットシェア



【出典】 IWS HP <http://www.internetworldstats.com/>

（表E）南米各国の平均通信速度

順位	国名	平均速度 (Mbps)
1	ブラジル	6.8
2	アルゼンチン	6.3
3	ペルー	6.2
4	コロンビア	5.5
参考	アメリカ	18.7
参考	日本	20.2

【出典】 Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

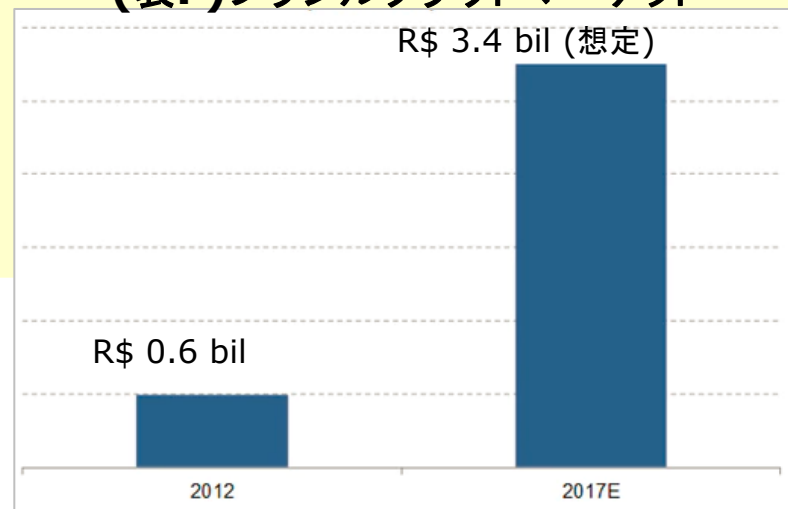
2017年下期展望

- 個人のインターネット利用多角化に加え、ビジネスにおけるインターネット経由でのシステム利用が増加する等引き続き利用者の増加が見込まれる大都市中心部以外での高速化/安定化/低価格化が求められている。
- エリア拡大や、ハイスピード回線の提供が継続的に進むことが想定される。
- 既存利用回線のアップグレードを望むユーザが増えていくことが見込まれる。しかし、大容量データ通信への需要増により、帯域の圧迫による回線安定性のさらなる低下が懸念される。

2017年上期回顧

- サンパウロ・ニューヨーク間をつなぐ海底ケーブルSeabras1の竣工や、無線通信用人工衛星SDGCの打ち上げ成功など改善に繋がる取り組みがあった。
- SaaS（ソフトウェアのクラウド化）サービス利用拡大を背景に、企業の業務用アプリケーションのクラウド化が推し進んだ。
- ITベンチャー企業が外部資本を得て拡大し続けている。特にフィンテック分野（ITを利用した金融商品やサービス）は2017年上期までで240以上まで増加した。

(表F) ブラジルクラウドマーケット



【出典】 アメリカ合衆国商務省 HP
<http://trade.gov/>

2017年下期展望

- クラウドやアウトソーシングなど外部へ、ITプロセスを移管する動きは継続するものと考えられる。
- 2017年度中には、クラウドマーケットがR\$3.4billionまで伸びる見込みである。(表F)
- クラウド活用の影響により、セキュリティやマネジメントサービスへの需要増が見込まれる。また、一般企業に加えて、サービス提供事業者向けにハイスpekデータセンター、サーバ、高帯域幅インターネットの需要増も見込まれる。

運輸サービス部会主催 セミナー&視察の開催について

ICTトップセミナー

開催：10月19日（木曜日） 開始 15時予定（懇親会もしくはコーヒブレイク込みで3時間程度）

場所： ジャパンハウス、もしくは商工会議所大会議室（調整中）

テーマ（案）①経営視点から考える日本企業の情報セキュリティ

近年、企業の情報セキュリティ意識は急速に高まり、経営課題になっているにも関わらずなぜ情報漏洩事故は繰り返されるのか？ 巧妙な攻撃、脅威を検知し、情報漏洩を防ぐための多重的な対策や、情報漏洩の痕跡を確かめる手法、事故対応チームの組織化など実際の運用事例もご紹介しつつ、具体的な対策をお伝えいたします。

②IoT（Internet of Things：モノのインターネット）最新動向

講師：NTTグループの専門家、エバンジェリスト（合計3名）

竹内 文孝（たけうち ふみたか）

NTTコミュニケーションズ株式会社 経営企画部

マネージドセキュリティサービス推進室 室長 セキュリティ・エバンジェリスト

2001年にNTTコミュニケーションズ株式会社において初となるウイルス対策サービスを開発し、その後同社セキュリティオペレーションセンターを設立。海外グループ会社のPMIプロジェクト参画や、世界共通MSSメニューの開発などを経て、2013年NTTコムセキュリティ株式会社代表取締役社長に就任。現在は、NTTコムのセキュリティサービスブランド『WideAngle』の新サービス開発に従事。セキュリティエバンジェリストの一面も持っており、各種セミナー講師などを務める。



物流施設視察会 11月開催予定 場所 乞うご期待

回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は

＜為すべきことはなにか＞

- ・ 最低限の機能を残した組織を維持し、品質・キャッシュフローの悪化を防ぎ景気回復を待つ。
- ・ 先への投資能力があれば、システムの強化、社員教育への投資を行う。
- ・ 労働法改正にともなうコスト削減策への一手を検討、採用を行う。
- ・ モバイルを活用した新たな商品やサイバーセキュリティー関連のサービス等の開発による新市場の創出を行う。※セミナー開催予定あり
- ・ 魅力的な商品を創出し需要喚起を行う。
- ・ 日系移民110周年に向けた、経済だけでなく文化・スポーツ・芸術等への様々な分野でのブラジル＝日本間の交流活発化と相互理解を高める。
- ・ ブラジルへの旅行者呼び込みの為、査証相互免除協定の締結、運転免許証に係る協定の締結を行うよう働きかける。
- ・ 国際法にならって標準化を進めるように促していく。(税制簡素化、シスコセルビ等々)

ご清聴有難う御座いました。



運輸サービス部会一同

建設不動産 部会

奥地 正敏 部会長

Departamento de Construção e Imobiliária

Presidente: Masatoshi Okuchi

建設不動産部会

2017年上期の回顧と下期の展望

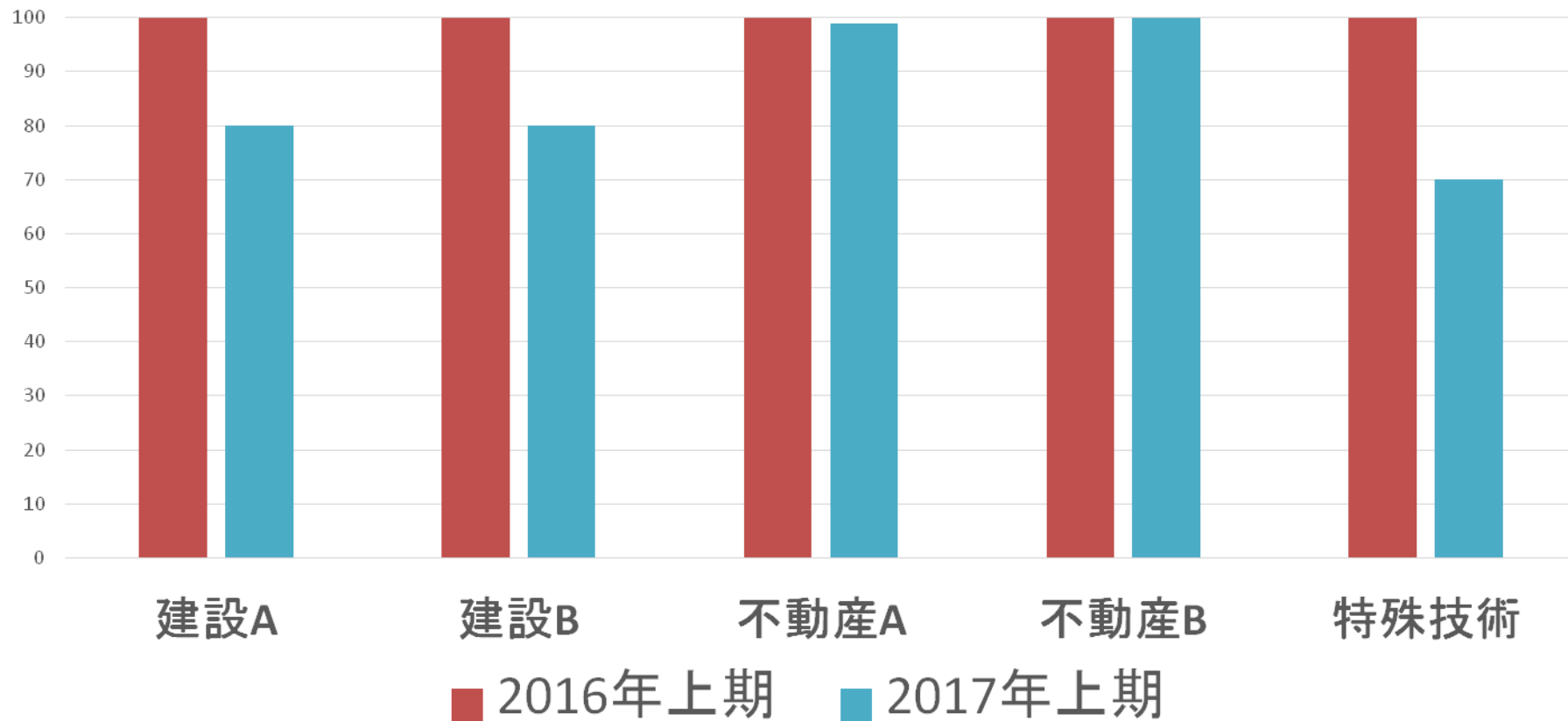
～回復途上のブラジル経済ーいま打つべき戦略は～

1. 部会内の動向
2. 建設不動産市場の現状
3. 現状打開に向けて
4. 日本技術導入例

1. 部会内の現状

アンケート結果

業績



1. 部会内の現状

上期の特徴

課題

建設

製造業の設備投資抑制傾向続く
工事の小規模化、受注競争の激化



価格競争力の向上
付加価値で差別化

不動産

駐在員減(家族帯同減)、賃料底打ち感
工場用地、レンタルの相談件数は微増



新事業の準備
受注クロージング

特殊
技術

インフラ関連の公共事業が停滞
工事規模の縮小



公共事業の再開
建築補修工事増

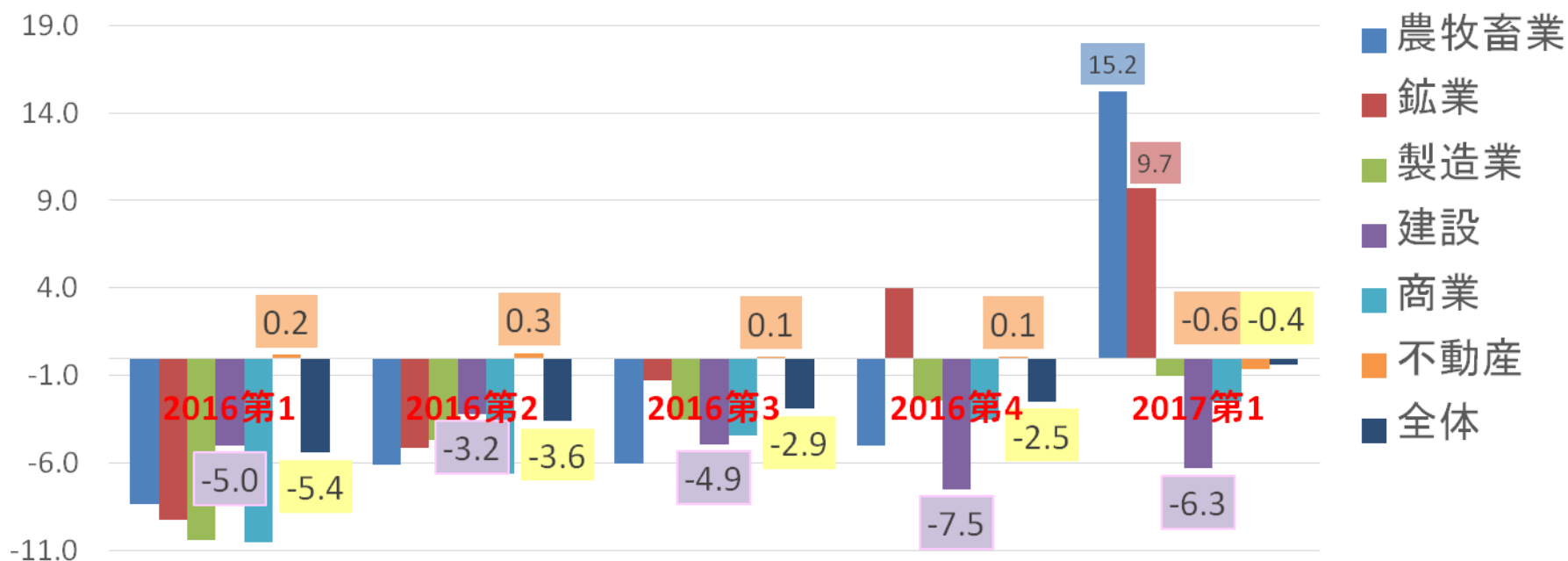
2. 建設不動産市場の現状



FONTE: IBGE

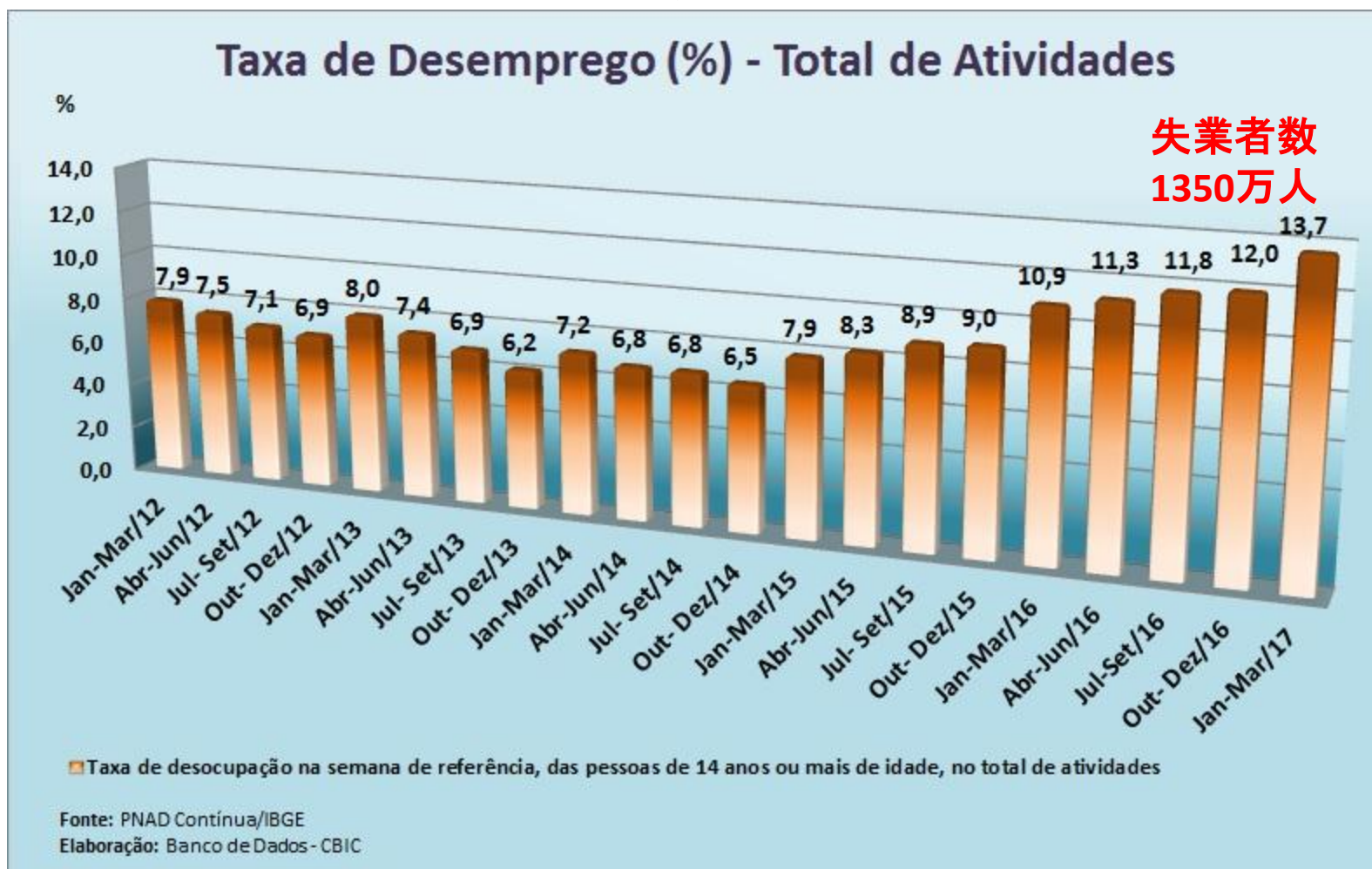
2. 建設不動産市場の現状

産業別GDP成長率 (前年同期比)

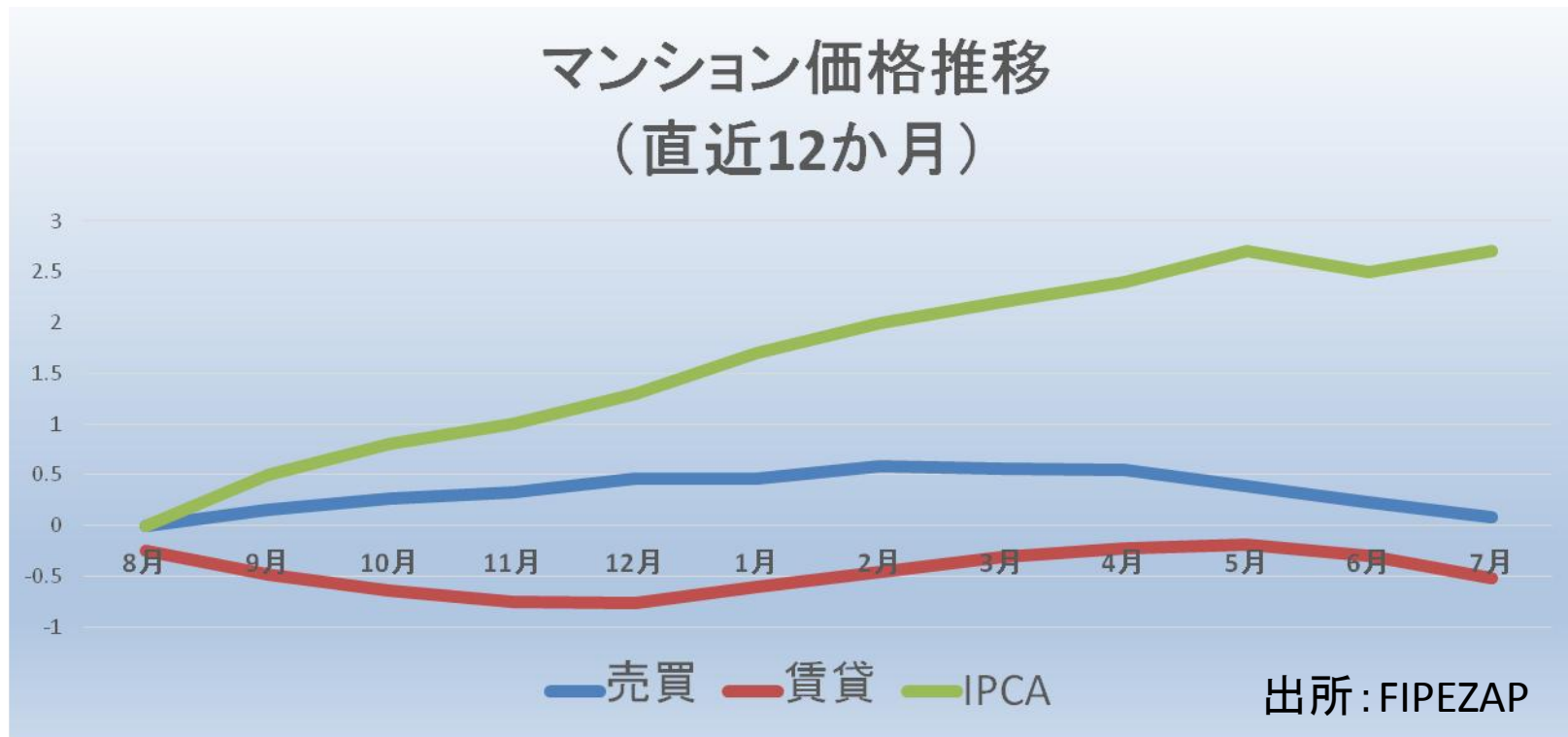


2. 建設不動産市場の現状

全体失業率



2. 建設不動産市場の現状



売買: 0.08%

賃貸: -0.52%

IPCA(参考): 2.71%

3. 現状打開に向けて

日本企業が打つべき戦略

1. コスト低減努力

2. ローカル競合他社との差別化

※日本企業ならではの品質・納期・アフターサービス保証

3. ブラジル企業の新規顧客開拓

4. ライフサイクルでのコスト提案

5. 日本技術のブラジルへの展開

4. 日本技術導入例 (CGC)

地盤改良技術(薬液注入、JETGROUT)

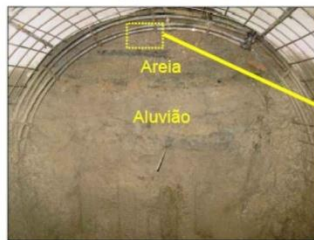
薬液注入の実績



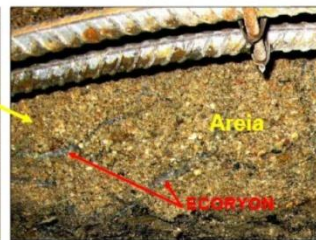
薬液注入 施工状況



薬液のゲル(固結)状況
(数秒から数時間まで観察可能)



トンネル切羽(掘削面)の注入効果



JETGROUTの実績



ジェットグラウト施工状況



地上での高圧ジェット噴射テスト



建物内でのジェットグラウト施工



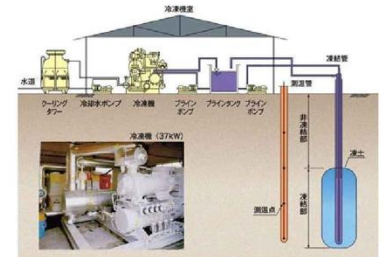
ジェットグラウト施工出来形(φ2.3m)

凍結工法

凍結工法(IceLock)の導入(今後の課題)



地上部の配管



管理システム



地下の凍土掘削



露出させた凍土

凍結工法の特徴

何も加えず地盤を凍結させる工法ですので、土壌や地下水を汚染することなく、産業廃棄物の発生は皆無です。

凍結工法使用後は、解冻することによりその機能を終了させ、元に戻すことができることから、環境にやさしい工法です。

凍土は改良強度が大きく、信頼性が高く、大深度・大断面工事で採用できます。

粘性土や砂質土はもちろん、固結工法では効果が期待しにくい礫質土や腐植土でも所定の強度が確実に得られます。

凍土は鉄やコンクリートともしっかりと付着するため密着性が良好です。

凍土は不透水性なので、完全な遮水壁となります。

凍結管は鉛直・水平・放射とすべての方向に埋設可能であり、必要な個所に限定した施工ができます。



CGCは地下のエンジニアとして
地下水や軟弱地盤の問題を解決します!

4. 日本技術導入例（三菱電機）

Japan House & Mitsubishi Electric



空調設備



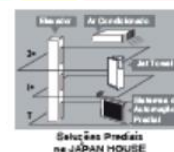
エレベーター



ハンドドライヤ



省エネBMS



A JAPAN HOUSE, a mais nova casa de cultura e tecnologia japonesa no Brasil, escolheu as soluções prediais Mitsubishi Electric (ar condicionado, sistemas de automação predial, elevadores e secadores de mão jet towel), criando ambientes extremamente agradáveis para seus visitantes com alto nível de economia de energia. Espere grandes realizações da Mitsubishi Electric no Brasil. Através de inovação contínua, juntos, estamos criando uma melhor qualidade de vida.

br.mitsubishielectric.com

Sistemas de Tergate Elevadores e Escadas Rolantes Sistemas de Ar Condicionado Soluções de Automação Industrial Equipamentos Autômatos

Juntos, criando uma melhor qualidade de vida

4. 日本技術導入例 (アズビル)

ブラジルの省エネルギー・安全安心に貢献

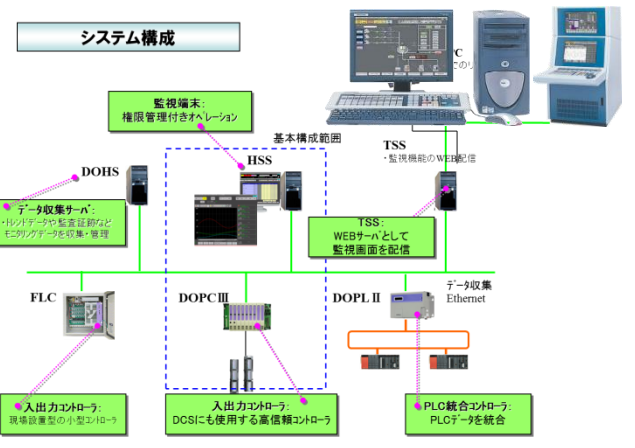


工場全体で
現場で

<工場全体のエネルギー監視 (BMS)>

【見えるからダイエットできる!】

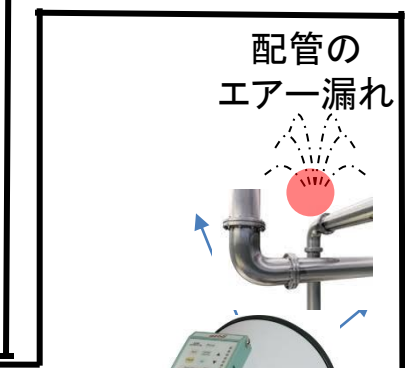
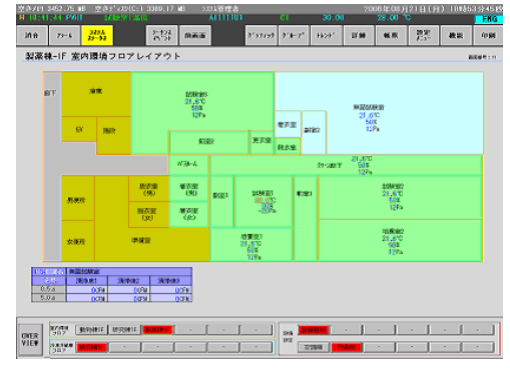
BMS: Building Management system



<医薬品工場対応空調制御・監視システム (HVAC)>

【FDA対応: 21 CFR-Part(コンピュータバリデーション)】

医薬品工場の製造環境保証を支援します。
(データの改ざん防止、操作履歴、etc)



<省エネ貢献する計測・制御>

40年も使ってる 省エネタイプ 1台で多機能

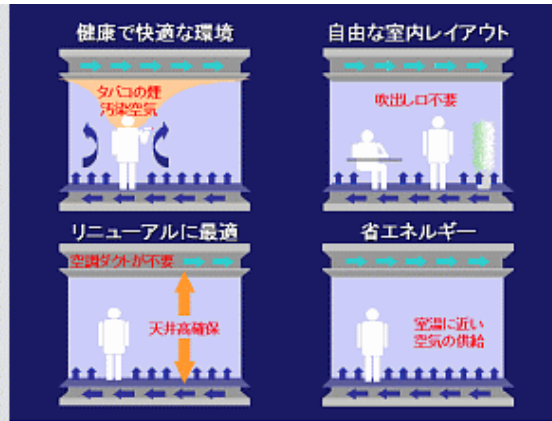
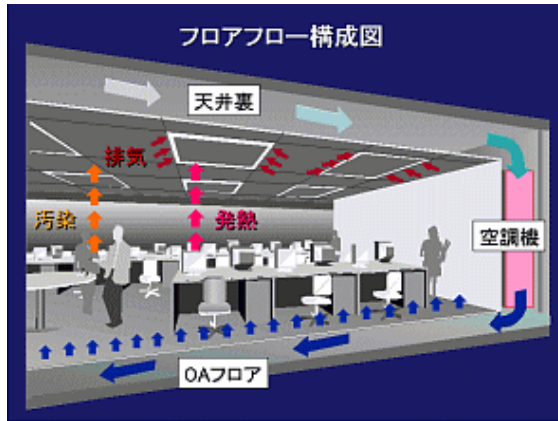


<空気の無駄を無くす。(ガス漏れも)>

空気はタダだと思われていますが、
配管から10~40%は漏れています。
空気を運ぶために大きなコストが掛かっています。
見えない空気の漏れを超音波で見つけます。



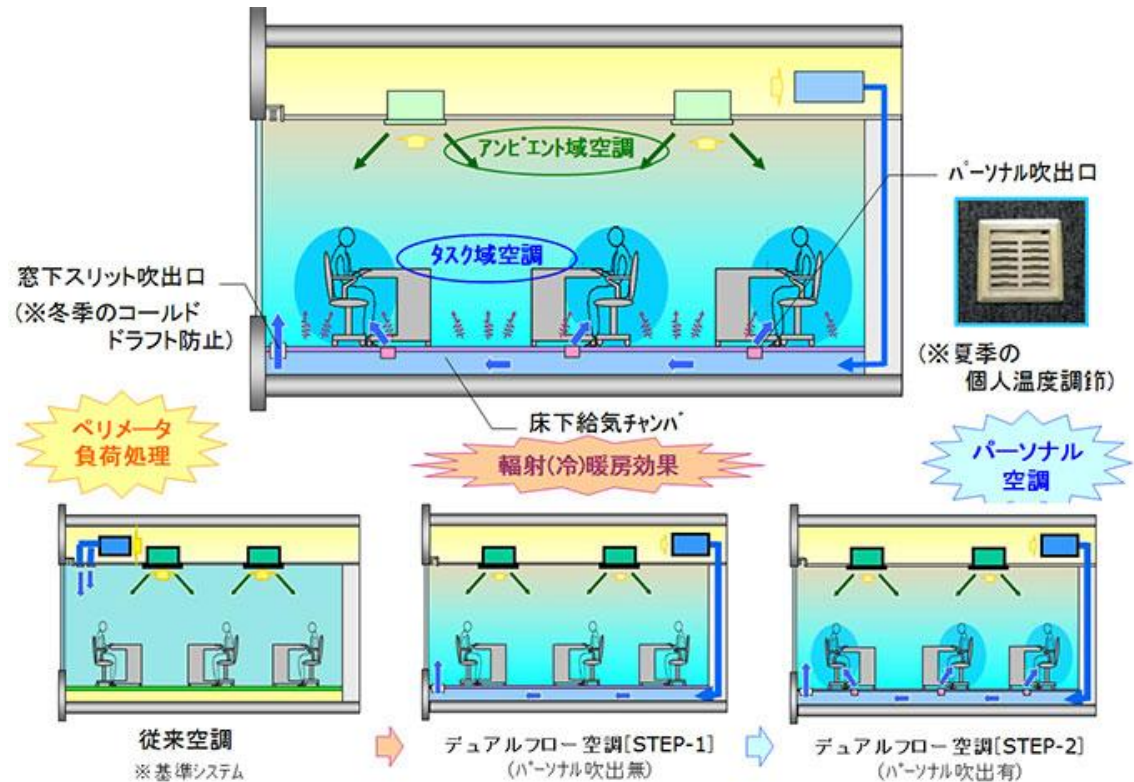
4. 日本技術導入例 (HOSS建設)



「タスク&アンビエント空調」で省エネ実現

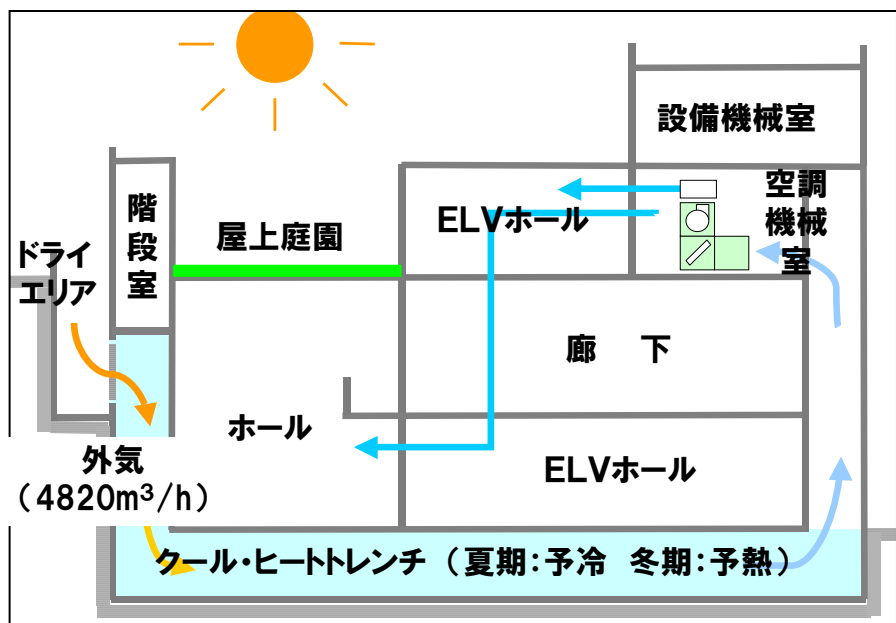
全面床吹出空調

「天井吹出し」+「床吹出し」で
快適さも2倍！

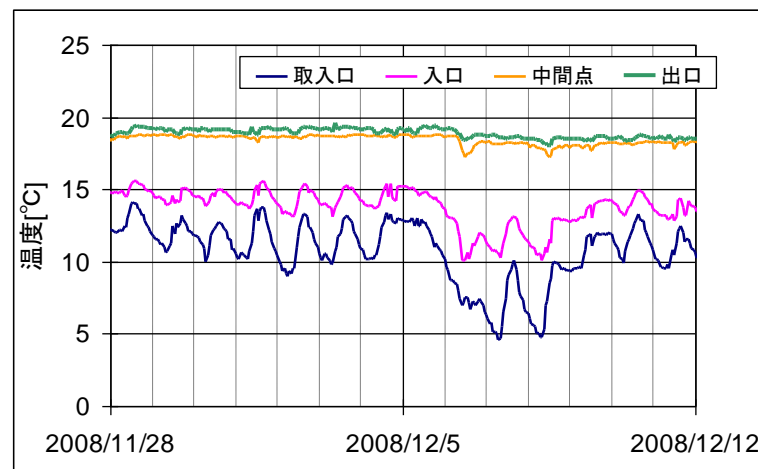


4. 日本技術導入例 (戸田建設)

省エネ空調技術 「クール・ヒートトレンチ」



イメージ



実証実験結果



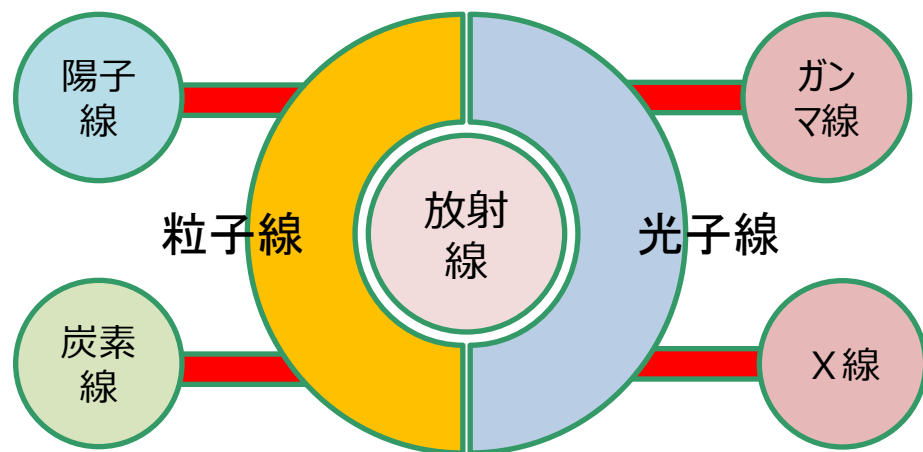
トレンチ内部

4. 日本技術導入例（戸田建設）

粒子線治療施設



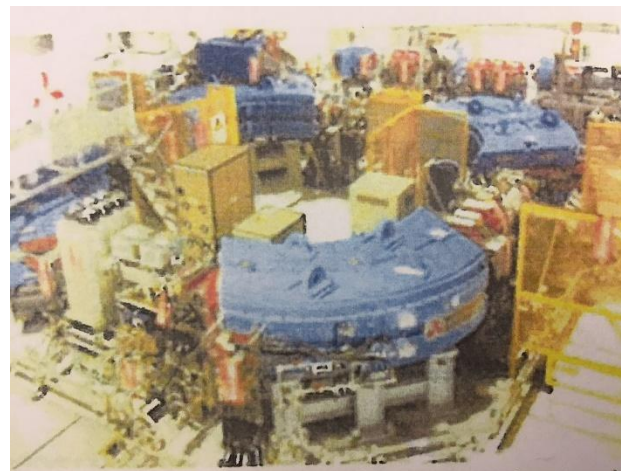
放射線の種類



粒子線治療で利用される放射線

従来の治療法として広く採用されている放射線

粒子線治療においては重い原子核を加速して照射するため、加速器(シンクロトロン)等の装置が大掛かりとなり、放射線を遮蔽する構造躯体も大きくなる



加速器(シンクロトロン)



回転ガントリー

4. 日本技術導入例 (戸田建設)

粒子線治療施設 施工事例

小児がんに重点を置いた新粒子線治療施設

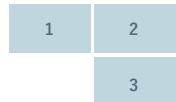


発注者： 建 兵庫県神戸市中央区
 築場所： 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造数： 地上4階 / 地下1階
 種 業： 抗基礎
 平均GLより19.70m ガントリー照射室： 2室...陽子線治療2015年10月~2017年8月(予定)
 3,050.44㎡
 1,911.62㎡

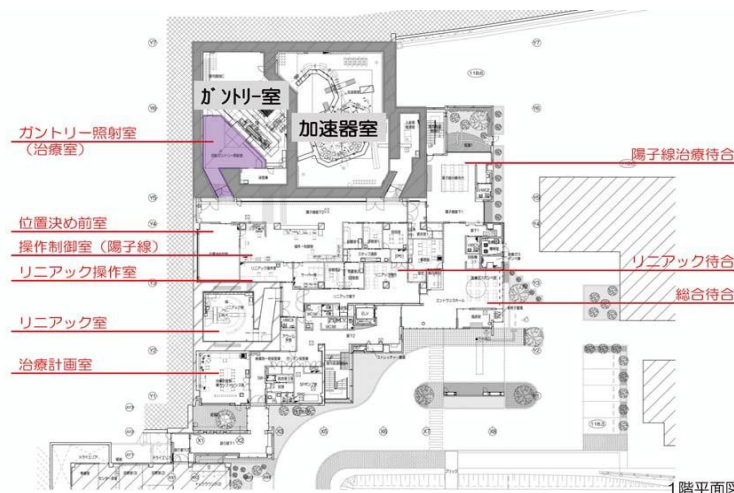
建築物高さ： 施 4階 817.22㎡
 設 概要： 工 3階 1,629.49㎡
 期： 2階 1,500.58㎡
 敷地面積： 建 1階 1,460.68㎡
 築面積： 延床 地下1階
 面積： 346.50㎡計
 5,754.47㎡

建物の特徴： 小児がん患者に対し、粒子線治療を行う最先端治療施設。1機の加速器から2つの治療室に照射が可能。

断面図



- 1： エントランスホール待合
- 2： 陽子線治療待合
- 3： 陽子線治療室



1階平面図

ご清聴ありがとうございました

繊維 部会

豊田 明生 部会長

Departamento de Fiação e Tecelagem

Presidente: Akio Toyoda

2017年8月24日

2017 年上期の回顧と下期の展望

回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は

繊維部会

ユニチカブラジル

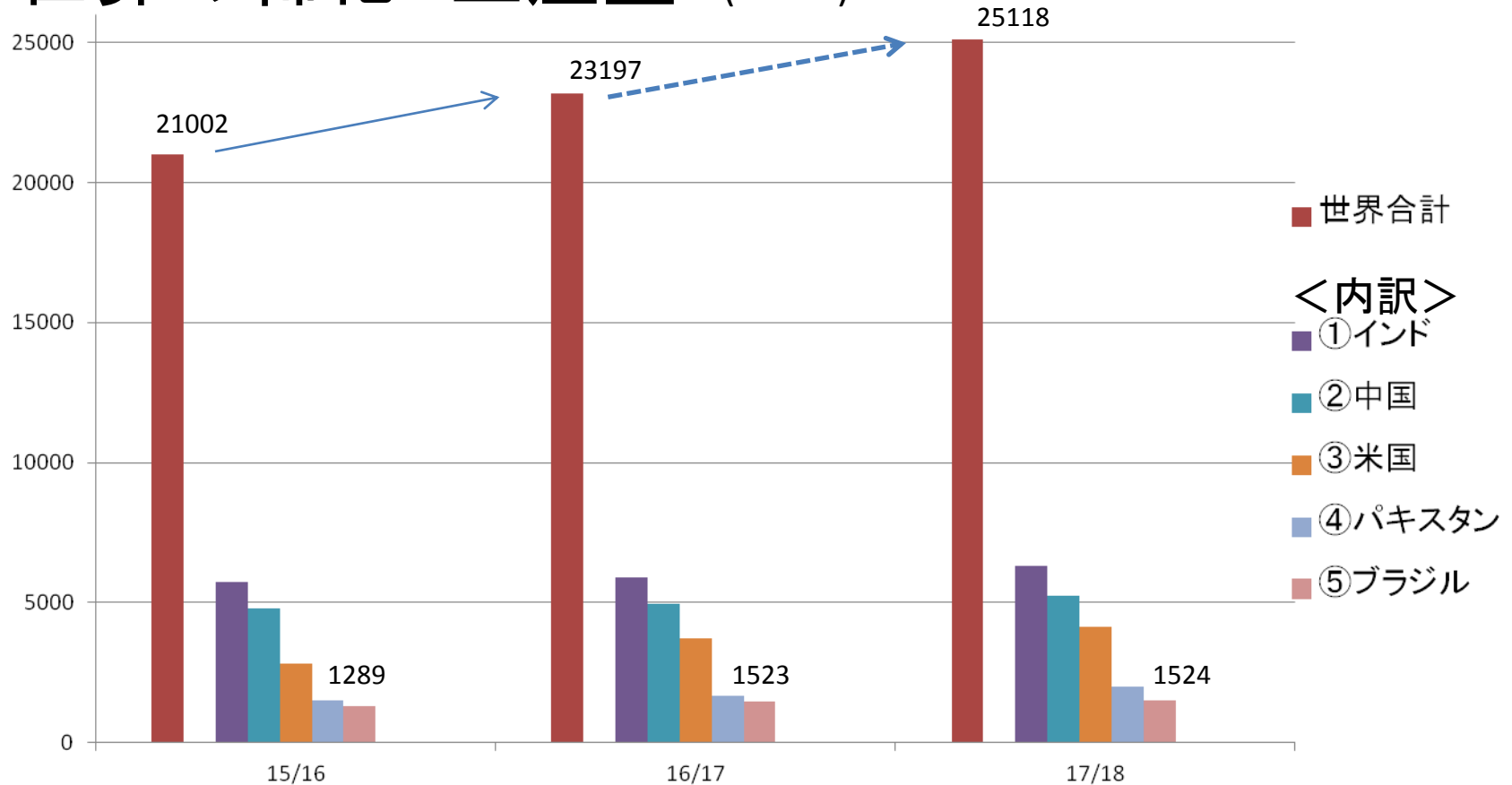
豊田明生

原料(綿花)



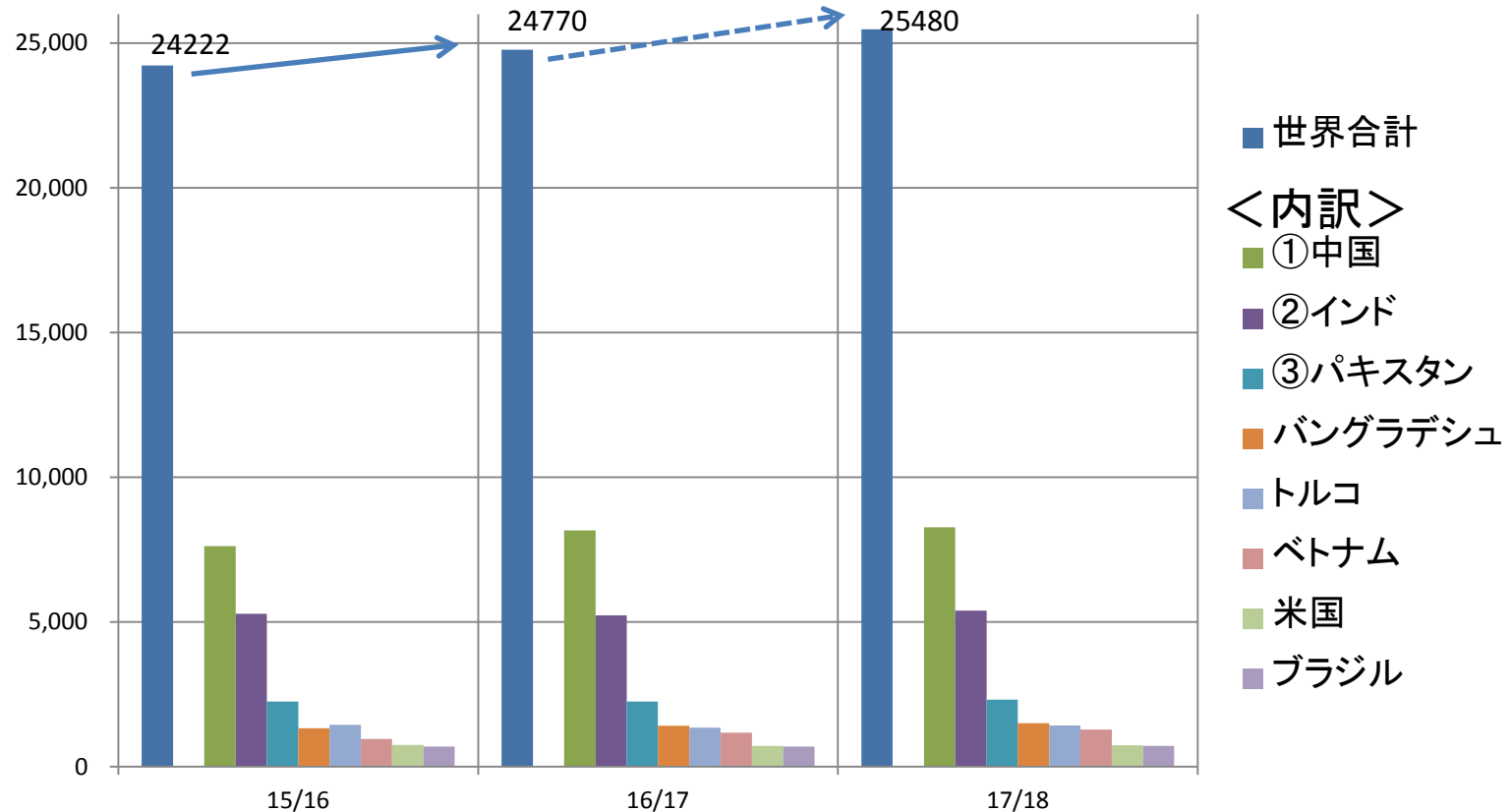
ブラジル マットグロソ州

世界の綿花 生産量 (1000t)



綿花生産①インド②中国③米国④パキスタン⑤ブラジル
順位は不動。全て安定的に増加中。

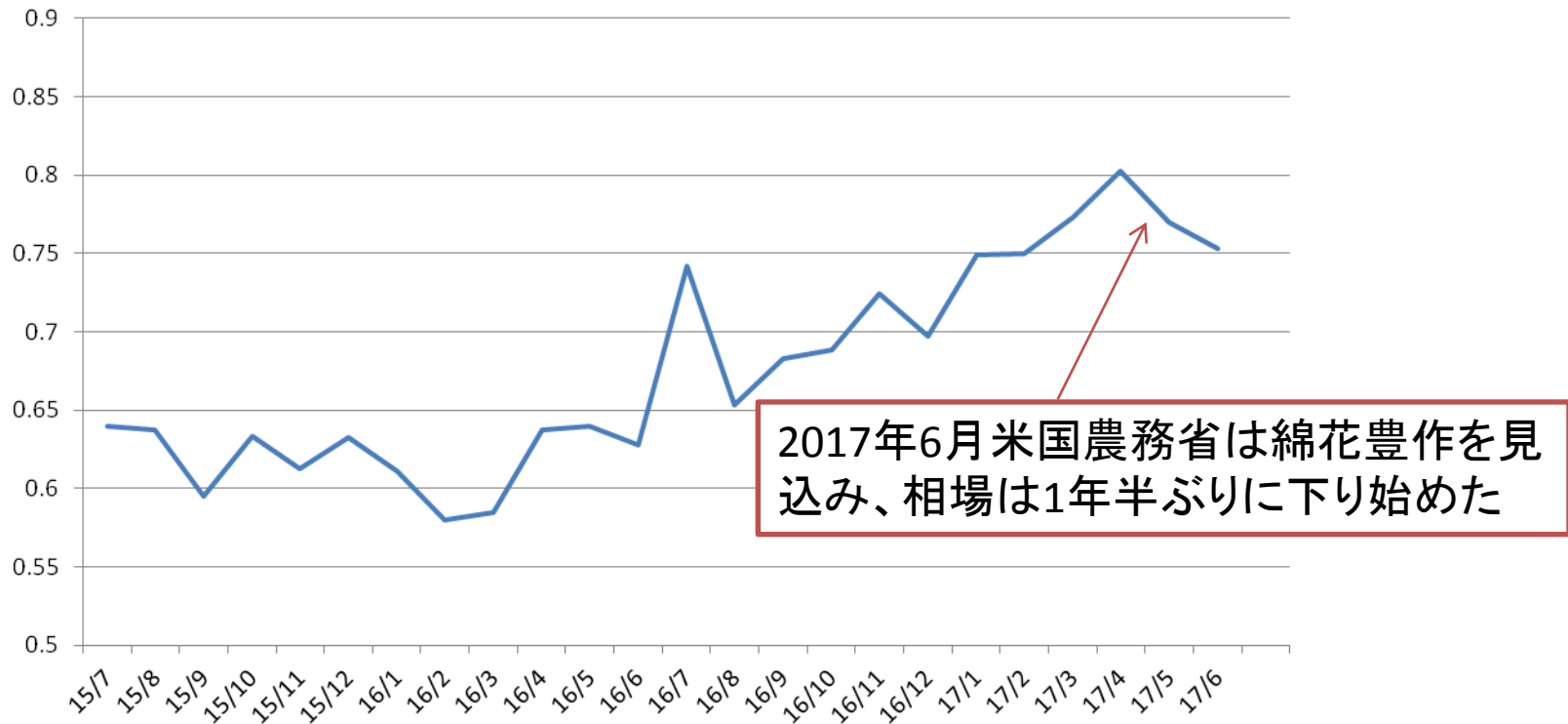
世界の綿花 消費量≒生産量 (1000t)



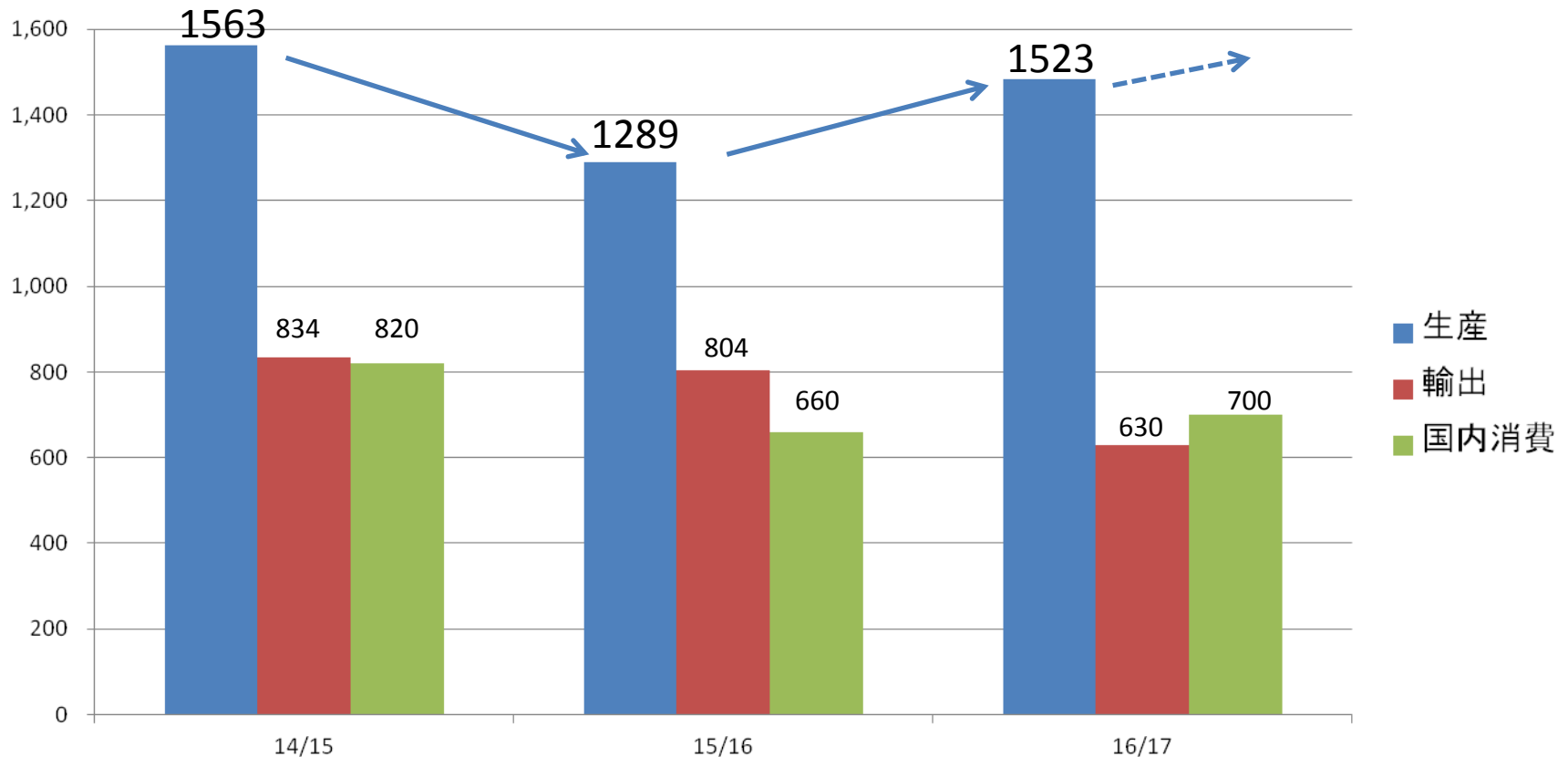
①中国②インド③パキスタン。

綿花生産のないバングラデッシュ、ベトナムが近年急増。(繊維加工基地化)

<NY定期相場> 綿花価格は上昇続いた(US\$/Lb)

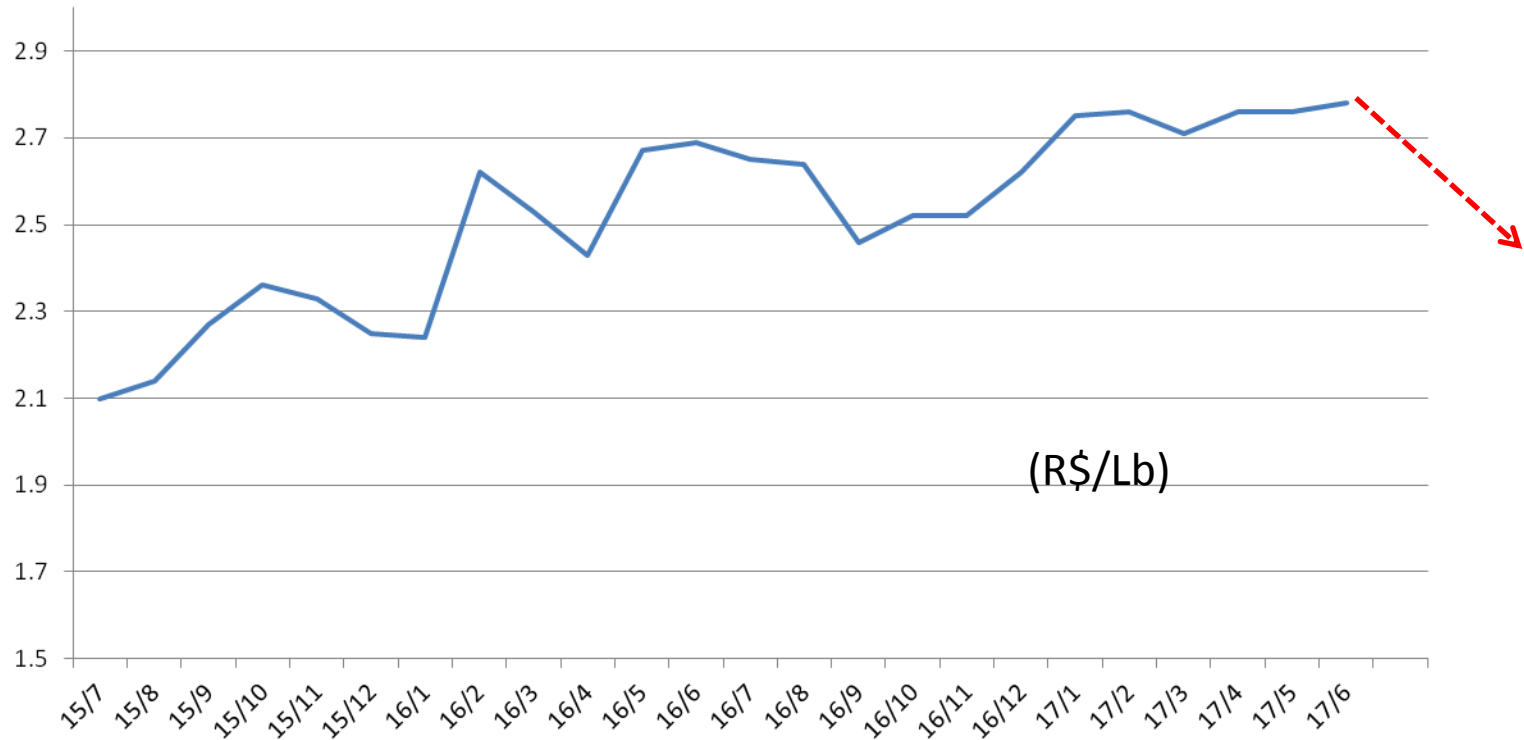


＜ブラジル国内＞綿花生産・輸出・国内消費(1000t)



2016年は生産減少、輸出は減少せず国内向け綿花は供給不足に。
2017年は生産回復、リアル高で輸出減少で国内消費向け増加の見込み。

ブラジル国内原綿価格相場推移 (R\$/Lb)

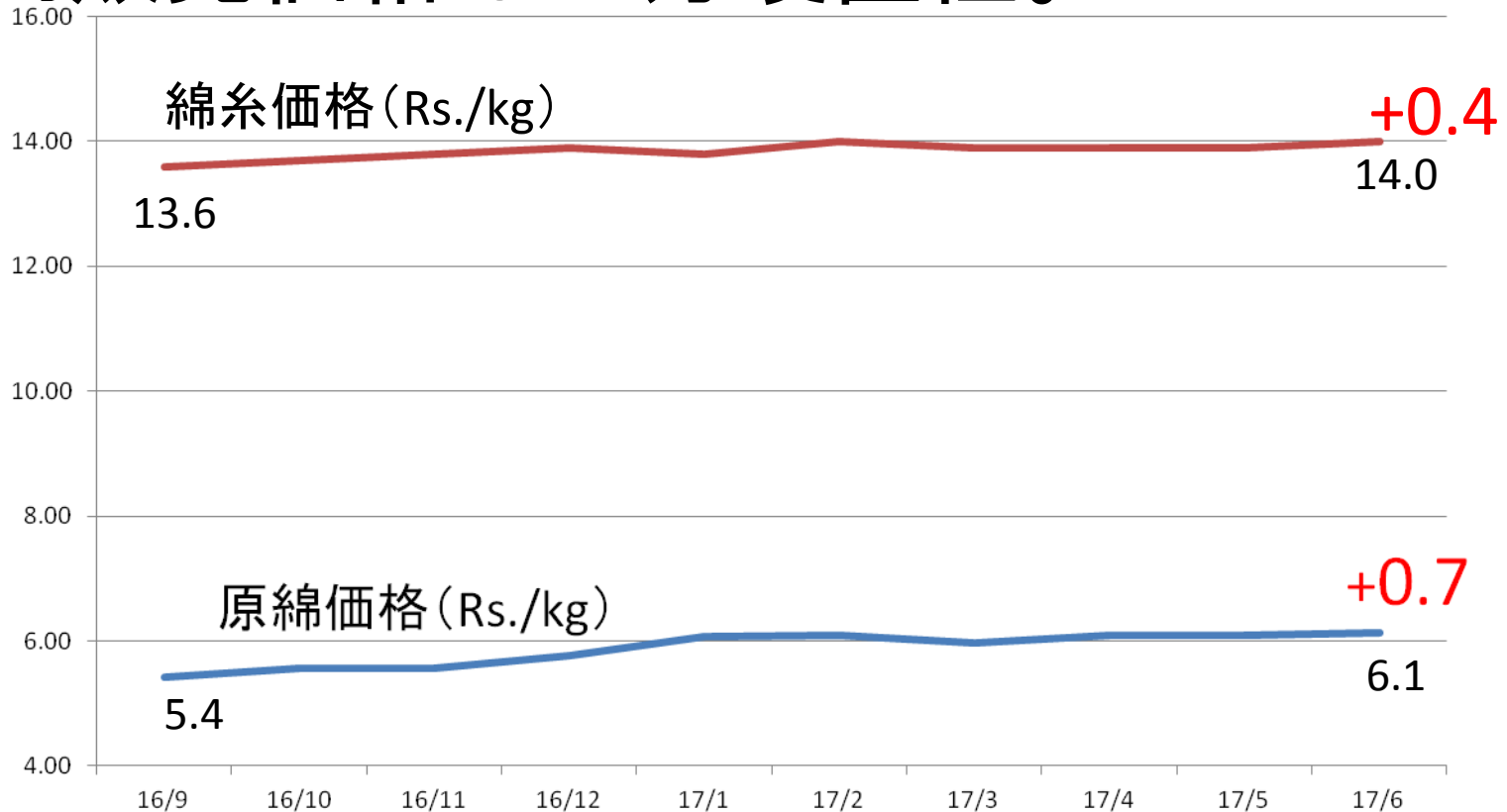


16年は不作及び輸出志向で国内で供給不足。よって年初頭から高留まり。
17年7月から1年半ぶりに適正化へ向かいつつある。

製品(綿糸)

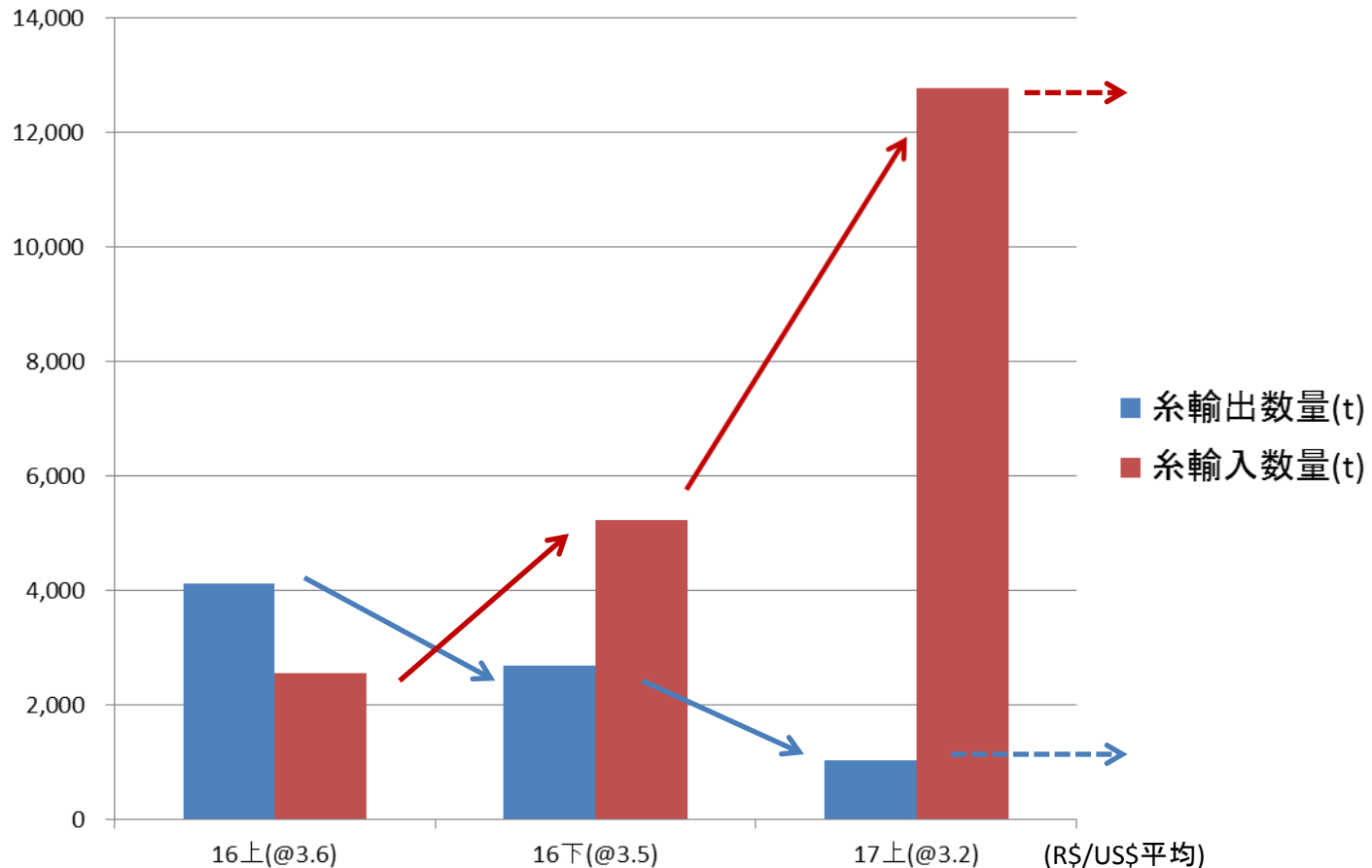


国内販売価格は上方硬直性。



17上期一杯原綿価格は高止まり。不況・輸入競合で糸値に転嫁しきれず。

綿糸輸入は増加中。17下も同様か。

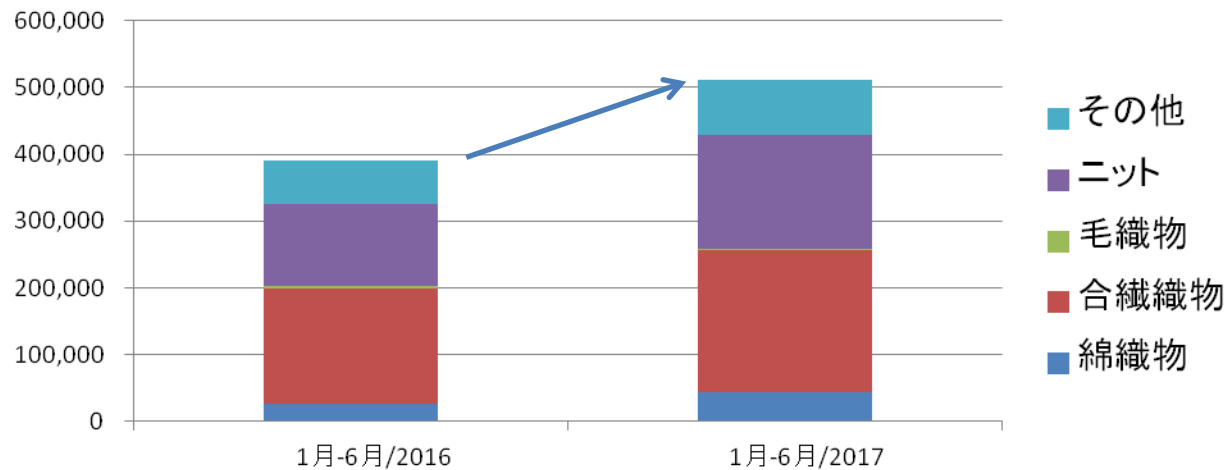


16下、17上共リアル高で、輸出減、輸入増。17下は17上並か。

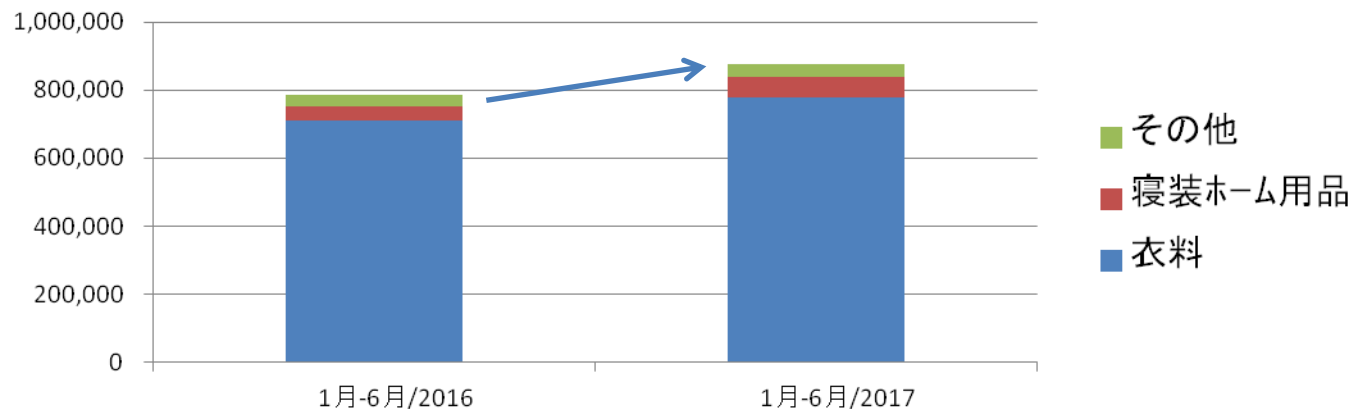
製品(生地・衣料品・用品)



生地輸入も増加中(千USD)



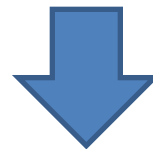
衣料製品輸入も増加中(千USD)



織編物、衣料製品ともに前年同期比、全アイテムで輸入増加、国内産業を圧迫

ブラジル繊維産業

- ① 原料(綿花)を国内で調達でき、
- ② 産業全段階を国内に備え、
(繊維産業150万人は資源転換業態中では食品・飲料に次ぐ規模)
- ③ 2億人消費市場を持つ



恵まれた経済構造

よって1955～日系紡績の進出(60年余の歴史あり)

それなのに・・・

原料(綿花)輸出 + 製品輸入の「中抜き構造」が進む

<ブラジル現状>

→長期的視野で産業を育成できず
コツコツ作るより安価な調達が優先
(国際競争力で劣るコスト、研究開発力)

<労働者の思惑>

→地道に働くより安易な所得。保護政策の悪用。
(労働訴訟、社会保険、補助金への依存)

* 2016年日系紡績6社中、3社が繊維事業撤退。

- 早期の市場回復を願う
- 早期の制度改革を願う
- 可能な自助努力を続ける

いま打つべき戦略

- ・高機能製品での市場開拓
- ・差別化志向メーカーに付加価値品を提案
- ・輸入対抗として有力小売店との一体取組、国産品購買キャンペーン
- ・信頼できる現地パートナーの探索
- ・環境配慮綿製品キャンペーン(Better Cotton Initiative)への参画
- ・日系の強みである、顧客フォロー、正確なデリバリー、品質安定
- ・ブラジル法制に対応する体制構築
- ・継続的コスト削減

2017/8 繊維部会



ユニカ初代マスコットガール風吹ジュン1974

MUITO OBRIGADO

講評/コメント

在サンパウロ日本国総領事館

蛭子 英稔 領事

**Avaliação/Comentário do
Cônsul do Japão em São Paulo**

Hidetoshi Ebisu

閉会の辞

小池 淳介 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral**

Junsuke Koike